

(明治三十一年)

●大演習 大元帥陛下御親統の下に攝河原に於て陸軍大演習を此日より開始(十一月十五日)

●觀艦式行幸 大元帥陛下には午前八時十五分を以て神戸に行幸富士艦に御搭乗あり午前十時十分を以て觀艦式を舉行(十一月十九日)

●御還幸 大演習に行幸ありし 大元帥陛下には午後二時十分新橋驛御着(十一月廿一日)

●關西鐵道修繕 午後三時四十六分關西鐵道笠置驛發の上り列車名古屋に向けて進行中同驛を距る凡十五町の所にて笠置山上より大巖石墜落し四十餘名の負傷者を出す(十一月廿五日)

●本派本願寺大改革 法主大谷光尊は本山の改革を思ひ立ち此日東京を發して歸山す(十二月廿九日)

●瘋癲病院火災 午後五時過東京本郷區田町廿八及び卅番地瘋癲病院加藤照業方に火出し第三病室を焼失し六時十分火し瘋癲病者六名焼死す(十二月二日)

●學位令改正 學位は從來法學博士醫學博士文學博士理學博士工學博士の五種なりしを醫學博士農學博士林學博士獸醫博士を加へ都て九種となる(十二月九日)

●勸業債券償還抽籤 日本勸業銀行にては第一回第二回抽籤金附勸業債券の抽籤を行ふ(十二月十四日)

●南洲鐵道開通式 東京上野公園舊山王臺の西端南洲鐵道開通式 明治廿五年中英鐵道會社の倉庫を破り訴訟印紙十萬餘圓を窃取せし大賊掛谷仲藏等の仲間が東京橋區丸屋町高橋商會手代藤平次郎及埼玉縣吳服商田端喜作の兩者捕縛さる(十二月廿二日)

●北越鐵道全通 北越鐵道會社にては長岡北條間十七哩四十三鐘の運轉を開始し茲に全く春日新田沼垂間運轉しこれにて同鐵道は全通す(十二月廿七日)

貴族院議員なる都落七種の一人なり

◎鈴木重嶺(十一月廿六日) 國學者なり徳川幕府の臣にして伊賀者の家なり初め大之進と稱す勸定吟味役並旗奉行等を歴て佐渡奉行となり兵庫頭に任官す隱居の後田安氏に寄る明治の初濱松縣參事より相川權知事に任ぜらる

◎鈴木松樹(十二月廿四日) 年七十六詩人なり名は元邦字は彦之自ら體松樹と云ふ東洋と號す房州の人なり七曲吟社を淺草向柳原町に開く

◎關聖學(十二月廿一日) 年八十一臨濟宗妙心寺派管長なり

を運うしたる坂本慶次郎此日埼玉縣浦和在にて漸く逮捕さる(二月廿四日)

●著作權法 著作權法公布せらる(三月四日)

●議員處費增加 衆議院を通過したる議員處費增加案は十九票の差を以て貴族院を通過す(三月八日)

●第十三期議會閉會 第十三期帝國議會閉院式行はせらる(三月十日)

●農相足尾行 曾廣農相足尾銅山礦毒被害地を巡視す(三月十二日)

●朝日鐵道水 蘇格蘭クライドバンク會社に於て帝國軍艦朝日の進水式を舉ぐ(三月十三日)

●阪本大火 午後九時下野上郡賀都足尾町字前原より出火焼失戸數百四十五戸に及び翌午前一時鎮火す(三月十四日)

●新博士百一名 文部大臣は修文館に於て松本赤太郎以下百名に博士の學位を授與す(三月廿七日)

●近衛公渡歐 貴族院議長近衛篤磨歐米遊の途に上る(四月一日)

●東京株式取引所落成式 明治廿八年起工したる東京株式取引所は新築全く成り此日落成式を行ふ(四月二日)

●東京外國語學校開校 同校は明治廿九年四月廿二日高等商業學校に附屬として設置せられ此日東京外國語學校と改稱し獨立す翌年七月第一回卒業式を舉ぐ卒業生英佛獨露西語合計四十名(四月四日)

●屬和會議參列 五月十八日和蘭國に開かるべき平和會議參列の爲陸軍大佐上原勇作海軍大佐阪本彪博士有賀長雄出發す(四月十四日)

●非増租運動 東北鐵道大會を仙臺に開く大隈重信之に列す此前後に於て非増租に關し運動する者多し(四月)

◎横田善(一月一日) 年六十八越前の儒者なり諱は重敏字は子行養浩又亂苗と號す越前大野藩の世臣なり明治維新大野藩民政司御用掛と爲り弊政を革め窮乏を救ふ善後後福井師範學校教授中學校長等に歴任す

◎岩村定高(一月七日) 年七十二正三位勳二等貴族院議員佐賀藩士明治二年佐賀縣權大檢事と爲り後開拓權列官に任じ北海道の事に盡力す累進して八年十一月三重縣令に進む十七年元老院議員後歸國祇候と爲り廿四年四月貴族院議員勳進せらる

◎五世中村芝翫(一月十六日) 年七十俳僊中村富四郎の長子にして大阪に生る幼時四世芝翫の養子となり父と共に江戸に來り市村座に出演す天保十年福助といふ後一度離縁となる而も猶中村福助と稱す萬延元年五代目芝翫と改む文久三年守田座の座頭となる

◎勝安芳(一月十九日) 年七十七正二位勳一等伯爵福密顧問官なり新幕府の名臣にして名は義邦初め福太郎といふ安房守と稱す海舟又は飛川の號あり江戸本所に生る家は小書請組なり風に海軍に心を傾け海軍操練教授方頭取となり安政六年米國航海を命ぜらる後幕府の軍艦奉行となる江戸城引渡の際殊功あり明治政府に任ぜられ外務海軍の諸官を經參議海軍卿等を歴任す著書多し

◎由利潤水(一月廿日) 年七十八禪僧なり名は宜牧丹波の人文久二年京都の天龍寺に住し明治五年禪宗三派の管長となる廿六年管長及び寺を高木龍淵に譲り林丘寺に遷る後復天龍寺に入り管長となる

◎柴田寛(一月廿七日) 年六十五文學博士國學者なり幼名八十吉後利三郎といふ更に寛と改む常陸水戸に生る明治十年修史館に出仕し十七年元老院准委任御用掛となり廿五年文科大學教授として國史法制を講説す

◎原善三郎(二月六日) 年七十三從五位武州渡瀨の人横濱に貿易商を營み貿易商社頭取横濱商法會議所頭取

(明治三十三年)

●神戸經路開復線全通 山陽鐵道神戸經路間の復線開通す(一月一日)

●日佛追加條約 日佛追加條約公布せらる(一月四日)

●中國鐵道開通式 岡山後樂園に於て舉行(一月八日)

●參謀本部條例改正 參謀本部條例此日を以て公布する其改正の主眼は一切本部編制の諸機關を公にせず局外者をして如何なる部局に依りて組織せられ如何なる職務を掌するを推知せられざるやう改正を加へ勉めて繁雜の條文を簡淨明瞭にす(一月十六日)

●横須賀鎮守府司令官官 相浦紀道此日を以て横須賀鎮守府司令官官に任ず廿三年五月廿五日迄留任す(一月十九日)

●大帥電氣鐵道 神奈川縣川崎町の大帥電氣鐵道會社開業す(一月廿三日)

●外債募集計畫 松方藏相外債募集案を内閣に提出す(一月廿三日)

●皇女薨去 第十皇女多喜子内親王薨去(一月)

●東京大阪間電話 東京大阪間長距離電話開始せらる(二月一日)

●南海鐵道不通 同鐵道は孝子越後道南手の山崩壊し爲めに和歌山大阪間列車は一時不通となる(二月一日)

●宇佐八幡宮盜難 此夜豊前宇佐郡官幣大社宇佐神宮へ賊忍び入り寶物中最も貴重なる金銀類を竊取す(二月四日)

●中學校令 中學校令發布する改正令は尋常の字を除き各府縣に一箇以上を設くべき事を規定す(二月七日)

●實業學校令 此日發布せらる(二月七日)

●新聞條例改正 新聞條例中改正法律公布(二月七日)

●鐵道國有案 鐵道國有法案衆議院を通過す(二月九日)

●稻妻強盜 久しく稻妻強盜として到る處に兇暴殘忍

を運うしたる坂本慶次郎此日埼玉縣浦和在にて漸く逮捕さる(二月廿四日)

●著作權法 著作權法公布せらる(三月四日)

●議員處費增加 衆議院を通過したる議員處費增加案は十九票の差を以て貴族院を通過す(三月八日)

●第十三期議會閉會 第十三期帝國議會閉院式行はせらる(三月十日)

●農相足尾行 曾廣農相足尾銅山礦毒被害地を巡視す(三月十二日)

●朝日鐵道水 蘇格蘭クライドバンク會社に於て帝國軍艦朝日の進水式を舉ぐ(三月十三日)

●阪本大火 午後九時下野上郡賀都足尾町字前原より出火焼失戸數百四十五戸に及び翌午前一時鎮火す(三月十四日)

●新博士百一名 文部大臣は修文館に於て松本赤太郎以下百名に博士の學位を授與す(三月廿七日)

●近衛公渡歐 貴族院議長近衛篤磨歐米遊の途に上る(四月一日)

●東京株式取引所落成式 明治廿八年起工したる東京株式取引所は新築全く成り此日落成式を行ふ(四月二日)

●東京外國語學校開校 同校は明治廿九年四月廿二日高等商業學校に附屬として設置せられ此日東京外國語學校と改稱し獨立す翌年七月第一回卒業式を舉ぐ卒業生英佛獨露西語合計四十名(四月四日)

●屬和會議參列 五月十八日和蘭國に開かるべき平和會議參列の爲陸軍大佐上原勇作海軍大佐阪本彪博士有賀長雄出發す(四月十四日)

●非増租運動 東北鐵道大會を仙臺に開く大隈重信之に列す此前後に於て非増租に關し運動する者多し(四月)

◎横田善(一月一日) 年六十八越前の儒者なり諱は重敏字は子行養浩又亂苗と號す越前大野藩の世臣なり明治維新大野藩民政司御用掛と爲り弊政を革め窮乏を救ふ善後後福井師範學校教授中學校長等に歴任す

◎岩村定高(一月七日) 年七十二正三位勳二等貴族院議員佐賀藩士明治二年佐賀縣權大檢事と爲り後開拓權列官に任じ北海道の事に盡力す累進して八年十一月三重縣令に進む十七年元老院議員後歸國祇候と爲り廿四年四月貴族院議員勳進せらる

◎五世中村芝翫(一月十六日) 年七十俳僊中村富四郎の長子にして大阪に生る幼時四世芝翫の養子となり父と共に江戸に來り市村座に出演す天保十年福助といふ後一度離縁となる而も猶中村福助と稱す萬延元年五代目芝翫と改む文久三年守田座の座頭となる

◎勝安芳(一月十九日) 年七十七正二位勳一等伯爵福密顧問官なり新幕府の名臣にして名は義邦初め福太郎といふ安房守と稱す海舟又は飛川の號あり江戸本所に生る家は小書請組なり風に海軍に心を傾け海軍操練教授方頭取となり安政六年米國航海を命ぜらる後幕府の軍艦奉行となる江戸城引渡の際殊功あり明治政府に任ぜられ外務海軍の諸官を經參議海軍卿等を歴任す著書多し

◎由利潤水(一月廿日) 年七十八禪僧なり名は宜牧丹波の人文久二年京都の天龍寺に住し明治五年禪宗三派の管長となる廿六年管長及び寺を高木龍淵に譲り林丘寺に遷る後復天龍寺に入り管長となる

◎柴田寛(一月廿七日) 年六十五文學博士國學者なり幼名八十吉後利三郎といふ更に寛と改む常陸水戸に生る明治十年修史館に出仕し十七年元老院准委任御用掛となり廿五年文科大學教授として國史法制を講説す

◎原善三郎(二月六日) 年七十三從五位武州渡瀨の人横濱に貿易商を營み貿易商社頭取横濱商法會議所頭取

月十七日 三浦奇禍 戒租問題に付き遊説中なる三浦精徳は高田に於て暴漢に襲はる(四月廿四日)
●大日本武徳會 京都に於ける同會の武徳殿は遺囑新に成り午前八時落成式を挙行(五月四日)
●函館築港竣工 函館築港工事落成し此日より三日間區民の遊覧を許す(五月六日)
●白石大火 午前二時五分前函館白石町字新町遊藝場より火起り長町以下九ヶ町に延焼し八百六十八戸四千三百五棟を焼き午前七時半鎮火し全町殆んど焦土に化す死者二名負傷者七十八名(五月十四日)
●新参謀長補任 川上参謀長去に就き大山参謀長に任ず(五月十六日)
●櫻田二位の遺囑 東京麹町區元園町一丁目四十番地侯爵櫻田忠順の嗣子從二位勳三等櫻田忠敬五十一歳は忠順の弟にて義に嗣子死去の後継子となりたるが忠順の孫に格太郎一歳なる者あり故忠告の長男にして家督を相続すべき筈なれど少く狂暴の性質なるを以て忠敬が相続者と定まりたるを深く恨み此日忠敬が四條侯爵を自邸に招き開審に就ける折午後八時突然格太郎は六連發ピストルにて忠敬を撃ちて絶息せしめなほ忠敬の令嬢龜子十九歳の背中に命中し家内大騒をなす(五月廿三日)
●仙臺市開設三百年記念祭は同市内川城外に執行せらる(五月廿三日)
●學齡未滿兒童の取締 學齡未滿兒童の取締に生理上弊害あるが故に此日市區學務委員協議會に於て其取締法を定む(五月廿五日)
●外債千萬磅 四分利付英貨外債一千萬磅募集の發賣(六月一日)

●排日不認可 英國殖民大臣サマムアレーンの勅告に從ひ加奈陀政府は英領コロムビア州の日本人排斥法に不認可の令を下す(六月七日)
●華商銀行 資本金五百萬圓を以て臺北城内西門街二丁目を開業す(六月十二日)
●阪神電氣鐵道會社 資本金百五十萬圓を以て神戸市三宮町三丁目百五十六番屋敷に開業(六月十二日)
●戸塚瀕死 九日神奈川縣鎌倉市戸塚町に於て變死婦人の茶園詰見せられ其後探來に盡力中犯人は山梨縣四山郡大宮村字萬山宮生れ横濱市居留地百三番館馬丁深山常吉方同居若重廿六歳變死婦人は同人の妻おこめ廿六歳と知り犯人若重に此日逮捕せらる(六月十三日)
●豐岡城遺跡 福岡縣田川郡豐岡城址に昨夜瓦斬破裂し死者二百七名を出す(六月十四日)
●商法實施 商法及不動産登記法を此日より實施せらる(六月十六日)
●渡海者取締 渡海者取締の緊急勅令を發布し許可なくして渡海する事を禁ぜり(六月十七日)
●大野大火 午前七時前大野町長谷川高松方より出火し七百廿四戸を焼失し死者四名重傷三名負傷者六十名を出す(六月十九日)
●黒死病來る 午後四時廿分香港より横濱へ入港したる東洋汽船會社の汽船亞米利加丸乗組員中の支那人一名日本人一名ベストに罹り支那人は死亡す(六月廿三日)
●獨逸皇弟來着 獨逸皇弟ハインリッヒ親王は午後零時廿分新橋御來着(六月廿九日)
●國民協會解散 國民協會は臨時大會を開き解散式を挙行す(七月四日)
●帝國黨組織 國民協會派を中心として國家主義の同

市會議員市參事會員となり廿五年坊玉選より選ばれて衆議院議員となる事三回廿九年九月貴族院議員に當選す
◎田村寬一(三月六日) 年五十七第十二期閣長陸軍中將
◎中島信行(三月廿六日) 年五十四男爵高知藩士明治元年以來諸者に歴任し神奈川縣令元老院議員等にありしを辭して民間に在り自由黨の副總理たり後衆議院議員に選ばれ第一期の閣長に擧げらる又再び政府に入り特命全權公使に任ぜられ貴族院議員に選ばる
◎龍手田安定(四月一日) 年六十三位勳二等萬年戶藩士遊覽島根縣高の諸縣知事を奉じて又元老院議員貴族院議員歸國感徳なる頗る感徳をよす
◎花房瑞連(四月九日) 年七十六初め七大夫と稱す前岡山藩士なり最も力を公衆の利益に盡して岡山藩士族の漸く困弊するを憂ひ其資産を保持せん事を圖り主唱して第廿二國立銀行を創立し其頭取又は取締役たり又紡織會社を起す市制の初め額額を以て推されて市長と爲り又關谷製の廢れたるを興し規模を擴張す
◎野村貞(五月四日) 年五十五男爵守府司令官長官從四位勳二等海軍少將なり越後長岡の人明治七年海軍大臣に任じ十年の職役には日進副長として出征し廿七年二月高千穂艦長として征清の途に上る廿九年四月竹敷要港部司令官に補し海軍少將に任ず卅一年三月常備艦隊司令官廿二年一月吳鎮守府司令官長官に補せらる
◎村田氏壽(五月八日) 年七十七通稱三郎藩士の人藩の世に在り明治成役の役起りや大義を説き一藩の方向を決す又會津征討參事として功あり足羽教育兩縣參事政令令内務大臣兼警備副官に任ぜり
◎川上操六(五月十一日) 年五十三從二位勳一等子爵陸軍大將參謀總長たり鹿兒島藩士明治元年藩邸に從うて小隊附となり越後羽後藩邸に從ふ四年陸軍に奉職中

志者を驅り集めたる帝國黨結黨式を東京神田區錦町に舉行す(七月五日)
●新潟大火 午後十二時新潟縣中頸城郡新井町和田某方より出火全焼戸數二百七十五に及び翌午前四時鎮火す(七月八日)
●紀州水害 和歌山縣北牟婁郡相賀村大字津に洪水の爲め山崩れあり(七月十一日)
●特別開港 清水港以下十二港を特別港として開港の旨公布す(七月十三日)
●改正條約施行 改正條約施行せられ一度失ひたる稅權法權を回復し又諸外國人に内地雜居の自由を享けしむ(七月十七日)
●總務第一着の警察事故 此日は警察約實施の第一日にして横濱元居留地百三番館に飲酒屋を警備外國人及外人一名及雇女一名は米人ロベルトミラーなる無頼漢に斬殺さる(七月十七日)
●星亨遺囑 星亨は午後一時半青森に上陸旅館に越く途中暴漢に毆打せられ隨行の壯士佐久間傳太郎加害者を斬る(七月廿九日)
●全國花柳界 最近統計に依れば全國藝妓の數二萬四千二百六十一人舞妓三千五百卅一人娼妓四萬零二百八十八人藝妓業の免許有るもの五百十三人仲居約婦三萬四千零十九人藝妓屋六千六百四十七軒料理店二萬九千五百一十一軒料理店以外の營業にして藝妓の出入するもの五千六百五十軒見舞所三百六十四軒遊樂園に於て五百四十六箇所貸座敷一萬零七百七十二軒藝妓周旋人千二百七十七人なり(七月)
●文相訓令 樺山文部大臣訓令を發し教育をして宗教以外に特立せしむべきを告ぐ(八月三日)
●私立學校令 私立學校令公布せらる(八月三日)
●富山大火 午前零時廿分富山市中野町桑田某方より

り失火し西町以下廿二箇町に延焼し六千餘戸を焼失し午前十時廿分鎮火す(八月十一日)
●横濱大火 午後八時廿分横濱市雲井町一丁目五番地湯屋敷並宿村某方より出火全焼三千五百五十八戸半焼四十九戸に及び翌三時廿分に鎮火す死者四名負傷者七名重傷三名を出す(八月十二日)
●帝室制度調査局 宮中に帝室制度調査局を設け伊藤博文を以て其總裁たりしむ(八月廿四日)
●鹿兒島暴風雨 鹿兒島縣下に大暴風あり(八月廿五日)
●別子銅山被害 伊藤別子銅山は豪雨暴風の爲め流失倒潰する家屋少からず同銅山に於ける諸部落及び立川附近に於ける死者千に上る(八月廿八日)
●仁德帝五百年祭 大阪高津神社に於て仁德天皇千五百年大祭を此日より十四日迄舉行(九月八日)
●函館大火 午前九時廿分函館港豐川町酒造家九平方より失火し豐川町西川町東川町地蔵町沙止町等に延焼し二千四百九十四戸を焼拂ひ午後一時十分鎮火す(九月十五日)
●干渉事件詳情 憲政本黨の委員四藩内相を訪問し府縣會議員選舉に於ける干渉事件に就き詳情す(九月十六日)
●臺灣銀行發行 臺灣銀行より發行する銀行券の内券圖券の様式を定め此月發行す(九月廿六日)
●市街鐵道 東京市參事會市街鐵道私設を決議す(九月廿九日)
●十圓兌換券改定 日本銀行より發行する兌換銀行券の内十圓券を改定し此日より發行す(十月一日)
●皇族御結婚 名古屋御在勤中の久瀨宮邦彦王と公爵島津忠重令嬢御子との御結婚御勅許あり(十月六日)
●大阪米穀取引所理事解散 農商務省は大阪堂島米穀

尉となり累進して十八年少將となり參謀次長に補せらる爾來要職を歴任し廿三年中將に進み卅一年大將に任ず其間兩度歐洲に遊び又臺灣事務總長に補せらる廿七年職役に殊功あり勳一等功二級を賜る
◎安場保和(五月廿三日) 年六十五男爵熊本藩士初め一平と稱す明治五年一月岩倉大使歐米差遣に際し隨行し歸朝後島縣令後受知縣令に轉じ地方官會議に在り幹事たり後元老院議員參事院議員官福岡縣令となる廿五年受知縣知事尋て貴族院議員に任じ廿九年男爵に授けられ卅年北海道廳長官たり
◎龜山貞義(六月六日) 年四十五刑法律學者なり從四位勳四等警備平藩士明治十七年法律士の號を授けらる刑法治罪法内閣委員大阪控訴院院長東京控訴院檢察大審院判事に歴任し又帝國大學明治法律學校東京法律學校警官練習所の講師と爲る
◎大木高任(六月廿六日) 年六十九伯爵藤原實房藩士幼名を氏平といふ明治元年四月徴士として朝廷に召され參事兼外國事務局參事兼東京府知事東京府參事民部大輔民部卿文部卿を経て六年三月參議十月司法卿を兼ね十六年再び文部卿に轉じ十七年伯爵を授けられ後元老院議長樞密顧問官同議長廿三年司法大臣に任じ廿四年文部大臣に遷る後再び樞密院議長たり
◎尾上多賀之丞(六月廿六日) 年五十一俳優
◎富永冬樹(六月廿六日) 大審院部長より轉じて商界に入り久しく東京株式所理事たり
◎高島信茂(七月十一日) 年五十七貴族院議員高知藩後福山藩士にて藩地に生る明治四年兵部省出仕となり翌年少佐に任じ七年佐賀の役に出征し夫より十五年大佐となり大阪仙臺兩藩參謀長士官學校校長學務院御用掛同院長に任ぜられ卅年勳議員となる
◎高橋健三(七月廿一日) 年四十四東京の人なり石室

明治三十三年 (己亥) 九月九日

取引所の紛擾あるを以て杉山理事長以下理事八名に解職を命ず(十月六日)

●田子浦海嘯 駿州富士郡鈴川附近田子浦村元吉原村等に暴風の最中海嘯起り田子浦村字小洲邊一帯を没し酒井川に落ち込み鈴川村は水底に埋没され附近砂山山下東京入土の別荘十五戸は跡方もなく没され田子の浦にて死亡者五十名負傷者百名慘状を極む(十月七日)

●津川汽車遺難 午前十一時福島へ向ひ上野を發したる列車が午後四時頃津川鐵橋に差掛りたるとき風雨激しくして遂に機關車及貨車を殘し他の乗客列車は悉く河中に覆没し死亡者十一名負傷者四十三名(十月七日)

●東京暴風雨 東京は五日以來雨降烈しく此日迄暴風雨續き被害甚敷(十月七日)

●日番條約 日番條約通商航海條約公布(十月十二日)

●市街鐵道案通過 東京市會開會市街鐵道私設派無理無體に原案を通過せしむ(十月十七日)

●横濱埋立問題 横濱埋立問題起る此前後星亨に關する物語沸騰し風益々高し(十月廿一日)

●康有為來京 清國亡命者康有為來京より横濱に來り上陸を拒絶せらる(十月廿四日)

●勸業總裁 高橋新吉日本勸業銀行總裁任命(十月廿四日)

●改正條約實施御祝賀 改正條約實施御祝賀の爲め午後六時より宮中豐明殿に各大臣並に各外國使臣を召させられ御宴を張らせらる(十月廿八日)

●東京御遊 十月廿三日神戸出發西航し給ひたる東宮殿下の御乘機高砂は明石鐵道に水雷艇逐艇雲を率ゐて翌廿四日午後廿五時午後二時字品に著し廣島第五師團其他に行啓廿六日字品に還啓廿七日霞雲艇に召され吳鎮守府へ行啓廿八日江田島海軍兵學校へ行啓廿九日宮島へ行啓卅日廣島に赴き給ひ此日午前九時十五分同地發して舞子に還御(十月卅一日)

●分同地發して舞子に還御(十月卅一日)

●改進黨總理辭職 板垣退助星亨一派之衝突の結果憲政黨總理を辭し京地を去る(十一月八日)

●憲政黨總理辭職 板垣退助星亨一派之衝突の結果憲政黨總理を辭し京地を去る(十一月八日)

●非増租大會 憲政本黨非増租大會を江東中村樓に開く(十一月十七日)

●第十四期議會開會 第十四期議會召集せられ廿二日開院式(十一月廿日)

●菅公會 黒田長成侯の發起によりて組織せられたる菅公會を築地柳花苑に於て開催す(十一月)

●三稅法案 憲政本黨提出の三稅法案衆議院に敗る(十二月八日)

●宗教法案 政府九日を以て衆議院に宗教法案を提出したる處遂に宗教界の一致となる(十二月十一日)

●郵便爲替開始 此日より全國に凡そ七百箇所の取扱所を開く(十二月十六日)

●東京行啓 東宮殿下は葉山御用邸より鎌倉なる前田侯の邸邸に行啓せらる(十二月十八日)

●東京水道落成 東京水道工事落成式を淀橋水道工場内に舉行す(十二月十八日)

●九條節子御參内 九條道孝公の息女節子姫には豫て皇太子殿下の御妃と御内定あらせられしが長き邊の御召にて大内に參上し御降下にて拜謁の上御料理を賜はりて退出せらる(十二月十九日)

●仲買營業停止 農商務省は大坂堂島米穀取引所紛擾事件當時最も不都合の取引を爲したるものに營業停止を命ずると同時に解停の命令を發し同所仲買人後藤藤三郎以下十名に對し營業停止を命ず(十二月廿三日)

明治三十三年 九月九日 (子庚)

●大阪合同紡織會社 資本金七十三萬圓を以て大阪府區北島岸町に開業す(八月八日)

●小説不如歸 徳富蘆花著小説不如歸を東京京橋區日吉町民友社より發行す(八月十五日)

●佛敎徒大會 佛敎徒大會を午後一時中村樓に開き政府提出の宗教法案に反對するの決議を爲す(八月廿一日)

●愛知縣火事 午前三時三十分尾張國愛知縣光明寺村織業家兒島信藏方より出火し工場三棟を焼失し同五時鐘火丁女三十一名焼死(八月廿三日)

●郵便爲替居宅拂 郵便爲替居宅拂を施行す(八月)

●學生決闘 此夜濟生學會及び千城學會寄宿所の學生數十名間に激烈なる決闘あり(八月二日)

●皇儲御成婚式 皇太子殿下は公許九條道孝の女節子姫と御成婚の式を挙げさせらる(八月十一日)

●開院宮御遊 開院宮親仁親王には横濱出帆の佛國郵船ヲオス號にて海路佛國島耳塞に向はせらる(八月十六日)

●横濱大火 午後二時廿分横濱市賑町二丁目賑湯事大森つる方より發火し足更町賑湯町吉岡町久方町賑井町に延焼し戸數三百廿四戸を焼失す(八月廿三日)

●第十四期議會開會 第十四期議會開院式(八月廿四日)

●丁林皇族入京 丁林皇族ロルマール親王午前十一時四十分御入京(八月廿五日)

●御慶事祝賀會 皇儲御慶事奉祝の爲め千家東京府知事松田東京市長其他の有志者首唱となり記念美術館を建設するに決す(八月十六日)

●日本地名辭書 吉田東伍の大著日本地名辭書の第一冊を刊行す(八月)

●北海道拓殖銀行 資本金壹百萬圓を以て札幌區大通

●東一丁目二番地に開業す(四月一日)

●福井縣大火 午後十時四十五分福井縣足羽郡木田村木田地方第七十九號廿五番地野田清太夫方より出火し福井市野田川上町等に延焼し又足羽郡東安房村一部を焼失し漸く翌午前四時廿分鐘火事總失戸數千七百五十二戸焼死者七名負傷者二百八十一名(四月廿日)

●(スト)再發 一時消滅したりと傳へられたるベスト再び大阪に於て發見さる(四月廿三日)

●皇室婚嫁令 皇室婚嫁令發表せらる(四月廿五日)

●海軍大演習行幸 天皇陛下は午前八時新橋御發車兵庫縣下に於ける海軍大演習に行幸(四月廿六日)

●海軍大演習 海軍大演習を紀淡海峡に行ひ 陛下親臨之を統率し給ふ(四月廿六日)

●大觀艦式 神戶沖にて大觀艦式舉行(四月廿日)

●特旨賜金 福澤諭吉に特旨を以て金五萬圓を賜はる(五月九日)

●男爵五十九名 宮中に於て爵記奉授式あり尾崎忠治以下五十九名に男爵を授けらる(五月九日)

●皇儲御成婚大禮 皇室婚嫁令に基き宮中寶所大間に於て皇太子殿下の御成婚の大禮を行はせ給ふ(五月十日)

●東宮殿下西行啓 東宮殿下は午前十時新橋御發車伊勢神宮及び先帝御陵訪問山御陵等へ御成婚御祝賀の爲め行啓せらる(五月廿三日)

●横須賀守府長官 井上眞馨任命(五月廿五日)

●横須賀行幸 天皇陛下は千早鐵道水式臨御の爲め横須賀に行幸(五月廿六日)

●清國義和團 清國義和團不逞の報に接し軍艦壹隻木津に向つて發す(五月廿日)

●市街鐵道許可 東京市の市街鐵道私設許可さる(六月九日)

●秋川風水(一月五日) 年七十七通稱博次郎字は子錫章軒と號す會津藩士なり幕末に當り朝幕の敵を闘る明治元年會津藩に入り副軍事奉行と爲り助戦に力む既にして歸順を乞ふ風水事其事に當り是に於て終身禁錮に處せらる明治五年特赦せられ後太政官東京大學高等學校に歷任す

●山口派三(二月廿五日) 舊鹿兒島藩士錦崎間威實族院議員

●品川彌二郎(二月廿六日) 年五十八子爵品川彌士松村村長に學び維新の軍政に功あり明治三年普佛戰爭視察の爲渡歐し次で獨英に留學歸朝内務大丞に任じ諸官を経て特命全權公使官中顧問官樞密顧問官御料局長内務大臣を歴任し後民間に下り西郷從道等と共に國民協會を創設す維新の際有名なるトントンシ節は此人の作なり念佛庵の號あり

●外山正一(三月八日) 年四十三文學博士著書開藩士幼名捨八慶應元年幕府より選ばれて英國に留學し歸朝後靜岡學校英語部長たり後外務省に奉職し米國に航し歸朝後東京大學文學部教授となり帝國大學文科教授同文科大學長等に歴任し後大學總長より文部大臣となる又新體詩の創始者として聞ゆ

●山田信三(三月十一日) 從二位勳一等男爵舊熊本藩士なり同志の勤王家と交る後薩藩參議時政の嫌疑にて獄に繋かれ後赦されて官に仕へ島取島大阪京都の府縣知事を歴て卅年農商務大臣卅一年會計検査院長たり

●河田貫堂(三月十一日) 年六十六儒者なり名は照字は伯權貫之助と稱す幕府の大目付を勤め文久年間に関港延期の談判に副使として歐洲に赴く薩藩後徳川家達の家扶となる

●高砂浦五郎(四月八日) 年六十二角力の名將にして千葉縣山邊郡大豆谷村の出身始め高見山と名乗り後高

●書記官遺難 午後三時北京に於ける我公使館書記生杉山彬は須磨艦上陸水兵出迎の爲馬家塾に赴く途中永定門外に於て蕭福祥の馬隊に殺害さる(六月十三日) ●首相大命を奉ず 山縣首相辭職の意思切なりしも清國事變愈々大事なる日備満なる覺悟に接し感激する所あり議で御旨を奉戴すべき旨申上(六月十五日) ●臨時閣議と出兵 首相邸に臨時閣議を開き義和團事變公使館及居留民保護として陸兵を派遣する事を決す(六月十五日) ●郵便船夫帽子 郵便船夫の鐘頭笠を懸し赤筋入帽子を冠ぶ(六月十六日) ●服部中佐戦死 義和團事變各國聯合軍太活砲撃の際服部中佐は我軍を率ゐる戦死を遂ぐ(六月十七日) ●日石大尉名譽 義和團事變太活砲撃の際海軍大尉白石渡江は先登して艦上に現はれ日章旗を翻す(六月十七日) ●太活砲撃占領 此日午前二時より聯合軍艦隊は砲火を開き太活砲撃を攻撃し終ひに占領す我日本兵は北方に於ける内面の最も優勢なる砲臺を背より攻撃して之を占領し日本國旗を掲ぐ(六月十七日) ●第十一聯隊出發 義和團の蜂起につき北京公使館及其他居留民を保護警備の爲に第十一聯隊より一大隊を編成し字品港を出帆す(六月十八日) ●天津機器局攻撃 義和團事變各國兵は前日より天津機器局の攻撃を開始し此日午後二時に至り陥落す(六月廿日) ●市街戦開始 義和團事變我軍は天津に激戦なる市街戦を開始し此戦間五時間に亘り敵を撃退す(七月一日) ●第五師團渡清 第五師團全部渡清の命令下(七月六日) ●清帝乞援 清國皇帝親電を我 天皇に致し清國難を救ふ(七月六日)

●新命令航路 日本郵船社並に大阪商船社此日より新命令書により内國及清韓航路の航海を開始す(七月一日) ●公債發行 大日本帝國政府五分利公債證書額三百五十萬圓を發行す(七月十二日) ●西國行啓 東宮殿下には午前六時五十分御出門新橋發汽車にて中國九州四國行啓の途に上らせらる(七月十四日) ●帝國軍隊凱旋 北清の各地に轉戦したる其一部の軍隊は北京の地に駐屯し一部は此日字品に着陸廣東に凱旋す(七月十五日) ●新内閣成立 山縣内閣辭職に次いで伊藤博文を總理大臣として新内閣成る外務大臣加藤高明内務大臣末松謙澄大藏大臣渡邊武司法大臣金子堅太郎文部大臣松田正久農商務大臣林有造逓信大臣星亨に定る海軍山本陸軍桂は依然(七月十九日) ●列國使臣會議 團匪の亂につき列國使臣會議北京に開かる(七月廿六日) ●樞密院議長 西園寺公望を樞密院議長に任ず(七月廿七日) ●首相代理 伊藤博文病んで政務を見る能はず樞密院議長西園寺公望臨時代理す(七月廿七日) ●皇太后宮臨時遷御 皇太后宮臨時遷御につき那蘇王は九月廿八日東京發神宮に向ひ遷宮及び兩宮奉幣の儀仗兵として歩兵第三聯隊より半大隊出發し此日遷御並に奉幣の御式あり(十月廿日) ●大演習行幸 大元帥陛下には此日午後零時五十分新橋御發車茨城縣下に舉行の陸軍大演習へ行幸(十一月十五日) ●梨本宮御成婚 梨本宮守正王には侯爵島直大次女伊那子の方と御結婚式を挙げさせらる(十一月廿八日) ●土匪討伐 臺灣土匪大掃蕩の命を發し軍隊警察協力

●秋田縣選舉 秋田縣北郡田澤村駒ヶ岳及び宿葉山は十一日及此日の兩日の大雨に際し俄然鳴動を發し同時に數百ヶ所崩壊して一大河流を現出す(八月十二日) ●北京占領 此日早朝より聯合軍は攻撃を開始し夕方日本軍は朝陽及東直門を破壁して城内に進入し他國軍は東便門より進軍し直ちに衛兵を公使館に出し聯絡を通じたり清帝及皇太后は西安に蒙塵(八月十四日) ●能代大火 午後三時秋田縣下山本郡能代町順成寺より出火し戸數七百五十戸を燒失す(八月十九日) ●改正小學校令 小學校令此日公布翌日施行規則公布(八月廿日) ●國民同盟會 近衛篤磨主催して國民同盟會を創立し支那保全を唱導す(九月十一日) ●政友會發會式 憲政黨は八月十三日解散し伊藤博文の下に集り新に立憲政友會を組織し博文自ら總裁となり八月廿五日其宣言書を發表し此日發會式を帝國ホテルに舉行す(九月十五日) ●清國總督委員 清國劉坤一張之洞を議和全權委員に任ず(九月廿日) ●首相辭職 總理大臣山縣有朋外交の事に堪えざるの故を以て辭職を呈す(九月廿六日) ●大臣辭職 海陸軍外務大臣を除くの外各大臣辭職を呈す(九月廿七日) ●代金引換郵便 代金引換郵便物を取扱ふ(十月一日)

●對討伐を始め功あり(十二月一日) ●内閣不統一 實業家の大巨招待會を帝國ホテルに開く席上渡邊蔵相の經濟政策に就き演説するや星亨相反對の演説を爲す此に於て内閣不統一の物議高し(十二月二日) ●水戸義公祭典 芝紅葉館に開かる(十二月三日) ●臨時首相辭職 西園寺公望は此日内閣總理大臣臨時代理を免ぜらる(十二月十一日) ●十九世紀送別大演説會 東京神田青年會館に開會す(十二月十四日) ●憲政本黨總理選舉本黨大會大隈重信を總理に推戴す(十二月十八日) ●月島丸事件 商船學校練習船月島丸は十一月十五日金華山沖を通過したる後行方不明となり十七日は非常の暴風雨なりしかば之が爲め沈没したるものならむと云ふ乗組員は船長以下職員生徒八十五名事務員一名水夫十九名火夫十名前方ボーイ八名(十二月廿日) ●歳の市變事 東京神田明神歳の市にて雜音を極め本郷區通阪町八十一番地金貨業山田重貞外九名の壓死者を出す(十二月廿日) ●遷相更迭 星亨に對して世論沸然星乃ら逓信大臣を辭し原敬之に更る(十二月廿一日) ●公書案確定 列國使臣會議の結果の同文公書案確定す(十二月廿二日) ●第十五期議會開院式 第十五期帝國議會は此日召集せらる(十二月廿二日) ●陸相更迭 陸軍大臣桂大元帥を辭し臺灣總督兒玉源太郎之を兼ぐ(十二月廿四日) ●軍艦月島丸搜索 月島丸の行方不明に付き搜索の爲め掃立艦は伊豆諸島方面に吉野艦は豆南諸島方面に常磐艦は同じく北緯卅五度より東經百四十五度迄搜索したるも船體を見出さず(十二月)

●砂と改名す十年間に亘りし事十三番のみさいふ相境界の標物 ●杉山彬(六月十一日) 年卅九水戸の人青年公使館書記生として北京在勤此日設置の陸軍隊を北京停車場に迎へんと赴く途中清人の爲めに殺害さる ●前田利國(六月十四日) 侯爵加賀金澤藩主貴族院議員 ●水野瀧(六月十五日) 從三位勳二等貴族院議員 ●服部雄吉(六月十七日) 年卅八海軍中佐なり青鹿兒島の人今年六月北清に義和團の亂猖獗を極むるや出征し此日列國聯合軍の太活砲撃の際敵軍の爲めに戦死す ●陸軍少將(七月四日) 侯爵貴族院議員 ●三上仙年(七月十三日) 年六十五畫家なり弘前の人名は英二仙年又雅照齋と號す ●齋原剛政(七月廿四日) 東京の外交官なり此年北清事變の際に遇ひ義勇隊に加はり公使館に戦つて死す ●世真田亮(八月一日) 年四十五五位海軍少將なり舊信州上田藩士清國公使館附屬船長滿洲艦隊に歴任し日清戦役には大佐に累進し卅二年富士艦長に補せらる卅三年五月三回航委員として英國に派遣さる少將に昇り吳淞守府司令官となり卅三年佐世保護守府參謀長に轉ず ●三遊亭圓朝(八月十一日) 年六十二落語家なり通稱出淵次郎吉祖は伊豫國出淵庄に居る祖父大五郎前田備後守に仕へ留守居たり二世三遊亭圓生の門に入り七歳の時小圓太と稱し落語家の伴に入りしも親戚之を厭ひ一度中止す安政四年十八打として初めて世話物を講し大に聲名を博す ●岩下方平(八月十五日) 年七十四正三位勳二等子爵萬應兒島藩士也通稱佐治右衛門慶應二年佛國に歸し歸朝後外國事務掛大阪府列事京都府權知事大阪府大參事

明治三十三年

110

●新命令航路 日本郵船社並に大阪商船社此日より新命令書により内國及清韓航路の航海を開始す(七月一日) ●公債發行 大日本帝國政府五分利公債證書額三百五十萬圓を發行す(七月十二日) ●西國行啓 東宮殿下には午前六時五十分御出門新橋發汽車にて中國九州四國行啓の途に上らせらる(七月十四日) ●帝國軍隊凱旋 北清の各地に轉戦したる其一部の軍隊は北京の地に駐屯し一部は此日字品に着陸廣東に凱旋す(七月十五日) ●新内閣成立 山縣内閣辭職に次いで伊藤博文を總理大臣として新内閣成る外務大臣加藤高明内務大臣末松謙澄大藏大臣渡邊武司法大臣金子堅太郎文部大臣松田正久農商務大臣林有造逓信大臣星亨に定る海軍山本陸軍桂は依然(七月十九日) ●列國使臣會議 團匪の亂につき列國使臣會議北京に開かる(七月廿六日) ●樞密院議長 西園寺公望を樞密院議長に任ず(七月廿七日) ●首相代理 伊藤博文病んで政務を見る能はず樞密院議長西園寺公望臨時代理す(七月廿七日) ●皇太后宮臨時遷御 皇太后宮臨時遷御につき那蘇王は九月廿八日東京發神宮に向ひ遷宮及び兩宮奉幣の儀仗兵として歩兵第三聯隊より半大隊出發し此日遷御並に奉幣の御式あり(十月廿日) ●大演習行幸 大元帥陛下には此日午後零時五十分新橋御發車茨城縣下に舉行の陸軍大演習へ行幸(十一月十五日) ●梨本宮御成婚 梨本宮守正王には侯爵島直大次女伊那子の方と御結婚式を挙げさせらる(十一月廿八日) ●土匪討伐 臺灣土匪大掃蕩の命を發し軍隊警察協力

●對討伐を始め功あり(十二月一日) ●内閣不統一 實業家の大巨招待會を帝國ホテルに開く席上渡邊蔵相の經濟政策に就き演説するや星亨相反對の演説を爲す此に於て内閣不統一の物議高し(十二月二日) ●水戸義公祭典 芝紅葉館に開かる(十二月三日) ●臨時首相辭職 西園寺公望は此日内閣總理大臣臨時代理を免ぜらる(十二月十一日) ●十九世紀送別大演説會 東京神田青年會館に開會す(十二月十四日) ●憲政本黨總理選舉本黨大會大隈重信を總理に推戴す(十二月十八日) ●月島丸事件 商船學校練習船月島丸は十一月十五日金華山沖を通過したる後行方不明となり十七日は非常の暴風雨なりしかば之が爲め沈没したるものならむと云ふ乗組員は船長以下職員生徒八十五名事務員一名水夫十九名火夫十名前方ボーイ八名(十二月廿日) ●歳の市變事 東京神田明神歳の市にて雜音を極め本郷區通阪町八十一番地金貨業山田重貞外九名の壓死者を出す(十二月廿日) ●遷相更迭 星亨に對して世論沸然星乃ら逓信大臣を辭し原敬之に更る(十二月廿一日) ●公書案確定 列國使臣會議の結果の同文公書案確定す(十二月廿二日) ●第十五期議會開院式 第十五期帝國議會は此日召集せらる(十二月廿二日) ●陸相更迭 陸軍大臣桂大元帥を辭し臺灣總督兒玉源太郎之を兼ぐ(十二月廿四日) ●軍艦月島丸搜索 月島丸の行方不明に付き搜索の爲め掃立艦は伊豆諸島方面に吉野艦は豆南諸島方面に常磐艦は同じく北緯卅五度より東經百四十五度迄搜索したるも船體を見出さず(十二月)

●元老院議員官政事會議議長兼副議長を歴任し廿三年貴族院議員に選ばれ尋で辭職引退せらる ●黒田清隆(九月廿三日) 年六十一從一位大勳位伯爵樞密院議長なり青鹿兒島藩士初の名は了介兒島藩士清行の子にして維新に功あり明治三年開拓次官として露國と樺太交換の事を處理す七年陸軍中將に任じ參議閣議長官を兼ね十七年伯爵を授かり廿二年農商務大臣に任じ翌年四月内閣總理大臣廿二年樞密院閣官廿五年逓信大臣廿八年樞密院議長留任内閣更迭の度に當りて四度總理大臣若くは臨時總理大臣又代理に任ず卅三年以來樞密院議長たり ●大西祝(十一月二日) 年卅六哲學者なり岡山の人操山と號す東京大學に哲學を專修し明治廿四年東京專門學校に聘せられ又高等師範學校講師となり廿一年二月歐洲留學を命ぜられ卅三年文學博士の學位を受け京都大學講師を囑託せらる ●榎田清米女史(十一月五日) 年廿五國秀小説家 ●仁禮殿(十一月廿二日) 正二位勳一等子爵青鹿兒島藩士藩命により米國に航し明治以後海軍者に出仕し海軍中將となり海軍大臣樞密院閣官等を歴任す ●三好重臣(十一月廿九日) 年六十一陸軍中將正二位勳一等子爵秩藩士なり軍太師と稱し高杉晋作等と奇兵隊を組織す戊辰の役越後國に轉戦し明治四年大佐となり十年の役第二旅團長として力戦し累進して中將となり監軍に補す又樞密院閣官に任ず ●黒田久孝(十二月四日) 年五十五東宮武官長陸軍中將正四位勳一等功三級男爵たり元徳川氏の小十人組の士なり西南の役既に少佐に累進し廿四年少將に陞り砲兵監に補す廿七年の役第一軍に屬す卅年中將となり ●齋藤運(十二月十九日) 年七十九殖産家なり治兵衛と稱す越前勝山の人同志と謀り勝山製絲會社を創立し組養生絲市上に於て大に其聲價を高む

明治三十三年

111

●露清密約暴露 アレキセーフ増減との間に締結せられたる露清密約暴露し列國の物議を起す(一月十五日)

●東京市警察員收賄被告事件 此日東京控訴院に於て羽生裁判長より利光鶴松以下十一名に對し各々有罪の宣告あり(一月廿日)

●淡水丸沈没 大阪商船會社汽船淡水丸は厦門港出帆淡水に向ふ途次同金門島附近にて坐礁沈没す(一月廿一日)

●英女皇崩御 英女皇ヴィクトリア此日崩す(一月廿二日)

●増稅案可決 衆議院増稅法案を可決(二月廿九日)

●帝大第二醫院燒失 午前六時十五分東京神田區和泉町東京帝國大學第二醫院より出火し傳染病室一棟及支關の一部を燒し同院燒失燒死者十九名露死者二名を出す(二月廿九日)

●土匪襲來 此夜九時多數の土匪臺中市街を襲ふ守備隊憲兵巡查等激戰擊退す(二月一日)

●三四俱樂部 憲政本黨中増稅案反對者工務行幹等卅四名脱黨し別に三四俱樂部を組織す(二月十五日)

●三崎大火 午後十時頃相州三浦郡三崎町入船四番地貨座敷業伊勢松樓事務所裏方より出火し花幕町時崎町入船町海雨町の町を燒き拂ひ數百餘戸を烏有に歸し翌午前三時分鎮火す(二月十六日)

●議會停會 此日より來る三月八日迄十日間帝國議會の停會を命ぜらる(二月廿七日)

●大日本史料 大日本史料第一回(六編の一)を東京帝國大學史料編纂所より刊行(二月廿八日)

●ストライキ節 此頃より東雲のストライキ節なるもの流行す(二月)

●大阪松島火災 午前二時十分大阪西區松島花園町劇

場八千代座より出火し同座全部を燒失しは外に卅六戸を全燒五時鎮火す(三月二日)

●増稅案討論 増稅案の議に就き貴族院へ勸誘下る(三月十二日)

●閣臣辭表奉呈 伊藤首相及西園寺樞相並に閣僚一同進退を德大寺侍從長まで奉呈し後十五日却下となる(三月十三日)

●大隈邸火災 午前九時四十分頃早稲田大隈邸に火あり同邸客室茶の間臺所十疊間連坪數百坪に亘り全部烏有に歸す(三月十四日)

●増稅案可決 貴族院は勅を長み増稅案を討論し衆議院の通り可決確定す(三月十六日)

●法官同調辭職 貴族院に於て復活せられたる司法官増稅案が兩院協議會に於て創設せられたるに付同調法官東京地方裁判所及區裁判所の判事六十五名は辭表を取置めて提出す(三月廿四日)

●女王御降嫁 伏見宮第一王女禰子女王には侯爵山内豐景(御降嫁此日大禮を舉げさせ給ふ(四月六日)

●日四通商條約 日四國特別通商條約批准公布せらる(四月六日)

●大砲操縦免許 東京力士の張出大砲大砲右衛門は熊本吉田家より操縦の免許を受く(四月七日)

●増稅案運動首魁 司法官増稅案運動の首魁たる判事長森藤吉郎に依て官を免ぜらる(四月十七日)

●札幌大火 午後零時四十分札幌區南一條四丁目南側金物商某方より出火二百五十餘戸を燒失す(四月十八日)

●瓜生皇子銅像除幕式 淺草公園内に建設せる會津の慈善家瓜生皇子の銅像除幕式を行ふ(四月十九日)

●日本女子大學 日本女子大學は此日を以て東京小石川區高田豐川町十八番地に開校し廿七年四月九日第一

◎三世河竹新七(二月二日) 年六十狂言作者なり本名兼川金作といふ

◎伊藤圭介(一月廿一日) 年九十九從四位勳三等男爵理學博士にして有名なる博物學者なり幼名を西山左伸といふ名古風の人明治十四年大學教授となり同年内閣博覽會の審査官となり又東京學士會院會員たり

◎田村耕平(一月廿一日) 栃木縣選出貴族院議員

◎福澤諭吉(二月三日) 年六十八白金山本願寺に葬る豐前中津藩士慶應義塾創立者として日本最初の洋學者として名あり大阪堂島中津藩の倉屋敷に生る壽池又三十谷人と號す大阪精方洪庵の塾に學ぶ安政五年廿五歳の時江戸に來り鐵砲洲中津藩の中屋敷に塾舎を設く是を慶應義塾の基礎とす翌六年幕府米國に派遣するに方り之れに従ひ又文久二年幕府使節を歐洲に遣す事あり諺吉其一行に加はり佛英蘭露の諸國を歴遊し西洋の文明實況を知る明治十五年時事新報社を創立し大に政治經濟に就て論評し時代精神を鼓舞するを以て任ぜり又著書翻譯書等頗る多し

◎山科祐五(二月四日) 天澤宗寺門派管長江州三井寺住職

◎三善克巳(二月七日) 年四十八海軍少將從四位勳三等なり金澤藩士廿一年島岡同航委員長として英國に出張して廿三年同艦長たり次で少將に進み横濱實業館府艦隊司令官と爲る

◎山田鬼齋(二月廿日) 年卅八彫刻家なり越前三國の人本名を常吉廿九年東京美術學校教授に任ず第二回第三回内閣博覽會とも出品して賞を受け廿九年木彫家物語の額を開龍世界展覽會に出品し特別賞を受く

◎三世中村富十郎(二月廿一日) 年四十三俳優

◎酒岡公張(二月廿五日) 從二位子爵高知藩士國書頭權密顧問官等を勤む

●回卒業生百廿一名を出火す(四月廿日)

●迪仁御生誕 皇太子紀殿下第一王子御分機五月五日王子を迪宮裕仁と御命名明治天皇の第一皇孫なり(四月廿九日)

●早大設立計畫 東京專門學校は愈々大學の組織に改めらるる明年度九月より基本金卅萬圓の募集實施す其準備として高等理科一年生を設置し此より開始す(四月)

●閣臣辭表 伊藤首相辭表を呈呈し次で渡邊樞相を除く外各大臣辭表を呈す蓋し財政方針に關する關係の不統一より起れり(五月五日)

●首相任免 伊藤博文の首相を免ぜられ樞密院議長西寺公望臨時兼任す(五月十日)

●郵船米國航路 日本郵船會社の米國航路は四週に一回なりし處新造船三艘を加へ二週に一回となす(五月十一日)

●殿相任免 渡邊樞相を免じ西園寺公望大藏大臣を兼任(五月十四日)

●社會民主黨結黨禁止 結黨をなしたる社會民主黨は内務大臣より結黨禁止を命ぜらる(五月廿日)

●既足禁止 警視廳既足禁止令を發布す(五月卅日)

●新潟縣大火 午後零時廿分新潟縣中蒲原郡小須戸町渡町より出火し戸數六百七十七を烏有に歸し全町僅かに四十八戸焼残る(六月一日)

●桂内閣成立 桂太郎を内閣總理大臣とし新内閣成立内務大臣内海忠房大藏大臣兼外務大臣曾根武助司法大臣清浦奎吾文部大臣齋藤大藏大臣平田東助逓信大臣芳川顯正山海相見玉陸相放の如し(六月二日)

●帝大總長 山川健次郎東京帝國大學總長に任ぜらる(六月五日)

●千早陸軍突 午前九時四十五分房州大房時神約一海

里の處に於て軍艦千早と水雷艦曙と衝突す(六月十八日)

●星亨被殺 星亨は東京市警事會に於て石山驛入案へスト罷防案の閣議中午後三時四十分株式會社日本貯蓄銀行相模支店伊庭想太郎五十一歳の爲に腹部及胸部を刺され重傷を負ひ被殺す加害者は其場にて逮捕さる(六月廿一日)

●新潟縣大火 午後十一時新潟縣南蒲原郡曾根村大字曾根より出火し全燒二百六十戸に及び翌午前三時分鎮火す(六月廿一日)

●北清軍凱旋 北清事變軍の山口第五師團長以下凱旋(七月十二日)

●毛利男父子被殺 日本鐵道株式會社技師長男毛利重輔は此日息助三郎を伴ひて信州輕井澤別邸に赴く途中華北峠にて機關車に故障を生じ列車逆行して危機迫りたれば息を抱き車外に飛出づる際車輪に觸れて父子共に慘死を遂ぐ(七月十三日)

●印刷局盜難 此夜印刷局に忍び入りて十圓紙幣三萬圓を盜みたる賊あり(七月十四日)

●ペリ記念碑 米國水師提督ペリ上陸記念碑除幕式を相州久里濱に行ふ(七月十五日)

●岩崎炭坑出水 福岡縣遠賀郡津村の岩崎炭坑出水の高坑夫六十九名溺死す(七月十七日)

●印刷局賊逮捕 去る十四日夜大藏省印刷局に於て未發行の十圓紙幣を窃取したる犯人東京本郷區駒込追分町四十五番地熊澤衛司逮捕さる(七月十八日)

●論功行賞 北清事變に従軍したる陸軍中將山口素臣以下陸海軍將士に論功行賞あり(七月十九日)

●牛馬を虐使すべからず この訓令農商務大臣より公布せらる(七月廿一日)

●路上觀物禁止 警視廳路上觀物興行を禁じ十月一日より施行するの訓令を發す(七月廿五日)

◎江馬天江(三月八日) 年七十七詩人なり名は正人又名は聖欽字は水鏡江州阪田郡中村の人

◎山崎東山(三月廿日) 年七十八儒者なり名は正忠字は子恕一字は恕公通稱兵太郎藤天居と號す

◎大島高任(三月卅日) 年六十五正四位勳三等盛岡の人幼名文治後周禮と改め後總左衛門と稱せり耐火煉瓦を試製し又鑄鐵爐を築造する等新業に貢獻する所跡からり明治二年八月大學教授となり累進して鐵山權頭小阪鐵山局長を経て佐渡鐵山局長事務長に任じ大藏技監に任ず又佛國鐵山及び金石萬國公會の名譽會員に推さる

◎石田英吉(四月八日) 年五十九從二位勳一等男爵貴族院議員土佐高知藩士高知縣安藝郡中村に生る維新前迄は長州藩士を以て國事に盡す明治二年長時縣少參事となり陸奥伯爵農務大臣となるの次官に擧げられ後貴族院議員に勲選せらる

◎稻田平部(五月五日) 年七十九發見發明家なり大和國磯城郡城島村の人明治九年長時計を創造す後煙火の改良に意を凝し廿三年頃米臼の杵を改造等をして世を益すること少からず

◎渡邊洪興(五月廿四日) 年五十四正三位勳一等越前府中の人幼にして漢洋の學を修め東京に出て慶應義塾に入る業成り官に任へ累進して十二年學習院所長に任じ後元老院議員東京府知事となり十九年帝國大學總長に任じ廿三年特命全權公使として英國に駐在し後衆議院議員貴族院議員に任じ錦鶴閣祿候となる

◎中島湘煙女史(五月廿五日) 年卅九本名俊子京都に生る文藝に富み才女の聞えあり中島信行の妻

◎大橋乙羽(六月一日) 年卅三文學者なり羽前米澤の人渡邊又太郎と稱す親友社の一員なり博文館主大橋佐平の知る所なり遂に養子となる

◎大河内正實(六月二日) 貴族院議員從三位子爵

●布哇、琉球事件 此日布哇、琉球に於て同地の検査官が本邦人に對し洋人と異りたる検査を行ひたる件に就き商議す右は此等地方の官民が深く人種上の迷想を抱き帝國臣民に對し清國人同様に侮蔑を加ふるも差支へなきかの如く誤解せるに因るものなり依つて我政府は有効なる處置に出でんとす後我が勝利なる(七月廿五日)

●水兵暴動 十七日午前八時廿分水兵約三百名横須賀遊樂場へ押寄せ亂暴を働き憲兵巡査は鎮靜の爲に被創し遂に東京警察砲兵聯隊より二大隊の兵員を繰り出し大騒擾を極む(九月十八日) ●外相任命 小村壽太郎を外務大臣に任ず(九月廿一日) ●新築靖國神社 二年前手斧始式を擧げ此日全部落成を告ぐ(九月廿一日) ●舞臺守府開廳 舞臺守府は此日より開廳す(十月一日) ●清國謝罪使那桐一行は歸途に就く(十月二日) ●衆議院議員選舉法施行令 明治卅三年法律第七十三號衆議院議員選舉法施行令は裁可の上此日公布さる(十月四日) ●上武鐵道開通 日本鐵道熊谷停車場より秩父大宮に至る線路上上武鐵道熊谷停車場十二哩餘は開通式を擧行す(十月七日) ●韓國立后式 韓國廢立后式を行ふ(十月十五日) ●江戶橋開通式 廿二年六月を以て改造に着手したる江戶橋は午前十時開通式を擧ぐ(十月十五日) ●鹿兒島大火 午前三時鹿兒島市東石町新保方より出火して山下町迄延焼し三百六十三戸を焼失す(十月廿三日) ●外債不始末 政府は米國に於て五千萬圓の外債を募らんとするに事成らず其始末世上に暴露す(十月廿四日) ●瀋陽神社開式 故北白川宮の靈を祭れる瀋陽神社の開式を擧行す(十月廿七日) ●海峽定期航海開始 北海道は小樽函館間に定期航海の開始の爲郵船會社に補助金交付を契約し此月より

●織田信長(六月六日) 舊出羽國天童藩主從三位子爵(星亨)六月廿一日) 年五十二從三位勳二等東京の人横濱税關長たりし事に依り辭し英國に學びパリストルの學位を受け歸朝し爾來政界に奔走し自由黨に投ずる又朝鮮政府法務顧問となり廿一年進歩自由聯合の憲政黨内閣成るより官を辭し關東自由派の首領となり憲政黨分裂の説を唱へ遂に成功す後市政の事に著目し市會議員となり廿三年選信大臣に任じ幾くもなく辭して市會議員長となり此日伊庭想太郎の爲に刺されて斃る(八月十九日) 年五十七正二位侯爵清瀧源王なり(八月十九日) 年五十七製茶家なり名は保明伊賀國西山の人世々津藩士たり明治十一年靜岡縣紅茶傳習所に赴きて製茶法を研究し十四年紅茶製造所を設置し遂に好評を得ず ●戸塚文海(九月九日) 年六十七勳二等軍醫なり名は正孝慶應三年將軍德川慶喜文海を召して侍醫と爲す明治五年海軍大醫監に任じ九年海軍軍醫總監に遷む十六年辭して高木兼寛と謀り東京慈惠醫院を設立す ●瀧利亭(九月廿六日) 年六十九萬葉名は瀧字は子直和亭又關田と號す其の畫室を時香館といふ東京の人山河の勝景を討し東瀛西走すこと十餘年明治六年博覽會に方り政府の命を受けて着色の巨幅を作る又内閣勸業博覽會毎に出品して賞を受く ●長瀬時衡(九月廿七日) 年六十七正五位軍醫通稱古備石と號す備前野郡長瀬村に生る大阪軍事情報に奉職し野營醫を編み廿六年軍醫監に進む後西洋接骨術を研究し東京に仁壽病院を建つ ●大戸瑞(九月廿日) 年七十三貴族院議員(島岡國威

(明治三十四年)

一二四

り毎月五回の航海をなさせしむ(十月) ●京都商會の美譽 京都の泰商藤原忠一君は今同京都帝國大學へ三萬圓早稲田大學基本金中へ二萬五千圓を寄附したり(十月) ●大演習行幸 大元帥陛下には仙臺地方に於ける陸軍大演習御統監の爲午後三時上野御發駕(十一月六日) ●李鴻章逝去 清國直轄總督一等侯爵李鴻章逝去す(十一月七日) ●長距離競争 時事新報社の計畫に於ける十二時間七十哩の競争は上野不忍池畔にて行はる(十一月九日) ●運幸 大元帥陛下には午前十一時十分東北陸軍大演習御統監より上野に還幸あらせらる(十一月十二日) ●勅諭令解禁 韓國防令解禁は此日限り之を撤回に協議調ふ(十一月十五日) ●若松製鐵開業 筑前若松製鐵所は開業式を擧行(十一月十八日) ●女王御降嫁 久瀨宮の御妹若子女王には子爵山崎實に御降嫁(十一月廿七日) ●富山縣海嘯 富山縣下滑川水橋伏木の各町に海嘯起りて道路を壞つ(十一月廿七日) ●有栖川宮御辭職 有栖川宮には本職並に兼職を去り給ひ皇太子殿下御輔導の大任に當らせらる(十一月廿七日) ●伊勢神宮遷座式 伊勢神宮の内宮遷座式は午後五時を以て執行せらる(十二月二日) ●第十六期帝國議會開會 第十六期帝國議會召集せられ十日開院式(十二月七日) ●直統 帝國議會開院式運幸の途次體ヶ關の方へ曲らせ給はんとする時前代藤田中正造右手に封書を挿げ車駕を要して直統せんとす捕へられ同夜放逐せらる(十二月十日)

●吉原火災 午後五時廿五分東京吉原角町十三番地貸座敷長長樓長谷川覺三郎方より出火し全焼廿二戸(十二月十二日) ●日本興業銀行 日本興業銀行定款發せらる(十二月十四日) ●軍旗授式 新設騎兵第十三及第十四第十五及第十六四個聯隊の軍旗授式を宮中風凰の間に於て擧行(十二月十九日) ●京橋開通式 東京京橋開通式午前十一時擧行す神奈川縣橋本郡川崎下宿八十三番地通西川お徳父中四重兵衛八十八歳京橋區銀座三丁目十八番地朝日久蔵母おひさ八十八歳兩人渡初をなす(十二月廿一日) ●炭坑夫暴動 午後八時長崎炭坑夫三百餘名の暴動あり(十二月廿三日) ●交渉成立 政府と政友會との交渉熱議の末調停成る(十二月廿五日) ●英帝謁見 英國巡遊中の伊藤侯英帝に謁見す(十二月廿七日) ●行賞 山縣元帥以下十八名に行賞あり(十二月廿七日)

●小山久之助(十月六日) 長野縣選出衆議院議員 ●中上川次郎(十月七日) 年四十八豐前中津の人明治二年東京に出て慶應義塾に學ぶ七年英國に遊學歸朝後諸者に職を奉じたりし辭して民間に在り叔父福澤諭吉と共に時事新報を創設し又諸會社の重役となり廿四年三井家の聘に應じ入りて銀行の専務理事となる ●坂東秀調(十月十三日) 年七十二俳優 ●大橋佐平(十一月三日) 年六十八出版業博文館の初代社長岡の人なり ●尾崎長知(十一月十三日) 年六十三初め荒川其作と稱す尾張藩士なり文久中京橋の間に往來し國事に熱心す後熱田奉行となり尋で船奉行たり ●黒澤儀任(十一月) 年六十四儒者なり字は毅齋水齋と號す弘前藩士 ●木村邦舟(十二月九日) 年七十二正五位攝津守と稱す幕府の名臣風に海軍并に外交の事を掌り功績頗る多し萬延元年正月命を奉じて米國に航し後海軍總監となり意見著々行はれ海軍の面目を一新す後海軍頭取及勸定奉行勝手方を命ぜらる維新後新政府より聘せられし辭して應ぜず ●中江篤介(十二月十二日) 年五十五高知の人佛蘭西學者なり明治初年佛蘭西に留學歸朝後元老院書記官外國語學校長に擧げられしも辭して自家塾を開き法政史學哲學を教ふ後保安條例に依り追はれたるに於て東に歸り政論立憲自由新聞北門新聞等に主筆として盛んに政治を論ず又選ばれて衆議院議員となる ●山上樸園(十二月廿七日) 曹洞宗管長總持寺住職 ●伏島近衛() 年六十五上州の人明治十一年第七十四銀行を起して之れが頭取となり廿七年私財八萬圓を投じ新吉田川を鑿り廿一年新吉田川を鑿り又橋を架する事六ヶ所に及ぶ

(明治三十四年)

一二五

明治三十五年

大阪南大劇場火災 午前四時七分大阪南大劇場附屬西南角すしや岡野若太郎より出火し同座及び外六戸を全焼し五時十分火了同座は明治卅年三月落成し建坪五百卅一坪の大建物なり(一月四日)
陸軍分捕事件 陸軍分捕事件に就き廿日憲兵廣島に出張して事實の有無を調査せしに按察の馬蹄銀數多を發見す(一月廿四日)
青森聯隊の擄奪 青森歩兵第五聯隊第二大隊山口大隊長以下二百十名は此朝日代に同つて行進中田代と田茂木野との中央二里半の所に於て大體に遭ひ山口大隊長以下百廿九名は凍死せる如くして僅かに七十一名のみ生存す(一月廿五日)
五聯隊生存者 第五聯隊に生存者續々發見せらる山口少佐も亦生存す(二月一日)
九十九里派大旋風 千葉縣九十九里派附近に大旋風起り被害あり(二月四日)
旅團長邸押収 分捕事件捜索の結果眞鍋旅團長邸より約銀其他の貴重品を押収す(二月九日)
日英同盟 今年一月廿日英日同盟條約の調印成り本日發表す(二月十二日)
人頭照焼 大阪にて人頭照焼の藥品として用ひらるるを發見す(二月十六日)
日英同盟祝賀會 貴族院併合して日英同盟祝賀會を華族會館に開く是れ之前後して各政黨其他の諸團體に於て祝賀會を開くもの多く世論同盟を賛成す(二月十七日)
高崎炭坑瓦斯爆発 炭坑内瓦斯爆発して即死重傷者あり(二月廿一日)
實業家送澤榮一以下廿名は國家經濟に直接間接に裨補するに功からざるを以て叙勲叙位の御沙汰あり(二月廿二日)

授爵 内閣總理大臣桂太郎に伯爵特命全權公使林董に子爵司法大臣清浦奎吉大藏大臣曾根武助海軍大臣山本權兵衛農商務大臣平田東助文部大臣菊池大麓外務大臣小村壽太郎の六名に男爵の授爵式あり日英同盟締結の功によりてなり(二月廿七日)
伊藤歸朝 海外漫遊中の伊藤博文歸朝大儀に入る(三月一日)
鐵毒被害民上京 鐵毒被害民百廿四名は農商務及内務の兩省に迫りて大臣に面會を求む(三月四日)
第十六期議會閉會 第十六期帝國議會閉會式を舉ぐ(三月十日)
汽船火災 英國汽船カマリノ號は石油三千噸其他の貨物を積込めて横濱を出帆し尾州武豐港へ向け航行中十七日神奈川縣三浦郡横須賀沖に於て午後四時突如出火し此日鎮火す(三月十八日)
労働者監視會禁止 二六新報にて發起せる労働者監視會は監視會より禁止せらる(三月十九日)
汽船沈没 日本郵船會社汽船仙臺丸は韓國全羅道沖青山島附近に於て濃霧の爲坐礁し直に沈没す(三月十九日)
第五師團長辭職 第五師團長山口素臣分捕事件の責を引て辭職を呈呈せり後却下せらる(三月廿日)
金澤聯隊擄奪 金澤聯隊に擄奪扶助患者續出し八十餘名に及べり(三月廿六日)
日本興業銀行開業 同行は資本金壹千萬圓を以て東京日本橋區兜町一番地に開業す(三月廿七日)
陸相任命 兒玉陸相兼任を解かれ寺内正毅陸相に任ぜらる(三月廿七日)
公債發行 五分附利公債六百萬圓四千六百圓臺灣事業公債五百萬圓を發行す(三月廿九日)
愛國婦人會第一回總會 東京九段階行社にて愛國婦人會第一回總會 東京九段階行社にて愛國婦人會第一回總會

黒田長知(一月七日) 年六十五正二位勳三等侯爵
井伊直監(一月七日) 年五十五正四位上從二位伯耆守
馬場不知(一月十一日) 年七十四名は殺字は致遠空齋と號す津山藩の儒臣なり安政五年藩校督學と爲り寺社取次に進む元治元年眼を疾ひ全く盲す詩に長じ東京新聞に投寄して名天下に傳ふ廿四年露國皇太子大津の變に際し詩を賦し赤心を表し花房義實を拜て天覽に興る後數言を以て其詩幅を東京官噫學校に下賜し生徒獎勵の料とす
永山盛輝(一月十七日) 年七十七從二位勳一等男爵貴族院議員なり薩摩の人にて勳定奉行或は京都留守居たり戊辰の役に監軍として轉戦し維新後伊那縣大參事新潟縣令元老院議員に歷任す
楠本正隆(二月七日) 年六十五從二位勳一等男爵なり四洲と號す舊薩前大村藩士維新の功臣薩摩藩置縣の際克く藩政を處理し幸も藩費を中央政府に遺す新藩縣知事を拜するの時百姓の紛擾あり其鎮撫に力めて功あり後東京府知事となり十二年元老院議員に任命廿二年副議長なる民間に在りて衆議院議員に選ばれ其議長に推さる又東京市會議長を勤む憲政本黨にありて其重鎮たり議員を罷めて後は歸郷間祇候を命ぜらる
藤堂高翔(四月七日) 子爵西伊勢久居藩主
丹羽長保(四月十三日) 舊奥州二本松藩主子爵貴族院議員
水野忠幹(四月廿日) 舊新宮藩主男爵
牧野芝石(四月) 年六十六鳥取の遊人なり名は講修父の業を受けて初めて醫となり明治維新の後歸を請め専ら書を以て家を立つ
瀧の周清丸(五月廿三日) 年七十四狂歌師なり姓長岡氏にして通稱を清兵衛といふ

明治三十五年

入會第一回總會を開く(三月廿日)
船井大火 午前三時四十分福井市橋北佐住枝町渡井善藏方より出火し町敷卅三戸敷三千四百一戸を焼く死者六名重傷十六名輕傷二百廿名(三月廿日)
大藏券券 大藏券券八百萬圓を發行す(四月一日)
聯合醫學會 第一回日本聯合醫學會を上野公園に開く會者千數百名(四月二日)
韓岡白銅 韓廷は白銅貨鑄造停止の令を發す(四月五日)
二六新報社長拘引 二六新報社長以下六名は委託金騙取の罪を以て拘引せらる(四月五日)
遠英艦被擄 淺間高砂の遠英艦は午後一時横濱を抜錨す(四月七日)
佛骨安置 昨年運羅より入りたる佛骨は英皇皇太后の陵北に安置さる(四月十三日)
精神病院火災 京都市洛北舟岡町舟岡精神病院は午前四時四十分失火し入院患者廿九名の中十六名焼死す(四月十三日)
清教協會 淺澤榮一益田孝等清教協會を設立す(四月十四日)
興福寺五重塔 興福寺五重塔落成式を奈良に於て舉行す(四月十五日)
九州鐵道延長 九州鐵道は大分縣迄延長する事に決す(四月十八日)
茨城縣大火 午前二時茨城縣東茨城郡大貫町より出火戸數凡二百廿戸電柱十六本を焼失し同四時四十分鎮火す(四月十八日)
遣英宮御出發 英皇冠式に御名代として参列せらるべき小松宮彰仁親王には午前十時御乗船ケルニッヒアルベルト號にて御渡英の途に就せらる(四月十九日)
國民同盟解散 國民同盟會解散式を芝山内紅葉館に

開き解散す(四月廿七日)
宮城縣大火 宮城縣加美郡中新田町宇新町より午後九時失火し町役場警察署を始め寺院二ヶ所戸數四百九十三戸を焼失し翌日午前六時鎮火す(四月廿日)
若松大火 若松若松松三日町町物屋方より午後一時出火し二百外寺院一戸を焼失す(五月一日)
海上大風 海上大風に於て天國國カキヤチシ流大二百廿名溺死す(五月二日)
若手懸大火 午後一時頃若手懸若手懸御堂村安田辰四郎方より失火し酒宮内町に延焼し登記所を除く外諸官公署其他三百廿戸を焼失す(五月五日)
將官建威 中將に陞せられしもの五名少將に進みしもの十一名(五月五日)
京都村井商會出火 京都村井兄弟商會は午後十時廿分頃西部乾機室より出火し同工場全部焼失(五月七日)
東宮御所柱石敷石式 東宮御所柱石敷石式を行はせらる(五月九日)
八重山艦被擄 八重山艦被擄沿岸に於て坐礁し船體大破せり(五月十一日)
愛知縣知事辭職 神愛知縣知事縣政素難疑獄の爲め責を引て辭職す(五月十二日)
直訴 午後五時卅分 皇后陛下下御阿闍永田町華族女學校より直訴の途次永田町二丁目大藏大臣官邸の附近を御通過の折若手懸九戸郡輕米村大字上宿廿五番戸原能之助五十一歳なる者二尺五寸許りの竹の先に二通の上書を挟み右手に捧げ玉を自莫て進み寄りしに護衛する者之れを捕ふ(五月十三日)
分捕事件停職 栗屋大佐外三名は分捕事件の爲停職を命ぜらる(五月十三日)
馬場盛風雨 十四日夜來馬場地方大暴風雨あり(五月十五日)

宗重正(五月廿五日) 年五十六從二位伯耆守貴州殿原藩主對馬守義和の三男幼名を義連と呼び明治二年版籍を奉還す明治十五年所藏の名刀小鳥丸を献上し思召を以て金杯三箇を賜はり十七年伯爵を授けらる
小原重直(五月廿八日) 年六十七初め澄太郎と稱し米華と號す岡山藩士なり尊攘の說を説き幕府の直東松山成之助を暗殺し獄に下る後列事監獄局長を歴て元老院議員に任じ後貴族議員に勳選せらる又畫を好み鑿々繪畫共進會及内閣勸業博覽會美術部の審査員に擧げらる
山名實義(六月十一日) 年六十七藩伯なり江戶麹町二番町に生る明治初年工部省に出仕し後内務農商務に奉職し明治十年佛國博覽會事務取扱及博覽會共進會等の審査員に擧げらる事前後十數回なり廿一年全國寶物取調の任を帯びて各地を歴遊し卅年帝室技藝員となり古社寺保存會委員に任ぜられ翌年東京美術學校教授となる
千葉清宗(六月廿八日) 年八十四從六位勳王家なり大和國十津川の人幼名小三郎後定之助と稱す家世々里正たり
四郷從道(七月十八日) 年五十九從一位大勳位侯爵なり薩摩侯の士にして隆盛の弟なり幼名は福澤藩の輕卒にして出て茶童となり三人口を賜はり龍庵と號す維新に功あり明治二年六月山縣有朋に從て歐洲に使者露佛諸國を巡視し三年歸朝後軍務に奉じ遂に元帥に至る此間參議に任じ又文部陸軍農商務海軍内務の諸省に大臣の政務を執り又樞密顧問官に任ず廿五年六月野に下つては品川彌二郎と共に國民協會を建て、保守主義の政黨を鼓吹す
北條角麿(七月廿日) 年八十五字は會安一樂と號す幼名牛飯又左内と稱す後角麿と改む文政元年正月羽州

明治三十三年五月三十一日

●新造三堂... 英國にて新造したる一等戦艦三堂... 東北巡警... 皇太子殿下に於ては午前八時四十分上野御... 皇太子殿下に於ては午前八時四十分上野御... 皇太子殿下に於ては午前八時四十分上野御...

●松本線落成... 信州松本線鐵道は落成祝賀會を開く... 萬國郵便加盟記念... 萬國郵便加盟廿五年記念祝賀會を帝國ホテルに於て開會す(六月廿日)...

●新庄に生る世々戸澤家に仕ふ博く詳著を窺ひ其遺稿を... 嗣位(八月九日) 年五十幼名恒太郎又は太郎成童... 以後忠雄と稱し後示さふ越中の入自由黨員として...

明治三十三年五月三十一日

●錦帯橋... 昨夜來の暴風雨にて周防岩國町錦帯橋は墜落し流失家屋あり(八月十二日) 大谷派法主退隱問題... 大谷派法主退隱問題に就き書...

●兼て開成式を舉行す(十月十九日) 大演習行幸... 大元帥陛下には九州の陸軍大演習を御統監の爲午前七時四十分新橋御發駕(十一月七日)...

●今村清之助(九月廿六日) 年五十四信濃下伊奈郡出原村の人にして家を出で千辛萬苦終に實業界の人となり株式取引所の設立に盡力し十七年陸奥光と共に...

(明治三十五年)

●教科書事件 突然教科書事件の大騒ぎ起り休職視學官村上幹富及び現任群馬郡々視學太田鶴雄は被告人として令状を發せらる是れ金澤堂英堂普及舎の三書肆に於ける教科書檢定に關する收賄事件の爲なり(十二月十七日)

●教科書事件拘引 教科書事件に就き金澤堂主原亮三郎同理事堀田梅太郎香川縣書記官阿南仙童第一中學校長西谷寅二等拘引せらる其後拘引せらる者續々あり總て其數百四十三人なり(十二月十八日)

●政府議會開調停 近衛篤磨政府對議會間に調停を試むるも聯合黨の拒絶に依り議調はす(十二月十九日)

●議會再停會 議會は此日より一週間再停會を命ぜらる(十二月廿日)

●大磯大火 午後一時神奈川縣中郡大磯町南本町旅館客代屋より出火し南本町北本町神明町山王町同新屋敷南下町北下町長者町に延焼し焼失戸數六百四十戸(十二月廿六日)

●衆議院解散 衆議院の解散を命ぜらる共に貴族院の停會を命ぜらる(十二月廿八日)

●馬關大火 馬關豊前町より午前七時出火し同町全部竹崎町細江町の一部に延焼し戸數二百餘戸を焼失す(十二月卅一日)

●哲學館問題 文學博士井上圓了の校長たる哲學館は其特權たる中學校師範學校の教員に對する無試験檢定の資格を取消され尋て其卒業生は悉く文部省檢定の不合格者と決定せらる之れ同校倫理教授の過失よりなり(十二月)

事業に盡せる功に依り伯爵に陞爵す

◎高山林太郎(十二月廿四日) 年卅二櫻牛と號す羽前鶴岡の人東京文科大學に入り卒業の後講師となり太閤の記者たり後文學博士を授けらる評論家として世に名聲噴々たり

(明治三十六年)

●ベスト流行 東京にベスト類りに流行し警視廳ベスト預防の爲東京瓦斯紡績機拂を市參事會に交際したるも否決なる(一月八日)

●ベスト類 東京のベスト益流行し本所病院醫長横田醫學士遂に眞症ベストに罹る(一月九日)

●首相非難 桂首相地方官會議に演説して政府の政略を非難し議會の行動を非難せりと世論囂々たり(一月十五日)

●總津大火 午前一時静岡縣志太郡總津字城の腰郵便局と其隣との間より出火し字本町十一人町及觸ヶ島全部を燒き其戸數六百餘戸に及ぶ(一月十六日)

●觀學官投身 岩手縣視學官内山實は教科書事件につき苦悶し投身して死す(一月十六日)

●北白川宮銅像落成 龜町竹橋内に建立中の故北白川宮能久親王の銅像落成につき除幕式を舉行す(一月廿八日)

●教科書事件議決 教科書收賄事件の議決決定今日に發表休職視學官二名休職書記官一名外十一名は收賄有罪を以て輕罪公判に移さる證據不充分を以て免訴となりしもあり續いて其罪に準じて處罰せられ卅七年七月頃に到り終結す(二月十五日)

●總選舉 衆議院議員總選舉を行ふ(三月一日)

●第五回博覽會 大阪に於て第五回内國勸業博覽會開場式を午前十時より催す會期五ヶ月(三月一日)

●神田萬世橋開橋 東京神田萬世橋開通式を舉行し神田區三崎町一丁目七番地信谷直行八十五歳同妻阿瀧六十歳同區花房町一番地光川秀孝母阿廣八十五歳同區在籍目下神奈川縣川崎町寄留供養坂東又三郎父中西重兵衛九十歳の四名渡初を爲す(三月八日)

●海軍大演習 海軍大演習を高麗洋に於て此日より開始廿九日終了(三月十日)

●築港道路開通式 大阪築港道路開通式を舉行す(三月十五日)

●行政整理 桂内閣行政整理の一部とも見るべき官制の改正を發表す(三月廿日)

●教科書收賄判決 初めて教科書收賄事件の宣告あり其他豫審に係れるもの續々あり(三月廿日)

●保險會社重役拘引 大阪生命保險會社取締役岡部廣は委託金消費の告訴を受け拘引せらる(三月廿六日)

●四十二萬圓事件 東本願寺に於ける四十二萬圓行衛不明事件に關し法主より石川舞台以下九名に對して申渡あり石川等は恐縮して請書を差出し之にて事件落着す(三月廿八日)

●聖上御西下 天皇陛下には午前八時卅分新橋御發車神戸觀禮式及大阪の大博覽會開場式に臨御の爲御西下あらせらる(四月七日)

●露國撤兵期 露國第二撤兵期日なれども實行せず(四月八日)

●國定教科書 小學校令を改正し國定教科書新制度を採る(四月十日)

●第三回大觀禮式 神戸沖に於て舉行 陛下には淺間艦に乘御遊ばさる列艦は數島外六十三隻(四月十日)

●花井お梅出獄 十六年の間市ヶ谷監獄署に苦役し居たる箱屋殺し花井お梅は刑期満ちて出獄す(四月十日)

●小樽大火 北海道小樽區手宮裏町より午後十時出火し全燒九百卅餘戸に及び翌朝二時卅分鎮火す(四月十七日)

●博覽會開會式 天皇陛下には第五回内國勸業博覽會に臨御開會式を舉げさせ給ふ(四月廿日)

●秋田縣大火 午前二時秋田縣平鹿郡横手町より出火家屋千二百を燒く(四月廿六日)

●消防稅 警視廳消防取締規則を發布す東京府は卅六

◎大谷光啓(一月十八日) 年五十四本派本願寺管長なり明治四年本願寺住職を繼ぎ第廿一世の法燈を傳ふ廿九年伯爵を授けられ其後從二位に叙せらる嘗て維新の功勞に依り御紋章五條裝束を賜はり又當時佛敎管長中の最前任にて上席たり其勤王の事績に至つては枚舉に遑あらず明如上人といふ

◎田口米作(一月十八日) 年四十滑標運判書家

◎中村元輔(一月廿四日) 年六十五正三位勳二等舊豐後日田藩士詳馬縣知事錦馬縣候貴族院議員内務次官等に歴任す

◎中島歌子(一月卅一日) 年六十三江戸日本橋北橋町に生れ幼名をトセと稱す文久元年水戸藩士林忠右衛門に嫁す忠右衛門は王事に盡し下野國田野原に死す歌子は國文歌道に委れ明治の初年歌道衰退に方り其挽回に盡す所あり

◎中井芳楠(二月九日) 年五十一和歌山縣の人正金銀行取締役倫敦支店長なり日清戰爭前銀貨暴落にて外國銀行間に大恐慌を生じたる際に方り能く斷麻の手腕を揮ひ初めて銀行家中に頭角を顯はす

◎小松宮彰仁親王(二月十八日) 年五十八初め仁和寺宮嘉彰又は東伏見宮と稱し後小松宮と改む明治元年征討總督として伏見島羽に出陣あらせられ又會津征討の總督とならせらる明治廿三年陸軍大將に任じ廿八年參謀總長たり同三月征滿の勳功により功二級を賜ふ卅一年元帥の稱號を賜ふ計音建するや廢朝三日葬るに國葬を以てす

◎五代目尾上菊五郎(二月十八日) 年六十俳優十二代目市村羽左衛門の次男幼名を九郎右衛門と云ふ五代目音羽屋とて世話物狂言に長じ妙技關十郎と並び稱さる

◎黒川通敏(三月五日) 年六十一從二位子爵陸軍中將なり小松藩士明治六年五月陸軍大佐となり累進して中

年度より審大税を賦課する事なれり(四月廿八日)
●國民中學講義録 大日本國民中學會の正則中學講義録第一號を發行す(五月五日)
●第十八期議會開會 第十八期帝國議會は此日召集せられ十二日開院式(五月八日)
●記念美術館立院式 東宮殿下御慶事記念美術館は上野帝國博物館内に於て立院式を行ふ(五月十日)
●聖上還幸 天皇陛下には關西より此日午後三時廿分新橋に還御(五月十二日)
●三菱造船所同業罷工 長崎三菱造船所立神工場にては職工九百餘名集つて同盟罷工をなせり其原因は雨の漏るをも之を修繕せざるのみか雨の爲執務し能はざるものは歸宅すべし歸宅せば給金を時間割にて減すべしと言渡しありし故なり(五月十四日)
●議會停會 衆議院三日開會を命ぜらるる後政府と政友會首領の間に妥協調ふ(五月廿一日)
●和歌山縣大火 和歌山縣東牟婁郡西村大字湯の峰に出水し戸數二百餘戸を焼く(五月廿五日)
●第十八期議會閉會 第十八期議會閉院式(六月五日)
●土佐派脫會 政友會政府妥協に就き同會に内訌生し片岡健吉林有造等の土佐派廿餘名脱會す(六月六日)
●露國陸軍相來朝 露國陸軍大臣クロボトキンは陸軍中將ソルコフ以下十名を率ひ正午參内す(六月十三日)
●東京市長助辭職 三十間堀埋立事業に關し市長及び助役は市參事會員と共に辭職を提出す(六月十五日)
●市街鐵道起工式 東京市街鐵道會社は有樂町なる同社車庫に於て起工式を舉行す(六月廿一日)
●華嚴寺遺跡發見 一高學生藤村操は日光華嚴寺に遺跡發見す(六月廿二日)
●東京市長 尾崎行雄東京市長となる(六月廿九日)
●日比谷公園開闢 日比谷公園の開闢式を舉行し同時

に公衆一般の縦覽を許す(七月一日)
●東亞太守 露帝は露領東亞細亞太守府設立の詔勅を下しアレキセフを東亞太守に補し極東に於ける文武一切の全權を有せしむ(七月十二日)
●政友會總裁後任 十三日伊藤博文樞密院議長に任ぜられたるを以て政友會總裁を辭せり依て政友會は後任として西園寺公望を推戴す(七月十四日)
●内相更迭 内海忠勝内相を罷免し齋藤實見玉源太郎を兼任す(七月十五日)
●勸選議員 新に貴族院議員に勸選せられたるもの數多あり(七月十五日)
●三大臣更迭 文相菊池大藏卿内相兒玉源太郎兼任農相平田東助卿法相清浦季吉兼任選相芳川顯正卿藏相曾根龍助兼任(七月十七日)
●政友會脫會 德島縣選出代議士秋を連れて政友會を脱會し併せて同支部を解散す(七月廿六日)
●日露交涉開始 小村外相訓令を駐露野公使に傳へ露國政府と交渉を開始せしむ(七月廿八日)
●日露交涉提議 栗野駐露公使は露國外相ラムズドルフに會見して日露協商開始を提議す(七月卅一日)
●濟生學舎廢校 濟生學舎長長谷川泰は文部省に出願して大學組織ならしめんことを許されず此日突然同校を廢す事甚だ突然に出て一時千餘名の學生其學ぶべき方向に迷ふ(八月卅一日)
●佐世保集結 常備艦隊を佐世保に集む(九月一日)
●福岡醫科大學官誓式 此日同校に於て舉行す(九月十四日)
●三大臣任命 波多野敬直を司法大臣に大浦築武を選信大臣に久保田謙を文部大臣に任す(九月廿二日)
●外相第一回會見 露國公使ローゼンは小村外相を訪うて日露協議の對案を手交せり之れ第一回會見なりと

將となる第三及第四師團長に歴任し廿六年東宮武官長兼東宮大夫に任ぜらる
●原田眞太郎(三月廿四日) 年五十七正二位勳二等陸軍少將周防の人卅年九月少將に進み後憲兵司令官輻重兵監臨時陸軍建設部長騎兵監に補し卅五年將校生徒試驗委員長に補す
●古川市兵衛(四月五日) 年七十二續山家なり京都岡崎の人功名已之助後幸助といふ家督にして江戸の人古川太郎左衛門の養子となる横濱開港せらるるに及び其を輸出して利を得後足尾銅山の所有主となる
●益田克徳(四月八日) 年五十二佐渡の人晩年實業界に入り諸會社の重役を勤む
●須藤時一郎(四月十五日) 年六十三江戸の人本姓高栗大藏者に出仕し又銀行の要職を勤めたりし明治九年政界に投じ民権説を鼓吹せり東京府市會の議員及び衆議院議員等たり
●清岡長政(五月一日) 年七十三正三位爵京都の人明治十四年九月瀧子内親王祇候に命ぜられ十六年殿學に任じ十七年子爵を授けらる
●野村權三(五月八日) 年六十一正三位長州の人
●池田幸政(六月五日) 年六十八從一位勳一等侯爵岡山藩主肥後人吉城に生れ初め萬次郎と稱す相良伊岐守頼之の二男なり弘化四年池田家支信信守政善の養子となり明治元年遂に入て宗家を嗣ぐ
●藤井宜正(六月六日) 年四十三本派本願寺の學者なり越後の人明治四年法主歐洲漫遊に赴くや其一行に加はり途中分れて印度佛跡探究に従事し病を得佛國馬耳塞に返り遂に巴里に客死す
●内藤龍雄(六月七日) 年七十七漢學者なり水戸藩の

す(十月三日)
●露國第三撤兵期 露國第三撤兵期なれど履行せず(十月八日)
●日清通商條約 日清通商條約調印せらる(十月十日)
●内相更迭 桂首相内務大臣を兼任し内相兒玉源太郎參謀次長に補せらる(十月十二日)
●玉川電氣鐵道會社 資本金四拾萬圓を以て東京市麹町區内幸町壹丁目五番地に開業す(十月十四日)
●日銀總裁 松尾臣善日本銀行總裁となる(十月廿日)
●植柳授與 梅ヶ谷常陸山に植柳を授く(十月廿九日)
●汽船沈没 今朝矢越沖にて郵船會社汽船東海丸と露西亞汽船プロクレス號と衝突し東海丸は即時沈没す船客乗組員二百名の内百五十名行衛不明(十月廿九日)
●露兵南下 齊々哈爾濱の露兵南下し始む(十月卅一日)
●お伽芝居 お伽芝居第一回を東京本座にて川上音次郎一座にて公演藝壇は浮れ胡弓狐の殿列(十月卅一日)
●軍艦音羽進水 横須賀に於て進水式を舉行す(十一月一日)
●日露人格闘 露國水兵仁川に邦人と格闘す(十一月一日)
●大將親任 陸軍中將黒木爲植及同奥保隊陸軍大將に任ぜらる(十一月三日)
●東宮御昇進 陸軍歩兵中佐嘉仁親王殿下には此日を以て陸軍大佐並に海軍大佐に御昇進(十一月三日)
●大演習行幸 大元帥陛下には播磨に於ける陸軍特別大演習御統監の爲午前八時十五分新橋御發せられ(十一月十一日)
●特別大演習 播磨に於ける特別大演習此日より開始(十一月十二日)
●還幸 天皇陛下には午後二時四十五分陸軍特別大演習より新橋に御還幸(十一月十九日)

●品川上野間電車 三錢均一に依り開通す(十一月廿五日)
●貴族院議長 維川家達貴族院議長に任ぜらる(十二月四日)
●第十九期議會開會 第十九期議會は此日召集せられ十日開院式(十二月五日)
●貨物資金競争 鐵道作業局關西鐵道の貨物資金競争は極點に達し普通一噸運賃二錢五厘を三厘七毛五厘に引下げ大阪名古屋間を通じて運賃一噸僅かに四十五錢とす(十二月九日)
●勸諭奉答文 衆議院議長河野廣中は開院式勸諭の奉答文中に閣臣彈劾の意を含みしものを提出し議會可決し此爲紛擾を來す(十二月十日)
●議會解散 奉答文再讀の說を政友會進歩黨對露同志會共に唱へ結局非再讀派の議員二百卅三名と算へられ午後一時議員議場に入らざるの時勸諭を以て議會解散せらる(十二月十一日)
●大學名譽教授 理學博士山川健太郎工學博士辰野金吾醫學博士宇野邦是東京帝國大學名譽教授の名稱を授かる(十二月十四日)
●川崎發電所燒失 同所より出火し發電機悉く燒失す(十二月十五日)
●第一回紅葉會 故尾崎紅葉追悼の第一回紅葉會を紅葉館に開會者三百餘名後ち殆んど例年開く(十二月十六日)
●日印協會發會式 日印協會の發會式を華族會館に於て舉行す(十二月十八日)
●戰時大本營發令 官報號外を以て發表(十二月廿八日)
●日本銀行貨幣紛失 同行出納局に於て現金三萬圓紛失す(十二月廿八日)

世臣にして初名を正直翁海と號す十九年文科大學教授に任す
●長松幹(六月十四日) 年七十從三位勳三等男若菜山口藩士明治元年議政官武補となり以來諸官歴任し元老院議員歸國職候を命ぜられ廿四年勸選議員たり
●磯野小右衛門(六月二十一日) 年七十九大阪堂島米穀北濱株式兩取引所理事長
●室學次郎(六月卅日) 年六十四正五位帝國議會開くに及び新潟縣より選ばれて衆議院議員となり卅一年愛媛縣知事に任ぜらる後再び衆議院議員となる
●坪井次郎(七月十一日) 年四十三京師醫科大學長にして細菌學者鹿兒島藩士なり獨逸留學を命ぜられコッホ博士に就き結核治療法を研究し歸朝後醫學博士となる卅三年京師帝國大學創設せらるるに方醫科大學教授兼同學長となり水戸藩長を助けて大に同大學創立に力む
●中村禮仙(八月廿一日) 年卅八大阪の俳優の名手
●四代目竹村柳太夫(八月廿四日) 年六十四義太夫の名手
●津田眞道(九月三日) 年七十五從二位勳一等男爵法學博士美作國津山の人明治九年元老院議員となり十二年東京學士會會員に擧げられ廿三年衆議院議員に當選錫蘭副職候に任じ次で衆議院副議長となる
●九代目市川團十郎(九月十三日) 年六十六俳優なり七代目團十郎の五男天保十三年八月河原崎座の座元河原崎權之助の養子となる近代の名俳優なり
●久我建通(九月廿八日) 年八十九從一位なり侯爵久我通久の父
●田村怡興造(十月一日) 年五十參謀本部次長陸軍中將從四位勳二等功四級甲州の人明治八年八月十二日陸軍士官學校に入りたるを陸軍に籍を置くの初す廿五年參謀次長に任ぜらる

(明治三十三年)

●軍艦購入 伊太利セノナに於て竣工せる亞爾然丁の軍艦二艘を百五十三萬磅にて購入す(十二月廿八日) ●電車開通 新宿兩國間三錢均一法により開通(十二月廿九日) ●東京二六新報發刊 廿八年八月一日廢刊せし二六新聞東京二六新報と改題し發刊す()

●日進春日 亞爾然丁より購入せし軍艦を日進春日と命名して發賣す(一月一日) ●藤枝大火 靜岡縣志太郡藤枝町字本町石油及米穀小賣商小林金太郎方より午後九時出火し二百六十六戸を燒失す(一月三日) ●都督部廢止 都督部廢止し軍事參議官の親補あり(一月十四日) ●伏見華頂宮御廟 伏見宮員愛親王の御廟を充され博恭王を同宮御廟と定められ同時に博忠王を華頂宮繼承仰付らる(一月十五日) ●岩越線一部開業 喜多方若松間營業開始許可(一月十九日) ●日露外交斷絶 各大臣參内して外交斷絶の處断に就き各自奏上し小村外相は栗野駐露公使に訓電して外交斷絶之に關する附帶の訓令を發し公使館員を率ゐて露京を退京すべしと命ず(二月五日) ●最後會見 小村外相は露國公使ローゼンを訪うて最後の會見を遂げ外交斷絶の通牒を手交す之れ小村ローゼン第十六回會見なり露京に於ても午後四時栗野公使露外相と最後の會見をなす(二月六日) ●聯合艦隊出發 聯合艦隊東郷司令長官の下に午前九時佐世保出發同艦隊を四分し第一戰隊朝日三笠初瀬敷島富士八島第二戰隊常磐出雲磐手八雲吾妻第三戰隊千歲高砂笠置吉野第四戰隊遠瀨新高對馬高千穂須磨明石となり旗艦は三笠なり(二月六日) ●横須賀大火 午前二時頃相州横須賀町山王町一帯地時計商黒田實吉方より出火し戸數百九十六戸を燒失す(二月七日) ●歩兵上陸 歩兵第十二旅團長陸軍少將木越安綱の率ゐる兵前日仁川に上陸し此日京城に入る(二月九日) ●仁川海戰 昨八日海軍少將瓜生外吉は第四戰隊の外

(明治三十三年)

淺間及水雷艇隊を率ゐる海軍に入り千代田を合し共に運送船數隻を護つて仁川港に入る露艦コレツ先づ我水雷艇に發砲す茲に海戰の端緒を開き此日正午より砲撃開始し敵艦コレツ機銃射撃リリヤグ及露國汽船スンガリ亦自ら燃發す(二月九日) ●旅順第一次海戰 東郷司令官聯合艦隊を率ゐて出動し前後第一第二第三驅逐艦隊をして旅順を夜襲せしめて効あり此日正午過ぎ敵艦隊を攻撃して捷を得之れ旅順第一次海戰の第一捷なり(二月九日) ●宣戰大詔 宣戰の大詔を煥發す露帝亦宣戰の詔勅を發す(二月十日) ●商船沈没 商船泰吉浦丸青森縣靈の沖に於て露艦の爲撃沈さる(二月十一日) ●公使引揚 ロゼン男夜を以て公使館を引揚げ翌日横濱を出發す栗野公使も此日露國を去り十二日伯林に到る(二月十一日) ●駐露公使引揚 露公使パノフ館員及び護衛兵と共に仁川より佛艦に乗じ露國を去る(二月十二日) ●大本營 大本營を宮中に置く(二月十二日) ●軍事公債 國庫債券發賣圖を發行年利五分應募申込總額四億五千二百萬圓に上る(二月十三日) ●日進春日着 日進春日兩艦横須賀に着す(二月十六日) ●言海編纂 此日東京京橋區新榮町吉川弘文館より發行(二月廿日) ●電車開通 東京日本橋本町淺草橋間開通(二月廿一日) ●日露國防同盟 日露國防同盟を締結し調印を了す(二月廿三日) ●第一次旅順口閉塞 第一次旅順口閉塞船として天津丸仁川丸福丸武州丸武揚丸を遣ひ海軍中佐有馬真樹

●近衛篤磨(一月二日) 年四十二從一位勳二等公爵なり近衛忠房の長男にして京都に生る明治九年九月家督を相續し十七年七月公爵を授けられ九月興國留學仰付けられ十八年十月更に獨逸に留學仰付られ廿三年九月歸朝即日貴族院議員に任ぜらる廿八年三月學務院長に任じ廿九年貴族院議長に勅選せらる廿六年十二月樞密顧問官に親任又東亞同文會國民同盟會等に長として大に清韓問題に盡す ●丹羽長國(一月十五日) 年七十一正三位子爵舊二本松藩主 ●木加坦磨(一月十八日) 年八十二備前の老儒なり初め隱居後道夫と稱す ●瀨山嵐山(二月廿三日) 年八十二京都の書家なり ●四代目三遊亭圓生(二月廿七日) 年五十九本名立若勝太郎落語三遊派の頭取なり ●田口和英(二月四日) 年六十六正四位勳二等醫學博士なり明治十四年七月東京醫科大學教授に任ず ●豐澤廣助(二月十八日) 年七十四三越の名手なり淨瑠璃語り陸奥茂太夫の子なり幼名を卯三郎と呼ぶ ●四穀一(二月廿六日) 年六十本姓は齋山氏久之助と稱す岡山の人幼にして茶坊主に召され後果進藩校督事たり又權參事より參事六等列事に任ぜられ東京上等裁判所詰となりしが十年辭職して歸郷十四年閏谷實を復興し推されて其教頭となる二十三年衆議院議員に擧げられ廿五年閏谷實長として其經營に努め徳望あり ●廣瀬武夫(三月廿七日) 年卅七正四位勳四等功三級海軍中佐明治廿四年海軍少尉に任じ中佐に累進す征清の役に功あり後露京に駐劄六年頗る國情に通ず廿七年二月我水師の旅順を攻むるや朝日水雷長と爲り廿四日有馬中佐等と共に死す七十餘人を率ゐる五船に分乘し之を沈めて港口を塞ぐ三月廿七日再び四船を沈む武夫は

一三四

●南部利恭(十月九日) 年四十九從二位伯耆南郡藩主 ●中村龜三郎(十月十三日) 年六十七撰著なり江戸の人慶應二年六段に進み明治十四年七段となる ●松平頼聰(十月十七日) 年七十高松藩主從二位伯爵 ●陣番久五郎(十月廿一日) 年七十五二代の權綱なり出雲の人慶應元年權綱となる ●尾崎紅葉(十月卅日) 年卅七小説家名を徳太郎と呼び十萬堂とも號す東京芝區片門前に生る廿年頃同志の青年文學者を集め現友社を組織し雅樂多文庫を發行す廿二年色懺悔を出だして紅葉の名知ら揚る金色夜叉多情多恨等佳作多し ●片岡健吉(十月卅一日) 年五十九正四位衆議院議長なり高知の人明治元年東征の際藩兵大監察として東山道より各地に轉戦す明治七年征韓論破毀の時野に下り高知立志社を起し社長となり自由民権の思想を鼓吹す十四年自由黨を組織す廿三年高知縣より推れて衆議院議員となり今日に至る第六議會副議長に選ばれ第十二議會以來議長たり ●清瀨承叙(十二月七日) 年六十四正三位子爵舊黒石藩主なり ●落合直文(十二月十六日) 年四十三國語國文學界の巨匠なり仙臺藩士結貝の二男にして國學の大家落合直亮に養はる皇典講究所國學院第一高等學校等の招聘を蒙り新道の振興を以て任ぜし新界に盡す所實に多大にして其名噴々たり

●近衛篤磨(一月二日) 年四十二從一位勳二等公爵なり近衛忠房の長男にして京都に生る明治九年九月家督を相續し十七年七月公爵を授けられ九月興國留學仰付けられ十八年十月更に獨逸に留學仰付られ廿三年九月歸朝即日貴族院議員に任ぜらる廿八年三月學務院長に任じ廿九年貴族院議長に勅選せらる廿六年十二月樞密顧問官に親任又東亞同文會國民同盟會等に長として大に清韓問題に盡す ●丹羽長國(一月十五日) 年七十一正三位子爵舊二本松藩主 ●木加坦磨(一月十八日) 年八十二備前の老儒なり初め隱居後道夫と稱す ●瀨山嵐山(二月廿三日) 年八十二京都の書家なり ●四代目三遊亭圓生(二月廿七日) 年五十九本名立若勝太郎落語三遊派の頭取なり ●田口和英(二月四日) 年六十六正四位勳二等醫學博士なり明治十四年七月東京醫科大學教授に任ず ●豐澤廣助(二月十八日) 年七十四三越の名手なり淨瑠璃語り陸奥茂太夫の子なり幼名を卯三郎と呼ぶ ●四穀一(二月廿六日) 年六十本姓は齋山氏久之助と稱す岡山の人幼にして茶坊主に召され後果進藩校督事たり又權參事より參事六等列事に任ぜられ東京上等裁判所詰となりしが十年辭職して歸郷十四年閏谷實を復興し推されて其教頭となる二十三年衆議院議員に擧げられ廿五年閏谷實長として其經營に努め徳望あり ●廣瀬武夫(三月廿七日) 年卅七正四位勳四等功三級海軍中佐明治廿四年海軍少尉に任じ中佐に累進す征清の役に功あり後露京に駐劄六年頗る國情に通ず廿七年二月我水師の旅順を攻むるや朝日水雷長と爲り廿四日有馬中佐等と共に死す七十餘人を率ゐる五船に分乘し之を沈めて港口を塞ぐ三月廿七日再び四船を沈む武夫は

明治三十七年 元曆 二五九 四六〇 (辰甲)

告ぐ(六月廿日) 大谷派本願寺は會計部員の詳表提出より昨今大紛擾を極む(六月廿日)

●陸海軍大將新任 陸軍中將岡澤精同長谷川好道同四寛二郎同乃木希典を陸軍大將に海軍中將山本權兵衛東郷平八郎を海軍大將に任す(六月)

●御軍影紛失 大阪府南區青英女子高等小學校に天皇陛下の御軍影を紛失大騒ぎをなす(七月五日)

●滿洲軍司令部出發 大山總司令官兒玉總參謀長福島參謀次長は午前十一時新橋發車滿洲に向け出發す(七月六日)

●蓋平占領 第二軍は正午頃蓋平を占領す(七月九日)

●全關水害 此日全國に過じて降雨多く水害多し鐵道不通の箇所あり(七月十日)

●汽車墜落 山陽線佐波川鐵橋にて貨物車墜覆す(七月十四日)

●横濱神奈川電車 横濱神奈川間の電氣鐵道開通す(七月十五日)

●後藤伯爵除幕式 東京芝公園増上寺山門の北に建設せる後藤伯爵除幕式を舉行(七月十五日)

●大石橋占領 第二軍は此日夕方大石橋占領露露邊參謀長サハロフ中將及陸軍少將コンダラドワツチを傷く(七月廿五日)

●旅順砲臺開始 旅順攻圍軍なる第三軍は大將乃木希典を司令官とし第一第一九三師團之に屬し此日より旅順砲臺の砲撃を開始す(七月廿六日)

●郡司大尉捕る 勸察加占領を企てたる郡司大尉は露兵に捕らる(七月廿六日)

●浦鹽鐵道 同鐵道は東京海外六十里に於て敷回發地又伊豆山に出で、探海燈を照す(七月廿七日)

●東北の水害 山形仙臺地方に暴風雨ありて出水し被害多く汽車不通となる(七月廿七日)

●韓國宮内大臣等の謝罪 保安會に運動費を支給し我林公使に詰責せられたる爲なり(七月廿一日)

●新潟大火 午後九時廿分新潟西區城郡赤魚川町に outbreak あり戸數五百を燒き翌午前五時鎮火(八月三日)

●學務院長 菊池大藏學務院長に任ぜられ同時に細川潤次郎同院長心得を免ぜらる(八月四日)

●黃海大海戰 第三軍の陸上攻撃より露艦隊は曉霧に乘じて脱出せんとし黃海の大海戰起る露艦隊司令官ウヰツトグロフ戰死し其旗艦ツエゼレウヰツチは大破を蒙りて逃走し其他大損傷を受けて諸方に走る(八月十日)

●蔚山沖海戰 上村艦隊浦羅羅艦隊蔚山沖に會し午前五時廿二分より砲戰を開始しリュウリツクを轟沈し他の二艦に大損害を與ふ此の前後の敗滅により露國太平洋艦隊其實力に於て全滅と稱せらる(八月十四日)

●勸降書 山岡少佐軍使として午前八時敵の前哨に至り非敵陣員に對する聖旨及勸降書を敵の參謀長に渡す翌日敵の要索司令官ステツセルは軍使を殺し却て非敵陣員の避難を拒絶し併せて我軍の勸降を斥く(八月十六日)

●旅順第一回砲撃 旅順攻圍軍は第一回砲撃を開始す連日攻撃して廿二日盤龍山砲臺を奪ふ(八月十九日)

●新潟大火 新潟縣佐渡郡小水町字中町櫻谷今朝松方より午後八時失火し全燒四十四戸に及ぶ(八月廿三日)

●阪神鐵道開通 福知山舞鶴線は落成し運轉す(八月廿九日)

●旅順砲撃 旅順攻圍軍は此日より連日正攻法を以て絶えず攻撃を行ひて遂に海軍山及びステツセル砲臺

激戦を極め十四日追撃に移り此日全く露軍を沙河以北に逐去せしむ我軍は第一第二第四の三軍團にして死傷一萬五千餘敵の死傷六萬七千餘我戦利品多し(十月十六日)

●露艦隊檢閲 東航の爲露帝バルツク艦隊を檢閲す(十月廿一日)

●伏見宮御渡米 伏見宮貞愛親王午後一時廿分新橋御發渡米の途に上らるる翌年一月十七日歸朝(十月廿三日)

●旅順第三回砲撃 旅順攻圍軍第三回砲撃を行ふ(十月廿六日)

●旅順港火災 我海軍砲の爲露市街燒け港内の旅順機噐局殊に砲撃を受け延燒三時間(十月廿八日)

●一戸砲臺占領 陸軍少將一戸兵衛の隊は旅順P砲臺を確實に占領す爾今一戸砲臺と呼び他の部隊も東島冠山西方砲臺を占領す(十月卅日)

●嘉義大地震 臺灣嘉義に大地震あり全潰家屋六百九十半潰千六百六死者百四十五負傷者百五十八此年四月廿四日にも強震あり(十一月六日)

●愛宕沈没 我砲艦愛宕は旅順口封鎖に従事中直隸海峡に於て暗礁に觸れ沈没す(十一月六日)

●新曲浦島 坪内逍遙著新曲浦島を早稲田大學出版部より發行す(十一月七日)

●外債發行 外債千二百萬鎊を發行す(十一月十日)

●京釜線全通 京釜鐵道全通す(十一月十日)

●旅順第四回砲撃 旅順攻圍軍第四回砲撃を開始す(十一月廿六日)

●第廿一期議會開會 第廿一期帝國議會は此日召集せられ卅日開院式舉行(十一月廿八日)

●濟遠沈没 濟遠艦は旅順口敵要塞に接近して敵の機噐水雷に觸れ沈没す(十一月卅日)

の諸傑と相往來して新政の大業に贊襄し維新後一たび左院の議員となり從四位に叙せらるる後遂に官を辭し悠悠風月を友として天真を樂しむ

◎鹽江義丸(六月十九日) 年卅三文學博士にして哲學者なり富山の人間治世年大學哲學科を卒へ後東京大學に教へ復た大學院に學ぶ早稲田專門學校博士宗高等學院等に哲學を講ず卅二年東京高等師範に教授を執る其間教員檢定試驗委員たる事四回哲學會丁西倫理會等に選ず所多し卅六年七月文學博士を授かる

◎増田信之(七月八日) 年五十三漢語の人間治世五年韓國皇帝より賞幣改善の事を囑託され功あり其他同國の爲に建言する處多く韓國通を以て稱せらる卅六年大阪火災保險會社を起す大阪製鋼會社の解散後自ら合名會社を組織し銀行部と工業部とを置き盛に營業す

◎山口基臣(八月七日) 年五十九陸軍大將正三位勳一等功二級子爵なり山口縣阿武郡柳郷の人戊辰の役に功あり明治四年少尉に任じ西南の役に少佐として従軍し日清戰役には仙臺第三師團長に補し卅三年の北清事變には司令官として出征し偉功あり本年大將に陞進し軍事參議官に補せらる

◎市川左團次(八月七日) 年六十三俳優なり大阪の人劇場的髮結床山中村清吉の二男なり俳業を以前進升と呼び後松島といふ

◎川村純義(八月十二日) 年六十九從二位伯爵海軍大將鹿兒島藩士明治海軍の創設者なり明治七年八月海軍中將に任じ海軍大輔を兼ね十年二月鹿兒島の亂起らんとするに際し差遣せられて功あり議定官を経て十一年五月參議海軍卿十八年樞密顧問官たり廿四年四月皇孫迪宮御養育主任廿五年六月同宮御養育主任に任ず

◎小泉八雲(九月廿六日) 年五十五英國の人物名ラフカサオ、ハーンといふ文豪として世界に聞かれ明治廿三

明治三十七年 元曆 二五九 四六〇 (辰甲)

を隔る(九月一日)

●遠征艦沈没 我遠征艦遠島は此夜旅順口對面に従軍中敵の機噐水雷に觸れ沈没す(九月三日)

●遠征艦占領 我軍は大山總司令官の下に第一軍(黒木軍)第二軍(奥軍)第四軍(野津軍)の三軍團を以て遼陽攻撃を開始し八月廿三日右翼たる第一軍は先づ運動を開始し全軍は皆動き廿七日敵を湯河以北に擊退し廿八日太子河對岸に敵を驅逐し卅一日首山堡の險要を陥落し此日全線敵の死傷二萬五千以上我兵一萬七千餘を損ず戦利品甚だ多し(九月四日)

●平遠艦沈没 軍艦平遠は哨艦の任に當り其歸航の途中敵の浮流機噐水雷に觸れ爆發し僅か四五分間にして沈没す(九月十八日)

●旅順第二回砲撃 旅順第二回砲撃開始され我軍之より殆んど連日激戦を交へ惡戦を極む(九月十九日)

●兵役年限延長 陸軍後備兵役五年なりしを十年とし補充兵役を十二年四月々々改め國民兵役年限下士服務年限一年志願兵後備年限も延長さる(九月廿九日)

●軍軍總司令官 クロバトキン敵軍の總司令官に任ぜらる(十月四日)

●百廿銀行問題 大阪百廿銀行問題は一段落を告ぐ(十月六日)

●孔子誕生祭 横濱港開港期に孔子誕生祭を執行(十月六日)

●小學校令改正 小學校令施行規則改正を公布す(十月八日)

●第三回軍事債券 第三回國庫債券八千萬圓發行す應募は二億四千五百餘萬圓に上る(十月十二日)

●沙河大會戰 露軍援兵を得て攻勢を取らんとして我軍亦進撃し此月九日より彼我衝突を始め二十三日最も

激戦を極め十四日追撃に移り此日全く露軍を沙河以北に逐去せしむ我軍は第一第二第四の三軍團にして死傷一萬五千餘敵の死傷六萬七千餘我戦利品多し(十月十六日)

●露艦隊檢閲 東航の爲露帝バルツク艦隊を檢閲す(十月廿一日)

●伏見宮御渡米 伏見宮貞愛親王午後一時廿分新橋御發渡米の途に上らるる翌年一月十七日歸朝(十月廿三日)

●旅順第三回砲撃 旅順攻圍軍第三回砲撃を行ふ(十月廿六日)

●旅順港火災 我海軍砲の爲露市街燒け港内の旅順機噐局殊に砲撃を受け延燒三時間(十月廿八日)

●一戸砲臺占領 陸軍少將一戸兵衛の隊は旅順P砲臺を確實に占領す爾今一戸砲臺と呼び他の部隊も東島冠山西方砲臺を占領す(十月卅日)

●嘉義大地震 臺灣嘉義に大地震あり全潰家屋六百九十半潰千六百六死者百四十五負傷者百五十八此年四月廿四日にも強震あり(十一月六日)

●愛宕沈没 我砲艦愛宕は旅順口封鎖に従事中直隸海峡に於て暗礁に觸れ沈没す(十一月六日)

●新曲浦島 坪内逍遙著新曲浦島を早稲田大學出版部より發行す(十一月七日)

●外債發行 外債千二百萬鎊を發行す(十一月十日)

●京釜線全通 京釜鐵道全通す(十一月十日)

●旅順第四回砲撃 旅順攻圍軍第四回砲撃を開始す(十一月廿六日)

●第廿一期議會開會 第廿一期帝國議會は此日召集せられ卅日開院式舉行(十一月廿八日)

●濟遠沈没 濟遠艦は旅順口敵要塞に接近して敵の機噐水雷に觸れ沈没す(十一月卅日)

年來朝し後出雲大社職員小泉氏の女を娶り遂に日本に歸化し小泉八雲と改む日本を好む事深く又國史を研究す神戸クロニクル記者東京文科大學講師早稲田大學に教授を執り生徒の敬服甚だ深し著す所頗る多し

◎寺島正徳(十月十六日) 年六十熊本の人大藏書記官銀行局長となり各國立銀行の監督及整理に力を致す幾許もなく富山縣知事千葉縣知事に轉ず卅年勸業銀行副總裁となり卅三年辭し爾來力を南米貿易發達に注ぐ

◎秋月種樹(十月十七日) 從二位勳二等日向高橋城主秋月種任の三男なり幕府に在て若年寄たり維新後召されて公議院議長元老院議員貴族院議員等を勤め其間海外に漫遊する事數年に及ぶ

◎高橋樹州(十一月八日) 江戸節の名手なり江戸の人維新後江戸ツ子新聞を創設し常に風流文學を弄せり

◎岡本監輔(十一月十一日) 正五位舊德島藩士榊太の探險者にして其處分經營に盡す處多く爲に名あり一時丸山作樂等の國事犯連累の嫌疑にて職を辭す再び官に就きしも晩年振はず教育界に投ず

◎乃木保典(十一月廿日) 勳六等陸軍歩兵少尉乃木希典の子なり日露戰役起るや後備歩兵第一旅團司令官部附として従軍し此日旅順要塞二〇三高地に於て戰死

◎大和田建樹(十二月一日) 年五十四國文學者なり宇和島の人獨學を以て國文學を専攻し職を東京大學の編輯所に奉じ次で古典科講師に擧げらる又男女高等師範學校跡見女學校雙葉高等女學校講師となる著書甚だ多し鐵道唱歌は一時天下に傳唱せらる

◎春木義彰(十二月十七日) 從二位勳二等なり江戸に生れ維新の功臣にして明治六年司法省に出仕し東京控訴院部長を勤め退職後貴族院議員に勅選さる

◎伊達邦成(十二月廿九日) 從五位勳四等男爵舊仙臺藩の士族なり戊辰の役に功あり維新後蝦夷開拓の事業

●三〇三高地占領 旅順の我軍圍軍は此日拂曉より二〇三高地砲撃を開始し敵砲の午後八時に至り全く占領す此戦は旅順戦中の有名なる激戦にして二〇三高地占領後敵砲撃を併せて我軍大に利あり敵軍後散回遊撃すれど効なし(十一月廿日)
●旅順休戦 二〇三高地の激戦に死傷多く彼我軍使を發し一部の休戦を約し午前十時より午後四時迄其死傷者を收容す(十二月二日)
●京釜鐵道完成 省規鐵道完成し建築列車を通過するに至り(十二月五日)
●旅順第二回休戦 旅順口約五時間の休戦をなし彼我の死傷を收容せり(十二月六日)
●港内敵艦撃沈 此日大口徑砲を以て旅順港内の敵艦に射撃を行ひ敵艦四隻全沈一隻半沈す(十二月七日)
●三宅島大火 東京府下伊豆三宅村神着村淺沼重太郎同伊藤梅松兩家の間より出火し全戸數三百五十戸の内僅かに廿三戸を残して鎮火す(十二月七日)
●阪鶴列車顛覆 谷川驛附近にて貨車と衝突顛覆し即死六名負傷十一名あり(十二月八日)
●三越呉服店 三井呉服店株式組織となり三越呉服店と稱す(十二月十日)
●高砂轟沈 我巡洋艦高砂は此夜旅順口對面に従軍中敵の機銃水雷に觸れ沈没す(十二月十二日)
●旅順艦隊全滅 陸上砲臺の砲撃により旅順港内露艦隊全滅(十二月十七日)
●砲臺占領 旅順東鷓冠山北砲臺我軍の有さなる(十二月十八日)
●二龍山砲臺占領 午後七時廿分二龍山砲臺を占領す(十二月廿八日)
●海將凱旋 東郷大將上村中將午前九時廿分新橋に凱旋す(十二月廿日)

(明治三十七年)

●松樹山砲臺占領 松樹山砲臺占領す之れにて旅順の背面防禦は我軍中に屬す(十二月廿一日)

に志し晩年まで瀟々こまなし

●旅順開城申込 旅順攻圍軍は此日午後五時頃敵司令官ステツセルより開城に関する書面を受領す(一月一日)
●京釜全線營業開始 京釜鐵道は全線の營業開始す(一月一日)
●開城規約調印 午後九時四十五分水師營に於て我全權伊地知少將と敵の全權レリス大佐との間に開城規約の調印を了す(一月二日)
●旅順艦隊沈没 敵の大小艦船は殆んど港口又港内にて自ら爆沈す(一月二日)
●光宮御生誕 皇太子妃殿下には午後七時二十八分御安産第三王子御降臨あらせられ九日を以て御名宣仁宮誠光宮と御命名あらせらる(一月三日)
●旅順要塞受領 旅順要塞の受領手續を了す(一月四日)
●水師營會見 ステツセル將軍と乃木將軍と水師營に於て會見す降虜三萬二千餘人傷病者一萬五六千人(一月五日)
●東京市視達會 東京市視達會を日比谷公園に舉ぐ(一月七日)
●遼東封鎖解除 東郷聯合艦隊司令長官は遼東封鎖解除の宣告を發す(一月七日)
●潜水艇隊創設 艦隊司令中に潜水艇隊を加ふ(一月十三日)
●旅順入城式 我軍旅順に入り午前十時入城式を舉ぐ(一月十三日)
●降將來 降將ステツセル以下長崎に來り十八日汽船オーストラリアンに搭し歸國す(一月十五日)
●山口縣大火 山口縣宇賀村に火出火し家屋二百戸土蔵十五棟を焼失す(一月廿六日)
●旅順留守府 旅順に留守府を開闢す司令長官は海軍

(明治三十八年)

中將柴山矢八(二月六日)
●日米仲條條約 日米仲條條約華盛頓にて調印せらる(二月十一日)
●名取丸丸沈没 大阪商船會社の該汽船は大阪へ入港の際濃霧の爲築港中の沈石に乘揚沈没船員乗客共九十九名行衛不明なる(二月十四日)
●松江大火 午前二時廿分松江市和田見より出火し全燒百七十五戸は及ぶ(二月十七日)
●大阪保險會社解散 大阪地方裁判所は農商務省の請求により同會社解散の決定を與ふ(二月廿六日)
●軍事情報發行 第四回國庫債券一億萬圓年利六分を發行す應募は四億八千五百餘萬圓(二月廿七日)
●第廿一期議會閉院式 第廿一期議會閉院式あり今期議會に於て衆議院議員の議席を擴張前にすることを決議す(二月廿八日)
●奉天大會戰 奉天會戰の機熱し彼我の兵八十餘萬砲二千五百門我軍は鴨綠江軍(川村軍)第一軍(黑木軍)を右翼とし第四軍(野津軍)を中堅とし第二軍(奧軍)第三軍(乃木軍)を左翼とし沙河東岸四十里の戦線を張り左翼軍は二月廿五日より運動を開始連日衝突戦闘の末三月七日夜より全線總攻撃に移り九日海軍を占領し此日午前十時奉天を占領我軍の追撃尙缺まず十二日に到り露軍の捕虜少將ナヒモフ以下約四萬餘屍二萬六千五百其他死傷九萬合せて約十六萬餘品多し我軍の死傷約四萬を算す(三月十日)
●鐵嶺占領 我軍奉天以北第一の堅なる鐵嶺を占領す(三月十六日)
●日印通商條約 日印通商條約を公布す(三月十六日)
●船渠開渠式 長崎の三菱造船所第三船渠の開渠式を舉行す(三月十六日)
●敵軍司令官 クロバトキン滿洲軍總司令官を捕め第

◎松村務本(一月四日) 年五十四勳一等功三級陸軍中將金澤藩士明治廿七年に歩兵大佐となり第六師團參謀長にして威海衛を占領す廿九年九月少將に進み臺灣守備混成第二旅團長に補す廿七年日露戰役に際し歩兵第一旅團長に補し南山の役に偉功を奏す同四年中將に任じ二〇三高地を占領し又旅順本防禦線松樹山二龍山の攻撃に偉功を奏す
◎松本定吉(一月十一日) 年六十三西洋風理髮業の鼻祖なり五番の定を稱せらる元治元年の春横濱居留地五十九番館米エビソンに就て散髪を稽古し慶應三年居留地に開業す
◎内海忠勝(一月廿日) 年六十三正三位勳一等男爵周防國吉敷郡に生る風に尊號を唱ふ長崎縣知事神奈川縣知事錦旗閣祇候大阪府知事京都府知事に歴任し廿二年十一月貴族院議員に任ぜられ尋で會計検査院長に任ぜらる廿四年六月内務大臣に親任廿七年七月又貴族院男爵議員に當選す
◎嵐みん(一月廿四日) 年四十六阪の俳優なり
◎副嶋種臣(一月卅一日) 年七十八正二位勳一等伯爵幼名二郎藩佐賀藩士維新に功あり參議特命全權大使外務事務總裁を歴て十二年宮内省御用掛一等侍講十七年伯爵を授けらる廿一年樞密顧問官廿四年樞密院副議長に任ぜらる廿五年四月松方内閣に入りて内務大臣に任ぜられ時に政府と議會の軋軋甚しきを以て種臣其軋和に努む所ありしも事語はざりき六月官を辭す復に樞密顧問官に任ぜらる常に國力振振を計圖して止まず東邦協會を起して之が會頭となり東洋事務に於て講究する所あり經學に長じ漢詩を能くす號を蒼海又一々學人
◎木村瀧平(二月五日) 年六十九相模立行司
◎坂東玉三郎(二月十五日) 年廿三女俳優なり組育に往き米國劇場を視察し舞踏師に就き修業中病を得て客

一軍司令官リッパチに代る(三月十七日)
●東京市祝捷會 東京市祝捷會を日比谷公園内に舉行す(三月十八日)
●第三回外債 第三回外債三千萬磅募集利率四厘五厘(三月廿五日)
●汽車衝突 房總鐵道客車本納驛にて衝突負傷者十三名を出す(三月廿七日)
●元祿櫻樓 元祿櫻樓此頃流行す(三月)
●有栖川宮御渡航 有栖川宮威仁親王勅を奉じ獨皇儲婚儀列席のために全紀御同伴渡歐の途に上らせらる(四月一日)
●日韓通信機關委任 韓國と通信機關委任條約を締結す(四月一日)
●日韓新線踏踏開始 日暮里三河島間工事落成運轉を開始す(四月一日)
●早稲田野球選手渡米 米國スタンフォード大學其他と競技の爲桑港へ向け横濱を解纜す(四月四日)
●祝捷大使入京 韓國祝捷大使義陽李載覺入京六日參内す(四月四日)
●我聞談話 浦羅にて日本將校五名捕縛せられ絞殺せらる(四月十一日)
●若手艇大火 午後十一時四十五分若手艇江刺郡若谷堂町より出火し同町字仲町及川原町に延焼し戸數二百廿五戸を焼き翌十五日午前三時熾火す(四月十四日)
●國庫債券 第五回國庫債券一億圓發行す利率六分應募總額四億九千八百餘圓(四月廿日)
●鐵道大隊出火 中野鐵道大隊氣球隊倉庫より發火し十八名の負傷者を出す(四月廿四日)
●行軍中病事 高崎補充大隊第五中隊の兵士は行軍の途中利根川曲輪橋々桁落ちし爲四名の溺死者あり(四月廿五日)

●川上大將殉難 東京九段上田安門外に建設せられたる故川上大將銅像除幕式を執行す(四月廿八日)
●浦羅艦隊出動 露國水雷艇四隻夕方露都沖に現はれ我艦八艘を撃沈す(五月五日)
●火藥庫破裂 午後五時高崎岩鼻火藥庫四棟破裂し即死三名重傷三名を出す(五月七日)
●秋田市大火 午後十一時四十分秋田市内茶町越谷善三郎方より出火し全焼二百八戸に及び翌朝二時廿分熾火す(五月九日)
●汽船沈没 大阪商船會社の舞子丸は放浪沖に於て浮流水雷に觸れ沈没す(五月十一日)
●臺灣戒嚴 臺灣全島に戒嚴を宣告す(五月十三日)
●伏見宮御渡航 伏見宮博恭王を答禮大使として韓國へ御差遣此日東京を御出發(五月十四日)
●京釜鐵道開通式 伏見宮博恭王御臨場の上京城南大門停車場内に於て舉行す(五月廿五日)
●對馬沖大海戰 我聯合艦隊は沖の島附近にて波羅的艦隊を遊撃し午後二時八分砲火先づ露艦より開かれ激戰劇烈艦數隻を撃沈し其他多大の損害を與へ日没より露艦隊水雷艇隊は襲撃を決行す(五月廿七日)
●日本海海戰 海戰は昨日より續行され露艦隊に移る艦七隻撃沈し竹島附近にて敵將ホカドフ少將の率のし艦隊を攻撃し戰艦二隻海防艦二隻を捕獲す午後四時四十五分對馬島沖に更に一驅逐艦を捕獲して敵司令官ロセストウエンスキーを捕ふ此大海戰に敵艦廿八隻の内廿隻撃沈され五隻捕獲され殘餘の諸艦も亦大抵逃去後破獲留置され捕虜六千に上る我軍水雷艇二隻を失ひ戦死者十六名負傷者五百廿八名(五月廿八日)
●敵艦來者 รัสเซียトウエンスキー中將は重傷を負ひ捕虜となり佐世保病院に收容せらる(五月廿日)

死す
◎イーストレーキ(二月十八日) 年四十七一八五八年米國ニュージャーシ洲に生る廿七歳の時長崎に來り廿有餘年間僅かに兩三度歸國したるのみにて多くは日本に在りてシヤパンメール記者となり又インヂペンヂント東京スペクテートル國民英學會東京英學院を創立し或は憲兵練習所正則英語學校の教授たり
◎寶生金五郎(二月廿一日) 年六十五能界脚として老功たり
◎井上操(二月廿三日) 長崎縣の人廿四年大阪事件の際其義列長として名あり
◎福水らく(二月廿三日) 年八十五琴曲の師匠なり
◎南部利群(三月四日) 年廿四陸軍騎兵中尉伯爵なり奥州盛岡藩主南部利恭の長男にして日露戰役起るや近衛騎兵聯隊附として従軍し此日奉天附近の大會戰に參與し井口嶺に於て戦死す
◎松前廣(三月廿六日) 子爵西松前藩士
◎村井長寛(四月六日) 正四位勳二等陸軍中將佐賀藩藩本の役に出征す十二年少佐に進み果して廿八年陸軍少將に任ず第一軍砲兵部長として出征臺灣總督府陸軍局砲兵部長東京要務司令官東洋防禦總督部參謀長等に補す廿四年陸軍中將に任じ豫備役仰付られ廿一年一月東洋要務司令官仰付らる
◎大東義徳(四月八日) 年六十四櫻藩藩士成長の役美羽に轉戦す曾て西郷南洲に昵近せしを以て丁丑の變薩軍に左袒せしにより近江西郷の名あり民選議院の設立に奔走し廿三年第一議會に衆議院議員に當選し爾後毎に選舉せられ廿一年憲政黨内閣組織の際司法大臣に親任せられ三位に叙せらる
◎島尾小彌太(四月十三日) 年五十九福密顧問官陸軍中將正二位勳一等子爵なり舊長州藩士中村敬義の長男なり奇兵隊に入り親子の義を絶つ姓を島尾と稱し天下の俊傑と交り勤王の大義を唱ふ明治四年七月陸軍少將に任じ九年正月陸軍中將兼陸軍大輔に任じ參謀局長職定官となる西南の役山縣陸軍中將討參謀となり十五年統計院長兼任十七年勳功により特に子爵を授けらる又元老院議員に任じ廿一年六月福密顧問官任命廿三年七月貴族院議員に當選す號を庵といひ諱を學ぶ
◎田口卯吉(四月十三日) 年五十一法學博士なり名は鉉字は子玉卯軒と號す徳川氏の世臣にして徒士に遊す明治三年大藏省紙幣寮に出仕し十一年辭し日本經濟論を著し自由貿易の説を唱へ十二年翌月二郎等と經濟雜誌を創立し東京經濟雜誌を刊行し其社長と爲る爾毛鐵道會社を創立し其社長に推され廿七年東京市より推されて衆議院議員となり廿二年法學博士を授けらる
◎小幡篤次郎(四月十六日) 年六十四舊中津藩士風に英學を修め福澤諭吉を助けて我邦文化の先導者たり維新後東京市會議員貨幣制度調査委員等に擧げられ明治廿三年貴族院議員に勅任せらる慶應義塾に在て子弟の教育に貢献する所甚だ大なり
◎島井貞(四月廿一日) 年五十一講談師なり
◎折田平内(五月六日) 貴族院議員
◎野口寧齋(五月十二日) 年廿九詩人なり太田といふ漢詩に長ず壯年沈病に罹り病褥に在る事多年而も曾て吟詠を絶たず雜誌百花欄を發行し自ら編輯の局に當り病苦を聞ひ漢詩の爲に氣を吐けり妹曾典の情人男三郎の爲に殺さる
◎中村又太郎(五月廿日) 年六十七劍客なり
◎山田一郎(五月廿七日) 年四十六文學士廣島の人改進黨に屬し小野梓等と共に歌渡會を組織す爾來専ら新聞記者として其名知られたるが晩年長は振はず
◎村田廉高(六月一日) 年六十四儒者なり名は直景字

●海戰命名 五月廿七日午後より翌廿八日に亘る沖の島附近より對馬島附近までの海戰を日本海海戰と呼稱す(五月廿日)
●青森縣大火 正午十二時青森郡津輕郡龍ヶ崎村大字碓ヶ崎より出火し熾火二百廿六戸(五月廿一日)
●東京祝捷會 海軍大勝利に對する東京祝捷會を日比谷公園に開催す(六月一日)
●講和勸告書 米國大統領講和勸告書を日露の兩國に發す(六月八日)
●伏見宮御歸京 御渡航中の伏見宮博恭王御歸着(六月十六日)
●講和全權委員 外相小村壽太郎駐米公使高平小五郎講和全權委員仰付らる(七月三日)
●講和委員隨行員 佐藤愛鷹山田顯次郎安達謙一耶本多熊太郎小西孝太郎は隨行員を命ぜらる(七月四日)
●香取進水式 英國パロウ造船所にて戰艦香取進水式あり有栖川宮御臨場(七月四日)
●與俄鐵道開通 奧羽南線の未成區院内湯澤開通し開通式を行ふ(七月五日)
●講和委員出發 小村全權委員一行は午後一時十五分新橋發横濱よりミネソタ號に搭じ渡米の爲出發す此月廿日シヤトル入港(七月八日)
●樺太軍上陸 メンヤ附近に上陸せる我歩騎兵はサウイナハチ村北方高地を占領す此外將校斥候はコルサコフ南端に進入せしに敵はコルサコフ全市を焼き始む(七月八日)
●コルサコフ占領 我軍は大なる抵抗に遇はず早朝樺太コルサコフを占領す(七月八日)
●第四回外債 第四回外債三千萬磅を募集す英米獨の三國に就き各一億圓を募集す續切十一日に各圖とも約十億の應募あり(七月八日)

●樺太南端占領 此日樺太島の南部を確實に占領す(七月十二日)
●巡邏丸沈没 關門海峡に於て獨船アライズイロロ號と衝突し遂に沈没す(七月十四日)
●樺太島嶼占領 片岡中將の率ふる北道艦隊は陸軍輸送船隊を護衛し樺太北方アレキサンドルフスク附近より上陸せしめ首部アレキサンドルフスクを占領す(七月廿四日)
●樺太降服 敵軍の全權大佐ドビッチは第一ハムグサに來り我小泉參謀長と會見の結果我提出條件に一一異議なく軍務知事シヤノフ以下將校約七十下士卒約三千二百投降す(七月廿一日)
●日比谷公園音樂堂 東京日比谷公園内の音樂堂新築落成し此日開堂式を舉ぐ(八月一日)
●日露全權談判地著 兩國全權一行を分載せるドルフィン及メーフラワーはボーツマウスに到着(八月八日)
●日露全權略式會見 日本全權は露國全權の希望によりて打合せの爲略式會見をなす(八月九日)
●正式會見 日露兩國全權委員始めて正式に會見す(八月十日)
●外議開通 東京電氣鐵道會社東京牛込神樂坂より四谷見附までの電車開通す(八月十二日)
●日英攻守同盟 日英同盟協約を改訂す従来の防禦同盟より一轉して攻守同盟となり爾後十箇年を有効期限とす(八月十二日)
●汽船沈没 金城丸は夜半豐後姫島燈臺沖に於て英船パロンク號と衝突沈没す工兵少佐小堀東太郎以下將卒百廿四名行衛不明となる(八月廿二日)
●戸水博士休職 開戦主唱者として亦平和尙早論者たる東京帝國大學法科大學教授戸水寛人が文官分限令に依りて休職を命ぜらる大學教授等其處置を憤り連署の

なり奇兵隊に入り親子の義を絶つ姓を島尾と稱し天下の俊傑と交り勤王の大義を唱ふ明治四年七月陸軍少將に任じ九年正月陸軍中將兼陸軍大輔に任じ參謀局長職定官となる西南の役山縣陸軍中將討參謀となり十五年統計院長兼任十七年勳功により特に子爵を授けらる又元老院議員に任じ廿一年六月福密顧問官任命廿三年七月貴族院議員に當選す號を庵といひ諱を學ぶ
◎田口卯吉(四月十三日) 年五十一法學博士なり名は鉉字は子玉卯軒と號す徳川氏の世臣にして徒士に遊す明治三年大藏省紙幣寮に出仕し十一年辭し日本經濟論を著し自由貿易の説を唱へ十二年翌月二郎等と經濟雜誌を創立し東京經濟雜誌を刊行し其社長と爲る爾毛鐵道會社を創立し其社長に推され廿七年東京市より推されて衆議院議員となり廿二年法學博士を授けらる
◎小幡篤次郎(四月十六日) 年六十四舊中津藩士風に英學を修め福澤諭吉を助けて我邦文化の先導者たり維新後東京市會議員貨幣制度調査委員等に擧げられ明治廿三年貴族院議員に勅任せらる慶應義塾に在て子弟の教育に貢献する所甚だ大なり
◎島井貞(四月廿一日) 年五十一講談師なり
◎折田平内(五月六日) 貴族院議員
◎野口寧齋(五月十二日) 年廿九詩人なり太田といふ漢詩に長ず壯年沈病に罹り病褥に在る事多年而も曾て吟詠を絶たず雜誌百花欄を發行し自ら編輯の局に當り病苦を聞ひ漢詩の爲に氣を吐けり妹曾典の情人男三郎の爲に殺さる
◎中村又太郎(五月廿日) 年六十七劍客なり
◎山田一郎(五月廿七日) 年四十六文學士廣島の人改進黨に屬し小野梓等と共に歌渡會を組織す爾來専ら新聞記者として其名知られたるが晩年長は振はず
◎村田廉高(六月一日) 年六十四儒者なり名は直景字

明治三十八年 八月 乙(巳) 五九三二 元 紀 西

●抗議書を發す(八月廿四日)
●有栖川宮御歸朝 獨逸御差遣の有栖川宮威仁親王御歸朝(八月廿六日)
●第十一回會見 日露全權は第十一回の會見をなして我全權は宣入軍艦交附露國極東海軍力制限及償金の三要求を撤回し且米大統領の折衷案に依つて樺太半島の割讓を承諾し此日正午を以て兩國折衝の大局は終結す(八月廿九日)
●大日本本史本紀及列傳 東京橋區新築町吉川弘文館より刊行(八月廿日)
●休戦條約調印 日露全權は此日休戦條約の確定書に調印す(九月一日)
●ポーツマス條約 午後三時日露間の講和條約調印せらる之れをポーツマス條約といふ條約は十五條を以て成る追加約款二條を附す十月十三日交換せらる(九月五日)
●日比谷燈台 講和條件に反對せる國民大會は日比谷公園に開かれ警官干涉の結果官民の衝突を起し更に新當座の演説會にて激昂したる群民は國民新聞社を襲ひ又た内相官邸及市内の警察署派出所等警察會堂電車等を燒燬す巡査は拔劍して人を斬り帝都騷擾たり軍隊派遣さる(九月五日)
●東京戒嚴令 東京府下に戒嚴令を施行せらる又緊急勅令に依り發行停止せらる(新聞あり昨日より今日に至り巡査派出所の燒燬せられしもの百四十一破壊せられしもの廿八民家燒燬廿八死傷人民五百五十八人官人四百七十一人(九月六日)
●千葉地方裁判所燒失 午前七時廿分法廷より出火し區裁判所に燒燬す(九月七日)
●神戸非難和大會 大黒座に開き終つて一團の群衆は伊藤侯の銅像及派出所を破壞す(九月八日)

●警視總監更迭 警視總監足立綱之職を退き關清英更る(九月十日)
●日露講和開通式 下關釜山聯絡運輸開通式を下關驛に舉行し聯絡船壹丸は釜山に向け初航海の途に上る(九月十一日)
●三笠艦遭難 佐世保從泊中の旗艦三笠は午後十一時頃突然火災を起し後部彈藥庫の一部爆發せしため艦底は海底に墜着す(九月十二日)
●横濱市議和大會 羽衣座に於て講和演説會を開き其餘波一詳の徒市内巡査派出所十一箇所を燒失せしめたり(九月十二日)
●英羽官歸國通式 秋田停車場内に於て開通式を舉行す(九月十五日)
●内務大臣更迭 内務大臣芳川正幹は農商務大臣清浦奎吾兼任を命ぜらる(九月十六日)
●日英同盟發表 八月十二日締結せし日英新同盟條約を發表す(九月廿七日)
●維新功勞者叙位 維新の際王事に勤めたる水戸藩士酒泉直外福岡大村藩士十四人は特旨を以て位記を賜はる(九月廿八日)
●中村博士免官 時局問題に關し上奏したる學務院教授兼東京高等商業學校教授中村進平は本官及兼官を免せらる(九月卅日)
●陸軍倉庫燒失 午前一時五十分廣島第五師團東練兵場倉庫廿七棟燒失す(十月一日)
●英國東洋艦隊入港 英國東洋艦隊昨日横濱に入港し十二日司令官ノール大將以下正式に入京し日比谷公園に設けられし東京市民の歡迎會に臨み十三日参内して 聖上に謁見す(十月十一日)
●平和克復請願 平和克復の詔勅を下し給ふ(十月十六日)

は仲介初め榮次郎と稱す廉高は其諱風に經史に通じ又有識故實に精し
●津田出(六月二日) 年七十四貴族院議員陸軍少將從二位勳一等子爵和歌山藩の執政にして風に祖傳の學者として又國學者の先輩として推重せらる大農論を唱へて開學事業に盡す明治七年陸軍大輔たり又元老院議員貴族院議員に任ぜらる
●小笠原貞幹(六月五日) 從三位子爵舊播磨安志藩主
●岸田吟香(六月七日) 年七十三作州津山の人なり米人への英和辭書を編纂し又理財學を講じて商法に通曉す後新聞紙の必要なるを知り東京に發行す之を新聞の嚆矢となす慶應三年交通運輸の商業に必要なを往復す汽船運業者の權限なり横濱に水室會社を設立す明治七年東京日々新聞を創刊して自ら主筆となる臺灣の役從軍して見聞の事實を紙上に掲出す是れ我邦新聞記者從軍の嚆矢なり爾來廿餘年間實業の擴張に従事し其名譽し特旨を以て從六位に叙せらる
●高木作次郎(六月七日) 正三位勳二等陸軍士官學校長陸軍少將なり紀伊の人日清の役功四級金盃勳章を授けらる
●神樂知常(六月廿一日) 年五十八丹後宮津の人久しく官に就きしも後辭して京都府第一區より衆議院議員に選出せる廿九年松隈内閣の組織せらるるや法制局長兼内閣總務局長官となる卅七年七月再び法制局長官たり
●巖谷修(七月廿二日) 年七十二一六三號書家として名あり萬葉集水口藩士にして一等編修官修史局監事内閣大書記官内閣書記官元老院議員官制取調委員錦旗閣議後に歴任し明治廿四年貴族院議員に勅選せらる
●北條晴所(七月十六日) 詩人として名あり大醫院書

明治三十八年 八月 乙(巳) 五九三二 元 紀 西

●小村全權歸朝 小村全權和全權委員は九月廿七日紐育を去り十月二日晩香港よりエンプレス、オア、インデペンデンスにて歸朝午後四時新橋に着直に参内す(十月十六日)
●ライオン來朝 米國デモクラット黨の領袖ライオン來朝す(十月十七日)
●海將伊勢參拜 東郷聯合艦隊司令長官伊勢大副に參拜して捷を奉告し戦艦ホルモールの十二時砲彈を納めて凱旋の途に上る諸將凱旋の途先づ大副を拜して然る後に入京したるは東郷平八郎を以て嚆矢とす(十月十八日)
●陸軍大將任命 陸軍中將大島昌昌は陸軍大將に任ぜられ閣東部督に補せらる(十月十八日)
●東郷大將凱旋 聯合艦隊司令長官東郷大將以下上村片岡出羽三中将の一行凱旋入京直に参内(十月廿二日)
●大觀艦式 天皇陛下には横濱港に行幸淺間艦に乗じ横濱沖に於て觀艦式を舉行午後四時四十五分還幸あらせらる艦の列せらるもの六十五隻(十月廿三日)
●東郷大將歡迎會 東京市に於ては東郷大將以下凱旋の海軍將士を招待し上野公園に於て歡迎會を催す(十月廿四日)
●英國大使館 倫敦駐劄の日本公使館に大使館に陸格公使林董を大使とす四日東京駐在の英國公使館も大使館となる(十一月三日)
●伊藤韓國差遣 樞密院議長伊藤博文韓國へ差遣協約締結の任に當らしむ此日東京出發(十一月三日)
●京義鐵道開通式 山根少將は開城府に於て京義鐵道の開通式を舉行す(十一月五日)
●全權大使出發 日露講和條約締結の結果小村外相を清國へ差遣同國と新に協約する所あらしめんとし小村壽太郎以下此日東京出發十三日北京へ着す(十一月六日)
●一進會宣言 韓國の一進會は宣言書を發して韓國は

日本の保護に服従すべきを唱ふ(十一月六日)
●懸擧事件拘引 河野廣中山田喜之助大竹貫一櫻井熊太郎等東京市懸擧事件に關し拘引せらる(十一月十一日)
●伊勢行幸 天皇陛下には伊勢大廟御參拜平和克復御奉告の爲午前十分宮城御發遣(十一月十四日)
●海軍大將任命 海軍中將柴山久八同級島員海軍大將に任ぜらる(十一月十四日)
●外宮御參拜 天皇陛下には外宮へ御參拜あらせらる(十一月十六日)
●内宮御參拜 天皇陛下には午前十一時伊勢内宮へ御參拜あらせらる(十一月十七日)
●還幸 天皇陛下には午後三時四十分新橋還御(十一月十九日)
●圖書刊行會 圖書刊行會第一期第一號を此日東京京橋區新築町圖書刊行會より刊行(十一月廿日)
●伊藤遺囑 伊藤博文は遊獵の歸途永登浦附近に於て凶漢の爲に投石せられ微傷を負へり犯人四名は直ちに逮捕せらる(十一月廿二日)
●日韓新協約 日韓新協約批准公布あり之に依れば韓國統監設置され韓國の外交事項は我外務省に於て監督する事となる(十一月廿三日)
●第五回外債 第五回外債四分利付五十萬鎊を發行す以て戰時に於ける國債の整理に充つ(十一月廿五日)
●七尾大火 午前三時金澤縣七尾町字府中町放火宿野時屋より出火し町敷十四ヶ町戸數八百五十餘戸を燒失す(十一月廿五日)
●御用船沈没 第三生田丸は大連に向け航行中六連島沖合にて御用船福浦丸と衝突し沈没す(十一月廿五日)
●伊勢行啓 皇太子殿下は靜岡御用邸御出門山田御安着神宮支廳内御旅館へ成らせらる(十一月廿六日)

記長本名は直方
●川邊御樹(七月廿四日) 年六十九土佐派の畫家なり花陵墨流亭多之舎後集堂等の號あり其後關西柳川藩士なり
●高岡水洸(八月三日) 年四十三風雷畫の大家信州松本人秀太郎と稱す漢齋水洸と號す美人畫に名あり
●三宮義胤(八月十四日) 年六十三從二位勳一等男爵なり近江の人維新の際邊督東伏見宮に從ひ東北に賊徒を征討し後東京府少參事兵部少丞外務大書記官宮内大書記官外務課長大隈亮皇后宮亮宮内式部部長に歴任し曾つて獨逸國駐劄以來海外に遊びし事五回
●楠川實(八月十五日) 年六十講談師
●中島錫蘭(十月四日) 年七十七錫蘭國駐劄貴族院議員從二位勳二等男爵なり阿波德島藩士なり曾て京師老儒中島錫蘭の嗣となり維新政變に奔走し後教諭の長官に歴任し裁判所及大審院の諸官に任じ元老院議員に陞り錫蘭國駐劄を仰付けらる
●菊池修(十月八日) 年四十九從二位侯爵政友會幹事長にして從一位置司輔公の末子也京都の人廿三年十月貴族院議員となり農事に熱心にして十一年北海道に渡り土地の開拓に先鞭を著け廿四年農務を北海道に移す
●松尾左州(十月九日) 年五十四海軍省造船本部長止四位勳二等功四級海軍造船監工學博士なり石川縣金澤の人
●村田源順(十月廿九日) 年六十八天臺座主第二百卅六世妙法院門跡第四十二世探運大僧正なり字は慈修戀四子と號す
●尾崎忠治(十月) 年七十七男爵土佐の人維新後司法省に奉職諸官を経て控訴院長大審院長高等法院裁判所長を歴任し廿三年八月樞密顧問官に任ず
●野口勝一(十一月廿三日) 年五十八河北と號す常陸

明治三十三年九月十九日

●電車四錢均一 東京市會は電車賃率を値上し四錢共通に決議す(三月十二日)

●電車値上反對 東京電車値上反對第二回市民大會を午後一時より日比谷公園に開く民衆騒動を起し近衛歩兵一箇小隊騎馬巡查百五十餘名連査四百名警備數十名を以て鎮靜に努む(三月十五日)

●島根縣大火 島根縣能登郡廣瀬町に大火し家屋百五十戸を焼失す(三月十六日)

●臺灣大地震 嘉義を中心として全島に亘る大地震あり爲に死傷者七千二百餘人家屋の倒潰せるもの四千三百餘戸に達す(三月十七日)

●海軍記念日 海軍會にて明治廿七年八年戰役海軍記念日を五月廿七日と定めたる旨發表す(三月十九日)

●男三郎公判 詩人齋藤及内務省刑罰部員として一時世の耳目を驚かしたる武林男三郎の公判を午前十時五分控訴院第三號法廷に於て開廷(三月十九日)

●帝國圖書館開館式 上野公園に新築中の圖書館落成し開館式を行ふ(三月廿日)

●高崎大火 午前二時廿分高崎市連雲町より大火し戸數三百餘戸を焼失す(三月廿三日)

●若手縣大火 午前一時若手縣高田町馬場より大火し戸數三百餘戸を焼失す(三月廿三日)

●大日本多額會社 資本金五百六十萬圓を以て東京府荏原郡目黒村大字三田二百四十七番地に開業す(三月廿六日)

●凱旋終了 此日出征陸軍の凱旋終了す(三月廿六日)

●鐵道國有案通過 鐵道國有案衆議院共通過す買収會社十七買収期限十ヶ年(三月廿七日)

●炭坑爆發 三菱所有の高島炭坑中カイセ炭坑に於て瓦斯爆發し二百廿二人の坑夫其他傷死す(三月廿八日)

●統監府閉館式 伊藤統監は韓國各大臣及各國領事其他を京城駐劄軍司令部に招待して閉館式を舉行し後大園遊會を開く(三月廿八日)

●國會閉會 第廿二期議會閉院式(三月廿八日)

●交相任命 牧野伸顯文部大臣に任命(三月廿八日)

●新宮家御創立 北白川宮恒久王に竹田宮久通宮鳩彦王に朝香宮の御稱號授式を行はせらる(三月卅日)

●鐵道國有法公布 鐵道國有法并に京釜鐵道買収法公布せらる(三月卅一日)

●伊國皇族入京 伊國皇族カシネ新橋着入京翌日參内十一日歸國の途に就く(四月一日)

●義和團歸國 十餘年我邦に流寓したる韓國皇親義和團を歸國(四月一日)

●長岡市制施行 新潟縣長岡町に市制施行(四月一日)

●議員變動 貴族院議長徳川家達衆議院議長松田正久を勸一等に叙し貴族院副議長黒田長成衆議院副議長眞浦勝人を勸二等に叙す又貴族院議員に叙動あり一般叙動として勸四等を授く(四月一日)

●東京印刷會社 資本金五拾萬圓を以て東京麹町區有樂町に開業す(四月八日)

●華族女學校廢止 學官院の組織を變更して女子部を設立し華族女學校を廢止す(四月九日)

●安中大火 群馬縣安中町より大火全焼百五十戸(四月九日)

●爵位授式 臺灣統治の功に依り男爵兒玉源太郎は子爵に昇り後藤新平は男爵を授けらる(四月十一日)

●臺灣總督更迭 臺灣總督兒玉源太郎參謀總長に轉任せしより佐久間左馬太を臺灣總督に任ず(四月十一日)

●嘉表再頒發 嘉義地方に於て再び強震あり死傷者多數を出す(四月十四日)

●最急列車開始 鐵道作業局にては新橋神戸間に最急行列車の運轉を開始す(四月十六日)

●火藥庫爆發 大阪府福村なる藥谷火藥庫爆發し附近の家屋多數大破す(四月十七日)

●韓國軍港新設 韓國政府は鎮海灣を以て軍港となす事に決定す(五月十日)

●男三郎死刑 社會の耳目を聳動したる武林男三郎は午前九時大審院第四號法廷に於て死刑の宣告を受く(五月十六日)

●外相新任 林董外務大臣に任ぜらる(五月十九日)

●鐵道五千哩祝賀會 名古屋に於て鐵道五千哩祝賀會を舉行し同時に鐵道功勞者奉告祭を行ふ(五月廿日)

●樺太境界劃定委員 陸軍砲兵大佐大島健一外四名は樺太境界劃定委員に仰付らる(五月廿日)

●日比谷驛變公判 日比谷驛變の嫌疑者百四名の第一回公判を東京地方裁判所を開く(五月廿三日)

●鐵道國有準備 此日鐵道國有準備局官制發布し第一着手に京釜鐵道を買収し十月一日北海道廣島及甲武十一月一日日本及若越十二月一日山陽及西成を何れも政府管轄に移す(五月廿四日)

●北海道大火 午前九時石狩郡夕張郡登川村より大火し民家四百十五戸を焼失す(五月廿五日)

●海軍記念日 卅七年八年戰役海軍記念日第一回の祝賀會を築地水交社に於て舉行す(五月廿七日)

●陸軍大將に任ぜらる 大島久直同大迫尚敏同立見尙文は陸軍大將に任ぜらる(五月廿九日)

●馬政局 新設馬政局を元龜橋牙國公使館跡に置かれ長官曾根龍助以下出動開辦す(六月一日)

●門戶開放 奉天安東縣大東溝の三市を開放し門戶開放實行の緒に就く大連は九月一日より開放(六月一日)

●三電車合同 東京電氣鐵道市街鐵道東京電車の三會同決議せらる(六月五日)

●静岡縣大火 午後五時静岡縣加茂郡田子村田子港湯屋松本和平方より大火戸數三百戸を焼く(六月八日)

●滿鐵設立發表 南滿州鐵道株式會社設立經營に關する件を公布す(六月八日)

明治三十三年九月十九日

●也阿彌ホテル火災 午後十一時卅分京都圓山也阿彌ホテルより大火し同ホテル及其他二三戸を燒く(四月十八日)

●東清鐵道授受 東清鐵道の授受は此日及廿五日廿六日の會商により結了し六月一日迄に公主嶺迄受領し八月一日迄に公主嶺以北寬城子以南を受領(四月廿一日)

●河野以下無罪 河野廣中以下の兇徒聚集被告事件は東京控訴院に於て無罪判決申渡さる(四月廿一日)

●樺太定期航海開始 初航海として郵船會社高松丸函館を出航(四月廿五日)

●凱旋大觀兵式 青山練兵場に於て凱旋大觀兵式舉行天皇陛下皇太子殿下には行幸あり之れに參加したる兵五萬餘(四月卅日)

●若松市大火 午後四時廿分福島縣若松市上大和町より大火し二百戸を焼失す(五月二日)

●新潟縣大火 午後十時四十分新潟縣中蒲原郡五泉町大川前より大火し約二百五十戸を焼失し翌朝鎮火す(五月二日)

●皇后宮駐劄御覽 皇后陛下には宮城前廣場に成らせられ押上兵隊本廠長の御覽明にて御覽御願覽遊ばさる(五月二日)

●東京市凱旋歡迎會 第三回陸軍凱旋歡迎會は日比谷公園にて開かる(五月五日)

●秋田縣大火 午後八時廿分秋田縣能代港町より大火し家屋百八十七戸を焼く同夜十一時四十分鎮火(五月六日)

●東京大火 午後一時東京本郷區根津靈驗町十番地衆座より大火し全焼百十二戸に及ぶ(五月六日)

●關東總督府移轉 關東總督府は遂陽より旅順に移轉す(五月六日)

●日米著作權條約 日米兩國著作權保護に關する條約官報を以て公布せらる(五月十日)

●園遊會を開く(三月廿八日)

●議會閉會 第廿二期議會閉院式(三月廿八日)

●交相任命 牧野伸顯文部大臣に任命(三月廿八日)

●新宮家御創立 北白川宮恒久王に竹田宮久通宮鳩彦王に朝香宮の御稱號授式を行はせらる(三月卅日)

●鐵道國有法公布 鐵道國有法并に京釜鐵道買収法公布せらる(三月卅一日)

●伊國皇族入京 伊國皇族カシネ新橋着入京翌日參内十一日歸國の途に就く(四月一日)

●義和團歸國 十餘年我邦に流寓したる韓國皇親義和團を歸國(四月一日)

●長岡市制施行 新潟縣長岡町に市制施行(四月一日)

●議員變動 貴族院議長徳川家達衆議院議長松田正久を勸一等に叙し貴族院副議長黒田長成衆議院副議長眞浦勝人を勸二等に叙す又貴族院議員に叙動あり一般叙動として勸四等を授く(四月一日)

●東京印刷會社 資本金五拾萬圓を以て東京麹町區有樂町に開業す(四月八日)

●華族女學校廢止 學官院の組織を變更して女子部を設立し華族女學校を廢止す(四月九日)

●安中大火 群馬縣安中町より大火全焼百五十戸(四月九日)

●爵位授式 臺灣統治の功に依り男爵兒玉源太郎は子爵に昇り後藤新平は男爵を授けらる(四月十一日)

●臺灣總督更迭 臺灣總督兒玉源太郎參謀總長に轉任せしより佐久間左馬太を臺灣總督に任ず(四月十一日)

●嘉表再頒發 嘉義地方に於て再び強震あり死傷者多數を出す(四月十四日)

●最急列車開始 鐵道作業局にては新橋神戸間に最急行列車の運轉を開始す(四月十六日)

●火藥庫爆發 大阪府福村なる藥谷火藥庫爆發し附近の家屋多數大破す(四月十七日)

●韓國軍港新設 韓國政府は鎮海灣を以て軍港となす事に決定す(五月十日)

●男三郎死刑 社會の耳目を聳動したる武林男三郎は午前九時大審院第四號法廷に於て死刑の宣告を受く(五月十六日)

●外相新任 林董外務大臣に任ぜらる(五月十九日)

●鐵道五千哩祝賀會 名古屋に於て鐵道五千哩祝賀會を舉行し同時に鐵道功勞者奉告祭を行ふ(五月廿日)

●樺太境界劃定委員 陸軍砲兵大佐大島健一外四名は樺太境界劃定委員に仰付らる(五月廿日)

●日比谷驛變公判 日比谷驛變の嫌疑者百四名の第一回公判を東京地方裁判所を開く(五月廿三日)

●鐵道國有準備 此日鐵道國有準備局官制發布し第一着手に京釜鐵道を買収し十月一日北海道廣島及甲武十一月一日日本及若越十二月一日山陽及西成を何れも政府管轄に移す(五月廿四日)

●北海道大火 午前九時石狩郡夕張郡登川村より大火し民家四百十五戸を焼失す(五月廿五日)

●海軍記念日 卅七年八年戰役海軍記念日第一回の祝賀會を築地水交社に於て舉行す(五月廿七日)

●陸軍大將に任ぜらる 大島久直同大迫尚敏同立見尙文は陸軍大將に任ぜらる(五月廿九日)

●馬政局 新設馬政局を元龜橋牙國公使館跡に置かれ長官曾根龍助以下出動開辦す(六月一日)

●門戶開放 奉天安東縣大東溝の三市を開放し門戶開放實行の緒に就く大連は九月一日より開放(六月一日)

●三電車合同 東京電氣鐵道市街鐵道東京電車の三會同決議せらる(六月五日)

●静岡縣大火 午後五時静岡縣加茂郡田子村田子港湯屋松本和平方より大火戸數三百戸を焼く(六月八日)

●滿鐵設立發表 南滿州鐵道株式會社設立經營に關する件を公布す(六月八日)

●久保田米庵(五月十九日) 年五十五歳東京府の人なり

●杉村澤(五月廿一日) 年五十九歳南都藩士なり明治廿八年朝鮮王妃の殺害に關して罪を得て獄に下る後臺灣總督府事務官に任ぜられ卅二年外務省通商局長に轉じ卅七年十一月南米移民事業を督勵せんが爲自ら請ふて伯刺爾駐劄公使となる

●矢野龍二(六月十七日) 年六十二歳貴族院議員なり萬善臣宮永悠三郎の二男初め米國代理公使となり明治八年歸朝後東京高等商業學校に教授を執り校長となり平生を其發展に努力す又東京酒會社社運補助鐵道東京製鋼東京商業會所特別會員なり

●重野善五郎(六月廿一日) 愛媛縣代議士

●坊屋俊(六月廿三日) 伯爵貴族院議員

●八世澤澤式佐(六月廿六日) 年六十九歳津三越の名手なり

●三好錦三郎(七月六日) 書家なり庚石と號す

●三遊亭圓橋(七月十一日) 年六十九歳落語家

●林學齋(七月十四日) 年七十四歳著名な昇字は平仲學齋に其號なり

●兒玉源太郎(七月廿三日) 年五十五歳陸軍大將正二位勳一等功一級子爵なり周防徳山に生る十七歳の時戊辰の役に出で明治四年少尉に任ぜられ七年佐賀の亂の時大尉として出征西南の役には參謀少佐にて熊本鎮城又日薩の野に戦ひ廿二年少將廿四年歐洲に赴き廿五年歸朝して陸軍大將に廿九年中將に廿六年内務大臣兼臺灣總督となり一時文部大臣を兼ね廿七年日露開戦後大將に進み滿州軍總參謀長として出征す

●徳川茂承(八月廿日) 年六十三歳一位勳四等侯爵なり

●汽船沈没 午後九時過朝鮮咸鏡道明川沖に於て御用船豊港丸浮流氷雷に觸れて沈没す(六月十四日)
 ●北海道大火 午後九時後志國小樽區色内町より出火し民家二百廿一戸を焼失す(六月廿四日)
 ●京都文科大學 京都文科大學を新設す(六月)
 ●神戶新聞社 東京本所一ツ目辨天宮に於て神田三河町藤井吉太郎を其妻藤井安情夫小島藤太郎兩人にて絞殺せし犯罪事件あり(六月廿九日)
 ●毎日改題 毎日新聞社は東京毎日新聞と改題の披露を芝罘館内に於て開く(七月一日)
 ●英艦隊長官入京 英國支那艦隊司令長官ムーア中将は幕僚と共に入京同日参内す(七月九日)
 ●帝都警務事件判決 去年帝都を騷擾せし機打事件の被告百四名に對する兇徒集結事件は午前十一時控訴院大法廷に於て判決言渡さる石川彦太郎以下十三名のみは無罪(七月十日)
 ●直江津大火 午前一時新潟縣直江津字寄町森りん方より出火し全焼一千四百八十八戸に及び全町殆んど全滅(七月十一日)
 ●日加條約 日本加奈太通商條約は批准交換を了す(七月十二日)
 ●津屋敷商店の納屋崩潰 死者八名負傷八名を出す(七月十五日)
 ●市債可決 東京市會は市債改正費として一千五百萬圓の外債募集を可決す(七月十七日)
 ●横濱大火 午後五時廿分横濱根岸町字相澤三百八十四番地賣商小野はるる同番地波止場人足新市太郎の間より出火し山本町一丁目二丁目相澤町三丁目迄延焼し總計五百九十五戸を焼く(七月十八日)
 ●女子列任官 女子行政吏員列任官登庸の囑託として郵便局爲替貯金管理所及大阪下關兩支所に於ける女子

職員十七名は愈々通信手として任ぜらる(七月廿四日)
 ●金州丸事件 金州丸事件に就き海軍少佐瀧口武五郎外四名は本職を免じ位記返上并に勳位功績を褫奪せられ歩中尉寺田龜之助外二名は本職を免ぜらる(七月廿五日)
 ●富山縣大火 午後八時富山縣上新川郡本岩瀬町廿五番地より出火し全焼百八十一戸(七月廿日)
 ●參謀總長 陸軍大將奧保豐參謀總長に補せらる(七月廿日)
 ●日米海電通信 日米海電通信開始し一般公衆の使用に供す(八月一日)
 ●關東都府官制 關東都府の制を改め關東都府官制を公布す(八月一日)
 ●電報合同許可 内務省は東京電報市街電氣三社の合併及資金債上四錢均一を許可す(八月一日)
 ●廢兵院 廢兵院條例を公布し九月一日より施行す(八月六日)
 ●三笠浮揚 昨廿八年九月十一日沈没したる軍艦三笠の引揚は海軍中将山本廣吉を委員長として十二月廿五日第一回引揚を試み此日第四回にして美事に引揚功す(八月八日)
 ●宇都宮大火 午後三時宇都宮市大町より出火し戸數百五十戸を焼く(八月十一日)
 ●列車轉覆 甲武線吉野寺驛構内に於て列車轉覆し十數名の死傷を出す(八月十三日)
 ●車衝突 東海道大高驛に於て貨車客車と衝突し廿餘名の死傷を出す(八月十五日)
 ●大連開放 大連を開放す(八月廿一日)
 ●四錢均一實行 東京鐵道會社は此日より電車賃四錢均一を實行す(九月二日)
 ●電車燒打 五日東京電車賃上反對會を日比谷公園に開き後群衆の一部東鐵襲撃を開始し電車は投石の爲破

り西紀州和歌山藩主
 ●原抱一庵(八月廿三日) 年卅九小説家福島縣の人名は余三郎抱一庵は其誠なり精神病を以て没す
 ●安川繁成(八月廿九日) 年六十八群馬縣の人明治十二年工部大書記に任ず岩倉公林友幸等と謀り日本鐵道會社を創立し推されて社長となる後會計検査院部長東京市參事會員を勤め卅一年八月日本鐵道會社に監査役となる後衆議院議員に擧げらる又卅五年愛國生命保險會社の社長たり
 ●黒川重頼(八月卅日) 年八十三文學博士なり本姓金子とす群馬縣の人皇典學者の間に於て風に頭地を抜く文科大學教授となり又京て宮内省御所寄人たり卅二年來名譽教授として之を優遇す又宮内省にても勳任の待遇を與ふ
 ●竹岡光昭(九月九日) 年七十正三位勳五等子爵有職に擢進す
 ●四代目岡安三郎(九月十四日) 年五十八長唄岡安の家元なり
 ●陽其(九月廿四日) 年六十九我孫新開派の創設者として著名なり字は大有元老院居士と號す長崎の人
 ●佐々友房(九月廿九日) 年五十三代藩士熊本藩士なり明治十年西南の變には池邊吉十郎等と共に兵を起し西郷の軍に投じ轉戦したるも事破れ十年懲役の刑に處せらる十四年の頃國權論を唱へ衆議院議員に當選し組織し十九年より廿二年に亘り井上伯耆に大隈伯の條約改正に激烈なる反對をなし始めて中央政府に其手腕を認めらる廿三年郷里より衆議院議員に擧げられ其職に在る事十六年國民協會大同俱樂部の首領たり
 ●根本通明(十月三日) 年八十五東京帝國大學教授文學博士舊秋田藩儒功名周助といふ明治十九年御講書始の節御進講を命ぜらる廿三年前根本義塾を創立し廿八

子戸其他紛争し此種三日間に亘り電車側に負傷者を出す警察官大檢察を行ふ(九月七日)
 ●獨逸皇族入京 獨逸皇族ルイスはルネセノオ艦にて横濱に着同日入京(九月廿日)
 ●エスベラント協會 日本エスベラント協會は東京神田青年會館に於て第一大會を開く(九月廿八日)
 ●東京市區改正 東京市は市區改正速成のため臨時市區改正局を設け角田眞平を局長に任ず(十月九日)
 ●關ヶ原三百年祭 關ヶ原三百年祭を成東市に於て舉行す(十月十二日)
 ●桑港學童排斥 桑港に於ける我學童排斥せらる(十月十二日)
 ●許築中學校燒失 大分縣許築中學校燒失(十月廿一日)
 ●宇治川電氣會社 資本金壹千貳百五拾萬圓を以て京都市下京區東洞院七條下る鹽小路町に開業す(十月廿五日)
 ●皇族御降嫁 久邇宮雲子女王は伯爵壬午某義に御降嫁あらせらる(十月廿八日)
 ●東久邇宮家 久邇宮裕彦王に東久邇宮の稱號を賜はる宮家これにて十四家(十一月三日)
 ●日智條約 日智條約通商航海條約並に追加條款官報を以て公布せらる(十一月六日)
 ●秋田縣大火 午前一時秋田縣山本郡能代港町大町より出火し人家百七十戸を焼く(十一月九日)
 ●文藝協會演藝大會 早稻田文藝協會演藝大會を東京歌舞伎座に於て開く(十一月十日)
 ●南海鐵道 後藤新平南海鐵道株式會社總裁となる(十一月十三日)
 ●阪本龍馬四十年祭 維新の志士阪本龍馬中岡慎太郎の四十年祭を京都靈山に舉行す(十一月十五日)

●軍艦燒打 軍艦燒打は横須賀に於て進水式を舉行(十一月十五日)
 ●京阪電氣鐵道會社 資本金七百萬圓を以て開業(十一月十九日)
 ●樺太輕便鐵道開通 樺太コルサコフよりウラジミロフヤに至る輕便鐵道開通あり(十一月廿一日)
 ●大將任命 寺内正毅陸軍大將に任ず(十一月廿一日)
 ●電車市有 東京市會電車市有を可決(十一月廿六日)
 ●滿州製粉會社 資本金壹百萬圓を以て開業(十二月八日)
 ●海兵溺死 午前十時品川沖に波泊の軍艦千歲の水兵及軍醫訪問者を混載したる渡船千歲を三哩程離れる所にて俄かに西南の旋風に遭ひ沈没し海軍一等兵曹喜多與之助以下五十八名は溺死す(十二月九日)
 ●前田邸行啓 東宮殿下東京本郷前田侯爵邸に行啓(十二月廿三日)
 ●第廿三期議會開會 此日第廿三期議會召集廿八日開院式(十二月廿五日)
 ●論功行賞 日露戰役の勳功者大山元帥東郷海軍大將以下陸海軍出征將官同相當官百六十名に對し行賞あり(十二月廿日)
 ●皇族叙勳 日露戰役中盡忠ありし陸軍大將大勳位貞愛親王以下八名に對し叙勳あり(十二月廿一日)

年大學教授となり卅二年博士の號を授けらる易に通ずるを以て開す
 ●新井平吾(十月十六日) 年五十一政友會員にして衆議院議員たり嘗て朝鮮事件に關し獄に下る
 ●平岡浩太郎(十月廿四日) 年五十六福岡の人明治十二年福岡赤池炭坑に投じ鐵夫と相值する年あり爾年專心鑛山業に従事し頗る財を得後福岡に支洋社を起し其社長となり十七年衆議院議員に當選し其後毎に郷里の代議士たり
 ●海江田信實(十月廿七日) 年七十五正二位子爵なり萬鹿兒島藩士維新に際し勤王の爲に奔走す奈良縣令貴族院議員福留顧問官等も勤む初名俊登
 ●小倉久(十一月四日) 年五十五舊沼田藩士なり司法省太政官元老院に仕出し更に司法省法學校に學び後大阪控訴院檢察となりより先き辯護士となり後内務省警保局長監獄局長和歌山縣岐阜縣知事に任ず
 ●諸戸清六(十一月十二日) 年六十一伊勢桑名の人富家を以て世に知らる明治十年西南の役に米賜與して巨利を得又廿年木曾川工事に著すするや其水利の便を洞察し死無地を廉價に買入れ美田を得又植林事業に着手して巨萬の富源を作る
 ●荒尾邦雄(十一月十五日) 年六十一萬縣藩士なり明治十九年工部大學會館に昇進し一時非難となりしも忽ち復職爾來卅年間勳績し書記官として師弟間に重愛せらる
 ●山本芳業(十一月十五日) 年五十七洋畫の大家なり岐阜縣明智町の人
 ●日野實秀(十一月廿日) 年四十一伯爵明治廿七年東宮侍從となり後貴族院議員たり
 ●青山延壽(十一月) 年八十七水戸藩の儒臣
 ●片岡市藏(十二月十一日) 年五十六俳優なり

●總理辭職 大隈重信憲政本黨總理を辭す(二月廿日)
●通信會火災 午前二時五分東京橋本町通信會
●足尾銅山火災 足尾銅山の坑夫過日來頻りに資金値上運
●足尾銅山火災 足尾銅山の坑夫過日來頻りに資金値上運
●足尾銅山火災 足尾銅山の坑夫過日來頻りに資金値上運

●陸軍行賞 陸軍文官軍服行賞第二回發表(二月廿六日)
●皇太子行幸 皇太子行幸(二月廿八日)
●皇太子行幸 皇太子行幸(二月廿八日)
●皇太子行幸 皇太子行幸(二月廿八日)

●中村三郎(二月九日) 年六十七多商船學校々長
●石坂昌孝(一月十三日) 年六十武蔵國南多摩郡の人
●島田孝之(一月十五日) 年五十八越中の人初め官に

(明治四十年)

一五二

●日清汽船株式會社 資本金八百拾萬圓を以て東京麹
●郵便規則改正 逓信省令第六號を以て郵便規則大
●日本倉庫會社 資本金貳百萬圓を以て東京日本橋區
●日本大博覽會官制 日本大博覽會を明治四十五年四

●北海道内陸山嶽 北海道内陸山嶽坑夫約二百名賃金値
●各社馬車會社 各社馬車會社の結果其弊を認め内務省
●東宮山行啓 東宮殿下は山陰地方に行啓の新橋

●足立正(四月十九日) 年六十七男爵島取藩士
●金井之(五月十五日) 年七十五位四位貴族院議員
●市川龍太郎(七月二日) 年五十八東京の俳優

(明治四十年)

一五三

明治四十年 (未丁) 七 六 五 九 三 元 紀 前

●兵庫電氣軌道會社 資本金貳百萬圓を以て神戸市湊町一丁目六百四十一番地に開業(七月二日)
 ●水戸大火 午後一時水戸市上市神崎より出火し戸數百五十戸を焼失す(七月三日)
 ●韓皇密使 韓皇密使を海牙平和會議に派し紛議を種す(七月六日)
 ●九段電車 東京九段電車午前五時より開通す(七月六日)
 ●神津島崩壊 伊豆神津島崩壊死傷者あり(七月九日)
 ●遺英宮御歸着 遺英大使伏見宮貞愛親王新橋御歸着(七月十四日)
 ●韓帝即位 十九日韓帝讓位の詔勅を發し此日其式を行ふ(七月廿日)
 ●日韓新協約 日韓新協約締結され日本の監督權は内政外交の一切に滲りて確實なる(七月廿四日)
 ●韓軍軍隊解散 韓帝軍隊解散の詔勅を發し午前九時より各隊に於て解散式を舉行す(八月一日)
 ●各地水害 此日より諸河氾濫して東海通信常務幹中央東線の諸橋雨水に破壊せられ東京市内の浸水家屋多し(八月四日)
 ●補有の水害 補有の水害なり(八月廿四日)
 ●兩館大火 午後十時廿分北海道函館區東川町二百七番地石炭製造業塚田才次郎方より出火し戸數一萬二千三百九十戸總坪數十六萬五千八百四十二坪を焼失し翌午前九時鎮火す(八月廿四日)
 ●韓帝即位 韓國に新帝即位の大典を淳徳殿に於て舉行す(八月廿七日)
 ●自然派小説 田山花袋小説諸篇を公にし之によりして自然派の小説盛行はれ又之を以て自然派小説の嚆矢とす(九月一日)
 ●樺太日露境界 樺太に於ける日露境界劃定書の公布(九月十日)

●日露通商航海條約 日露通商航海條約發表す(九月十一日)
 ●札幌農科大學 其開校式を舉行す(九月十二日)
 ●天津丸進水 米國航路に用ひべき一萬三千五百噸の東洋汽船の天津丸長崎造船所にて進水す(九月十四日)
 ●神戸築港工事 神戸小野瀧埋立地に於て神戸築港工事起工式を舉行(九月十六日)
 ●鹿島艦奇蹟 軍艦鹿島廣島灣に於て艦砲射撃中午後二時十分右舷後部十吋砲塔内に於て裝藥燃焼し突工廠員遺兵少監藤原以下十三名の即死者及び鹿島乗員大尉有田好元以下廿九名の負傷者を出す(九月十六日)
 ●第十九師團 從來の近衛師團外十二師團を更に六師團増加し十九師團とし改正陸軍管區を發表す(九月十八日)
 ●日露戰役行賞 日露戰役勳功者の授賞式あり山縣伊藤大山は公爵井上松方野津桂は侯爵芳川佐久間伊東山本東郷黒木奥乃木小村は伯爵寺内清浦曾根は子爵其他授賞者多し(九月廿日)
 ●韓國副統監 韓國副統監を置く曾根荒助之に任ず(九月廿日)
 ●米國陸軍船入京 米國陸軍船マフト夫妻午前六時三十分ニ號にて横濱に入港此日入京十月二日參内す(九月廿八日)
 ●五二館大火 午後八時十五分東京麹町區山下町の五二館内彌瀨商店より出火し同館全焼及外に四戸を焼く(九月卅日)
 ●名古屋港開港 名古屋港開港す延長四千二百六十間(九月卅日)
 ●中山一地位危殆 皇后陛下御見舞の爲に中山邸に行啓(十月四日)
 ●東宮御渡御 皇太子殿下に於て午前十時廿五分新橋御

●盤鴻社を興し自由民權の説を主張し後政友會内閣に大蔵省官房長たり又長野縣選出衆議院議員となる
 ●前田清次(八月十四日) 年卅三重縣の人露探として目され此日東京にて青森縣人今村勝太郎の爲に殺さる
 ●福羽美綱(八月十四日) 年七十七正二位子爵萬津和野藩士文久三年真木和泉等と共に御所に召され學習院に出仕し又孝明天皇の左右に侍す維新に際し日俄國事に奔走して功あり後諸官を歴任し十二年東京學士會院會員に擧げられ尋で參事議官内務部長を経て十八年元老院議員に任じ廿年子爵を授けらる
 ●水野忠敬(八月十七日) 年五十七子爵萬上總前開藩主廿七年頃より宮内省に出仕し御歌所參儀となる
 ●陸實(九月二日) 年五十一津輕藩士なり初め官に就きしも辭して日刊東京電報を創設し更に改題して日本を稱す以來其社長兼主筆たり後社を人に譲り歐州に遊び疾を獲て歸る號を瑞南といひ文名高し
 ●島田藩根(九月二日) 年八十一漢學者萬徳山藩士にして風に天下の志士と交り勤王の説を唱へ國事に盡す曾つて日本一切經の編輯に勉め十八年に至り完結す
 ●名村泰藏(九月六日) 年六十八正三位慶應年間佛國に遊び歸朝司法省に奉職諸官を経て大審院長心得となり後貴族院議員に勅任さる
 ●北尾次郎(九月七日) 年五十五東京帝國大學教授理學博士松江藩松村寛祐の長男明治十八年東京帝國大學の教授となり又東京山林學校教授海軍教授たり
 ●網島榮一(九月十四日) 年卅五遠東家漢川と號す岡山縣の人
 ●本田種竹(九月廿九日) 年四十六漢詩壇の重鎮たり名は幸之助種竹は其號阿波島島の人初め官に仕へしも卅九年自然吟社を創立し其牛耳を執る
 ●中山慶子(十月五日) 年七十三故正一位大勳位中山

明治四十年 (未丁) 七 六 五 九 三 元 紀 前

●發車御渡御の途に上せらる(十月十日)
 ●京大總長 岡田真平京大總長に任命せらる(十月十六日)
 ●軍艦橋馬は横須賀に於て進水式を舉行す(十月廿五日)
 ●早大廿五年祝賀 早稻田大學創立廿五年祝賀會を舉行し總長大隈伯の銅像除幕式を行ふ(十月廿日)
 ●先賢館位 故島津忠寬同久經同久朝同久眞山鹿乘行山崎開中江藤樹伊藤仁齋香川景樹に贈位の御沙汰下る(十月廿三日)
 ●陸奥宗光伯銅像除幕式を外務省芝罘前に執行す(十月廿四日)
 ●利根進水 佐世保軍港に於て皇太子殿下御靈臨進水式を行ふ(十月廿四日)
 ●大谷派法主繼嗣 大谷派本願寺法主光登退隱して光演其後を繼承す(十月廿四日)
 ●第一回文展 文部省公設第一回美術展覽會を上野竹の臺にて開く之れより例年開く(十月廿五日)
 ●二年兵制 三年兵制を改めて二年兵制の法令發布(十月廿八日)
 ●其南有馬電氣軌道會社 資本金五百五十萬圓を以て兵庫縣川邊郡川西村に開業(十月卅日)
 ●布哇野球對戰 布哇野球對戰選選手の大試合を開く(十月卅一日)
 ●皇室令公布 宮内省官制改正を皇室令を以て公布す(十一月一日)
 ●外交官授爵 高平牧野内田林の外交官に男爵を授けらる(十一月四日)
 ●東武鐵道開通式 東武鐵道全通式を尾形町及館林町に於て舉行す(十一月十日)
 ●東宮還宮 東宮殿下には韓國及び九州四國行啓より

午前十時卅五分還宮(十一月十四日)
 ●大演習行幸 天皇陛下に於て特別大演習御統親の爲午前十一時五十分上野驛御發車茨城縣下に行幸(十一月十四日)
 ●位記追贈 萬水戶藩主故徳川治保外廿三名に對して位記追贈せらる(十一月十五日)
 ●特別大演習 小山結城下館附近にて開始せらる(十一月十五日)
 ●還米艦歸還 還米伊集院艦薩波干波干波は横須賀軍港に歸る(十一月十六日)
 ●還幸 聖上陛下には午前十一時五十分大演習御統親より上野に御着登(十一月廿日)
 ●伊吹進水 新造艦伊吹吳工廠に於て進水式を舉行す(十一月廿一日)
 ●韓太子太傅 伊藤純監韓國皇帝より太子太傅を授けらる(十一月三日)
 ●下田歌子辭職 學習院女學部長下田歌子辭職し松本源太郎其後任となる(十一月廿八日)
 ●清國答禮大使 清國答禮大使傅員子東京に來着(十二月五日)
 ●地洋丸進水 長崎三菱造船所に於て大汽船地洋丸進水式を舉行す(十二月七日)
 ●品川子銅像除幕式 東京九段阪上に建設されたる品川彌二郎銅像除幕式を舉行(十二月十日)
 ●韓太子入京 韓太子には太師伊藤博文に伴はれ午後二時四十五分新橋着入京芝罘宮に入る十八日參内拜謁(十二月十五日)
 ●第廿四期帝國議會開會 廿五日を以て召集せられ此日開院式を舉行(十二月廿八日)

●忠能公の息女にて一位局と稱す明治天皇の御生母なり十八歳にして内裏に召され先帝に奉仕し嘉永四年典侍に補せられ翌年九月廿二日明治天皇の御誕生あらせらるるや特に御養育せられて御年六歳にならせ給ふ迄自邸に御預り申す後皇太子殿下の御教育掛に任せらる明治卅三年從一位勳一等に叙せらる
 ●池田政論(十月八日) 年五十九正三位子爵萬生阪藩主明治元年伏見の役續々仕警衛の命を受けて功あり
 ●松木剛(十月廿日) 年七十一貴族院議員京都の人維新の當時國事に盡す兩館五校後役の如き最も功あり
 ●小野寺正敬(十月卅一日) 年六十三製紙業の恩人
 ●山口定雄(十月) 年四十七新派俳優なり阿波の人
 ●林友幸(十一月八日) 年八十五伯爵福密顧問官なり山口藩士風に勤王攘夷の論を主持す維新後諸官に歴任し宮中顧問官錦旗閣祇儀貴族院議員に任じ廿四年富美宮御養育主任後泰宮御養育主任に拜命す
 ●大谷馬十(十一月十四日) 年六十六俳優
 ●三遊亭圓遊(十一月廿六日) 年五十八落語家廿四歳の時三遊亭圓初の弟子となり鼻とステ、コにて名あり
 ●山中政亮(十二月一日) 桂岳と號す長州萩の人久しく内閣書記官の職に在り後印刷局長となる
 ●野村又三郎(十二月三日) 年七十二大阪の狂言師
 ●阪東小三郎(十二月八日) 年六十二長唄の名人大阪の人本名は羽嶺小三郎といふ
 ●川崎八右衛門(十二月十三日) 年七十四茨城縣の人明治七年川崎組なる物を創立し又川崎銀行を創立す十二年東海貯蓄銀行を設く
 ●淺井忠(十二月十六日) 年五十二洋畫家私立關西美術學院長なり再度歐洲に留學を命ぜられ京都高等工藝學校教授に任じ第五回内閣勸業博覽會審査官及聖路易萬國大博覽會審査官たり

●電車市營不認可 東京市電車市營不認可なる(七月三日)
●内閣總辭職 西園寺首相参内して閣臣一同辭職を提出す(七月四日)
●鬼橋事件 大阪府東成郡鶴橋村大字猪飼野五百八十番屋敷銀行業木村権右衛門六十歳神名鬼橋午前二時半兇刃に刺さる(七月六日)
●桂内閣成立 侯爵桂太郎を總理大臣として新内閣成立す大藏大臣は桂兼任陸軍大臣寺内正毅は臨時外務大臣兼任司法大臣に岡部長職文部大臣に小松原英太郎農商務大臣に大浦兼武選信大臣に後藤新平(七月十四日)
●市長辭職 尾崎東京市長辭職を呈す(七月十四日)
●三重丸事件 三重丸乗組員廿六名はニコライウツクより浦羅に護送の途中護送兵と衝突雙方重傷者を出し廿六名は軍法會議に送られ内六名死刑の宣告を受け實際問題を惹起す十月十一日露帝の命に依つて死刑特赦の勅令を發す(七月廿五日)
●實業學校 休職陸軍砲兵大尉川喜大治郎が張謇士と謀り北京に入り露國將校及清國陸軍に軍用圖面の實附運動中駐屯軍兵隊の探知する所となり同行を求むや拔銀抵抗して憲兵に射殺さる(八月四日)
●陸軍軍大將任命 井上光大久侯爵野は陸軍大將に日高壯之丞は海軍大將に任ぜらる(八月七日)
●東洋拓殖會規 東洋拓殖株式會社會規を官報を以て公布せらる(八月廿七日)
●外相任命 小村壽太郎外務大臣となる(八月廿七日)
●大博延期反對 午後一時東京府は緊急會議を開き大博覽會延期に反對の決議をし反對意見書を提出す(八月廿九日)
●赤旗事件公判 東京地方裁判所に於て六月廿二日東京神田錦旗館に於て赤旗を讀したる社會黨員判罪を以て

下十三名の判決言渡あり(八月廿日)
●大博延期 勅令第二百七號を以て大博覽會を五十年に延期の件公布さる(九月二日)
●京大總長 菊池大藏京都帝國大學總長に任命(九月二日)
●井上侯重忠 興津の井上重忠につき 天皇陛下には宮内省御用係橋本綱常博士を御差遣(九月二日)
●新潟市大火 午前一時新潟市古町通四番町筋の湯小柳喜太郎より出火し全焼戸數二千二百廿二戸に及ぶ同八時廿分鎮火(九月四日)
●東北行啓 皇太子殿下は日光田母澤御用邸より東北地方に行啓翁島に御着在らる(九月八日)
●彌生所反對 東京荏原郡日黒村長は彌生所設置反對陳情の爲村民大舉して早稲府邸に押寄せ(九月八日)
●贈位 故從一位北畠親房に正一位を贈られ故從二位侯爵佐竹義興以下廿六名に對し各贈位の御沙汰あり(九月九日)
●島嶼發車 東京陛下には午前八時五十分島嶼發車東北巡啓の途に上らる(九月十二日)
●日米仲裁條約 日米仲裁條約を公布す(九月十二日)
●英澳大火 午後六時三十分英澳國山縣郡高富深尾方より出火し二百五十戸を焼失す(九月十四日)
●拓殖創立委員 東洋拓殖會社創立委員は總數百八十六名にして内韓人廿三名を控除し日本人八十三名官報を以て發表せらる(九月十六日)
●暹羅皇太子入京 暹羅國第四皇子ナコン、ソチャイシ、此日入京(九月十六日)
●東京市長 東京市會開會尾崎行雄市長に當選し廿日就任す(九月廿二日)
●陸軍部改組 文部省は明治廿三年省令二號に改正を加へ明治四十三年層より陸軍部改組停止し帝國大學製

●油田仙(四月廿四日) 年七十二貴族院議員なり下總佐倉の人藤澤置後農學を修め藤井本村町に學農社を創設し勞農雜誌を發行して我農界に遠く所轄からす
●毛利元樹(四月廿五日) 年六十從二位勳二等子爵長門長府藩主なり
●山崎宮親王(五月二日) 年八十九貴族院議員正三位
●德川義親(五月十七日) 年八十九貴族院議員正三位
●五代木村玉之助(五月十七日) 年五十七大阪相撲中興の立行司
●祝辰巳(五月廿五日) 年四十一正四位勳二等山形縣の人多年大藏省に奉職し沖繩縣稅務長臺灣總督府長官長官長官を歴任す
●松岡廣吉(六月十三日) 年五十五箱根藩の關原藩者なり神奈川縣足柄下郡箱根町の人宮の下より浦谷原の湯を過ぎて元箱根村箱根に至る三里十四町餘の車道開鑿を企て明治廿四年三月起工起て廿七年三月竣功す
●川上眉山(六月十五日) 年四十四親友社派小説家なり東京の人名を亮と呼ぶ典雅の文章を以て名聲高し此日曉二時刺刀を以て自殺す
●國木獨步(六月廿三日) 年卅八下總國鏡子の人名を哲夫と呼ぶ國民新聞に才筆を揮ひ又日露戰爭當時時事畫報に筆を執り獨歩社を起す初め文名聞えざりしも晩年俄に高し
●水原準三郎(六月廿六日) 年五十一層學の大家なり滋賀縣安土村常樂寺の人
●兒島惟謙(七月一日) 年七十一伊豫守和島の人幼名種次郎と呼ぶ勤王討幕の事に奔走して明治四年司法省に入り控訴院裁判長和歌山長崎名古屋鶴岡大阪福島の各地に知事として歴任し廿四年大審院長に補せられ廿六年錦旗館候御付られ廿七年貴族院議員に勅選せら

(明治四十一年)

一五八

層に準ずべき旨官報を以て公布す(十月一日)
●警察犯禁令 此日より施行(十月一日)
●馬券發賣禁止 馬券發賣禁止せらる(十月七日)
●南英文庫 徳川頼倫侯の經營せる南英文庫開館式を行ふ(十月十日)
●東宮遊啓 皇太子殿下東京に還啓(十月十日)
●米國實業家來着 米國實業家の一行は天津丸にて午前四時分横濱へ來着(十月十二日)
●戊申詔書 戊申詔書の換發あり(十月十三日)
●第二回文展 第二回文部省公設展覽會開催さる(十月十五日)
●志士五十年祭 吉田松陰梅田雲漢三樹三郎等維新志士の五十年祭を千住小塚原に催す(十月十七日)
●米國大西洋艦隊來 午前米國大西洋艦隊十六隻横濱に入港艦程二萬九千哩の大廻航なり(十月十八日)
●米國艦隊長官拜謁 米國大西洋艦隊司令官スベリ提督以下廿九名風風間に拜謁仰付らる(十月廿日)
●日鐵總裁 松尾日本銀行總裁重任さる(十月廿日)
●古今歌人大祭 東京九段能樂堂に於て古今歌人大祭を行ふ(十月廿五日)
●景岳五十年祭 橋本景岳五十年祭を國學院大學に行ふ(十月卅一日)
●東拓株募集 東洋拓殖會社の株券募集す申込高は募集株數の卅六倍を越ゆ(十一月一日)
●日清電信協定 日清電信協定調印さる(十一月七日)
●女王降嫁 有栖川姫宮實枝子女王は徳川慶喜の嗣子慶久に御降嫁遊ばさる(十一月八日)
●大演習行幸 天皇陛下には大演習御統監の爲關西に向ひ午前十時分新橋御發車(十一月九日)
●陸軍大演習 陸軍大演習奈良平原に於て十三日迄開始せらる(十一月十日)

●(十一月十二日)
●(十一月十二日) 瑞典大探險家ヘーナン博士來朝す
●清帝崩御 清國皇帝光緒帝崩御(十一月十四日)
●西太后訃音 清國西太后崩御せらる(十一月十六日)
●大觀禮式 海軍大演習去九日に了(此日午前神戶沖に於て觀禮式を舉行 聖上陛下には淺間艦に御乘遊ばさる參列艦艇百廿三隻(十一月十八日)
●還幸 大元帥陛下には關西大演習御統監より午後三時五分新橋(御着還(十一月廿日)
●日比谷圖書館開館 午前九時より東京日比谷圖書館開館す(十一月廿日)
●臺灣鐵道通過式 臺中に舉行し開院宮藏仁親王台臨(十一月廿四日)
●茨城縣大火 午後八時茨城縣東茨城郡磯崎町字壽町奥澤みの照沼みつ二家より出火二百餘戸を焼失す(十一月廿七日)
●兩國公園開園 東京兩國公園開園式(十二月一日)
●日米協商發表 十一月卅日日米協商約を交換し此日發表發表す(十二月二日)
●傳通院炎上 東京小石川區表町なる傳通院午後六時頃より出火し本堂全部焼失す(十二月三日)
●鐵道院官制 鐵道院官制發布せられ後藤新平鐵道院總裁に平井晴次郎副總裁に任じ以下大東運行はる官制を即日實施し同時に鐵道廳を廢す(十二月五日)
●日露條約 日露條約公布さる(十二月十二日)
●電車直上 東京市會開會電車直上問題を決議す(十二月廿四日)
●第五期議會開會 帝國議會は十二月廿二日召集此日開院式(十二月廿五日)
●電車直上反對 東京電車直上問題に反對運動盛んになる(十二月廿九日) P. 158

れ卅年愛知縣より遷されて衆議院議員となる卅五年再び貴族院議員に任命さる
●今井幾三郎(七月十五日) 年七十三大阪の能樂師
●松平定致(七月廿一日) 年六十一子爵舊高須藩主松平義建の男孫名侯に養はる京都所司代として禁裏守護に當る又西南の役に際し義勇の士四百餘を募り出陣せしめて功あり後性を久松と改む
●三好退藏(八月十八日) 年六十四從二位勳一等貴族院議員なり舊高橋藩士司法次官大審院評定官大審院長を歴任し廿一年獨逸に遊び歸朝後辯論士となり其會長に擧げらる
●野津道貫(十月十八日) 年六十八正二位大勳位功一級後藤元帥陸軍大將なり維新前後より日露大戦迄軍功多し殊に日清戰役には平塚攻撃に殊功あり日露役には遼陽沙河奉天の大戦に勇名を轟かす
●榎本武揚(十月廿六日) 年七十三正二位勳一等子爵舊幕臣にして海軍奉行たり幕府倒るや隨館に脱走して官軍に抗し力盡きて降る當時釜次郎の名天下に高し明治政府に仕へて海軍中將に任じ特命全權公使海軍通信農商務文部外務の大臣たり又樞密顧問官に歴任す
●片岡利和(十一月二日) 年七十三正三位勳三等男爵舊高知藩士錦旗館候族院議員等たり
●稻垣萬次郎(十一月廿五日) 年四十七從三位勳一等肥前平戸の藩士英國に學び東方策を主張し暹羅西班牙の公使となる此日馬德里に遊く
●四の海軍次郎(十一月卅日) 年五十四薩摩の人明治十年京都の角力に入り西の海と名乗り後東京に出て大關より廿三年五月横濱を襲る後退いて相模年寄となり并高といふ
●岡澤精(十二月十二日) 年六十五正二位勳一等功二級子爵陸軍大將なり舊山口藩士侍從武官長議定官

(明治四十一年)

一五九

明治四十二年

北海道船失 午後六時半北海道第一印刷室より出火し...

明治四十二年

松平正直男副總裁に任ぜらる(四月六日)
●列車衝突 六日午後七時五十分仙臺發着線直行列車...

(明治四十二年)

● 数一千坪東京本所區元町同院境内に在り(六月二日)
 ● 高島藩邸 佐々木侯爵田子土方東久世伯の高島藩邸を山野精養軒に譲す(六月六日)
 ● 近衛兵奇勲 近衛歩兵第二聯隊及近衛工兵大隊は赤羽工兵大隊作樂場に於て堡壘攻防演習中午前零時十三分歩兵大隊本部の掩蓋墜落し近衛歩兵第二聯隊第二大隊長少佐佐々木元綱以下十二名重傷者を出す(六月七日)
 ● 釋尊石像著 印度より渡來せる釋尊石像午後一時新橋着(六月七日)
 ● 皇室服喪令 皇室服喪令公布せらる(六月十一日)
 ● 統監更迭 伊藤統監樞密院議長に任ぜられ同時に曾副統監監獄總監に任ぜらる(六月十四日)
 ● 宮相更迭 宮内大臣田中光顯依願本官を免ぜられ公府宮具定宮内大臣に任ぜらる(六月十六日)
 ● 新學士會院長 帝國學士會院役員改選せられ齋藤大藏新に同院長とる(六月十九日)
 ● 赤十字社長續任 故赤十字社長橋本綱常の綱常後継式を午前赤十字病院境内に舉行(六月廿日)
 ● 收入印紙改正 大藏省令を以て收入印紙の形式中一部改正の旨發表せらる(六月廿一日)
 ● 横濱開港展覽會 横濱開港展覽會開會式を舉ぐ(六月廿八日)
 ● 公證人手數料 公證人手數料を改正す(六月廿九日)
 ● 横濱開港五十年祭 横濱開港五十年祭を開催す市内諸種の催しありて賑ふ(七月一日)
 ● 靜岡縣裁判 靜岡縣官探偵証事件の首魁元靜岡署巡查長古平藤田等十八名に對する判決あり(七月三日)
 ● 日精代議士判決 午後一時十分大審院判事大法庭に於て日精事件渡邊代議士の判決あり(七月三日)

● 日精事件決定書 日精會社重役に關する懲罰決定書發表せらる(七月十一日)
 ● 元日精社長自殺 元日精會社長酒匂常明自邸にて短銃にて自殺す(七月十一日)
 ● 間宮百年祭 間宮林藏東歸百年記念會を催す(七月十一日)
 ● 井伊銅像 井伊直弼銅像除幕式を横濱港部山に執行(七月十一日)
 ● 行軍日射病 高崎歩兵第十五聯隊は群馬縣藤岡町と新町の間に演習中射病にて兵士六名死亡し外に四五十名輕症に罹る(七月十八日)
 ● 中將免官 嚴に懲罰廷に於て有罪の決定を受けたる元大日本水産株式會社社長陸軍中將藤原方園本官を免ぜられ且つ位返上允許せらる(七月廿二日)
 ● 朝日艦奇禍 軍艦朝日伊勢灣に於て甲板上前部十二斤速射砲の尾栓安全装置に故障を生じ午後三時三十分目に於て尾栓破損し即死四名重傷者五名を出す(七月廿五日)
 ● 韓皇儲補育 伊藤公韓國皇太子補育總裁を仰付らる(七月廿六日)
 ● 韓國中央銀行 韓國中央銀行條例發表せらる(七月廿七日)
 ● 大船大火 午前四時五十分大阪府北區空町二丁目七十番屋敷大船小南田庄太郎方より出火し翌日午前四時鐘火戸數一萬一千三百六十五戸損傷一千五百四十四千五百圓價値六十九名死者六名罹災地五十餘町に及び大阪北部殆んど焼失す(七月廿一日)
 ● 日精結審 日精事件控訴結審す(七月廿一日)
 ● 韓皇儲巡遊 韓皇儲伊藤公同伴東北巡遊の途に上る(八月一日)
 ● 新海大火 午前三時廿分新潟市古町通九番地敷員座に於てらる(九月廿五日)

● 觀世清之(六月十六日) 年六十一能樂大家二世觀世殿之承の子誦本の編輯と能役者系圖の編製に力を盡す
 ● 島津忠亮(六月廿六日) 年六十一從二位勳三等伯將日向佐土原藩主島津忠寬の長子なり
 ● 許應(七月六日) 年六十六齋の妻長根の名字
 ● 酒匂常明(七月十一日) 年六十九農學博士元日精株式會社社長也但馬出石藩士東京農林學校助教授となり後農科大學教授農商務局第一課長に任じ夫れより農務局長となる轉じて大日本精糖會社社長となり日精會社破綻して其責を重じ此日自殺す
 ● 岡友重章(七月十六日) 年四十九肥後の人國權論者なり韓國王紀事件の時三浦梧樓と遊樂する所あり
 ● 荒井節之助(七月十九日) 年七十四幕末海軍奉行となる江戸城引渡後軍艦を率ゐて函館に脱走し官軍と戦ふ後降服し開拓使出仕より日本最初の氣象臺長に任ぜらる十五年官を辭す
 ● 福地復(七月廿二日) 年四十八美術工藝及圖案に長ず
 ● 佐竹水洲(七月廿三日) 年七十五畫家
 ● 齋藤信業(八月六日) 年廿二高山樗牛の實弟文學評論家文學士なり誠を野の人といふ
 ● 梅庭尼(八月七日) 年六十五高杉晋作の妻本名をおのぶといひ鳥關の編妓なり高杉の寵妾となりてより清操四十年奉行庵に住す
 ● 二荒芳之(八月十八日) 年廿一北白川能久親王の第五子母新に二荒家を立て伯爵を授けらる
 ● 田村哲(八月十九日) 年廿四米澤の人海軍大學東京高等師範の教授となり海洋學氣象學の造詣深し
 ● 神山顯胤(八月廿日) 年八十一正二位勳一等男勇高知藩士なり維新の際政權未定及伏見の戦に功を樹つ其後各所に權令又は縣令に歷任し其後元老院議員貴族

(明治四十二年)

● 江州地震 近江に大地震あり震動五分間に亘り死者廿一名負傷者百六十八名全壊一千百廿戸半壊二千四百十七戸に及び慘狀を極む(八月十四日)
 ● 渡米實業團 渡米實業團一行は午後三時汽船ミナソマ號にて横濱開港(八月十九日)
 ● 大阪大火公判 大阪北區元玉田庄太郎に關する公判を大阪區裁判所に於て開廷(八月廿日)
 ● 牧方火藥發 大阪陸軍牧方藥野火藥庫二機爆發し同所衛兵四名重傷を負ひ其他附近住民傷者約七八十名爆發のため一里餘を距る處迄被害あり爆發火藥の量無慮二萬二千餘貫目(八月廿日)
 ● 安徳帝御陵 安徳天皇御陵を神戸市荒田村に發見(九月八日)
 ● 日清協約發表 滿洲及間島問題に關する日清協約を官報にて發表(九月八日)
 ● 大師講壇 能登曹洞宗大本山總持寺開祖靈山講壇に常濟大師の號を贈諡す(九月九日)
 ● 即位 勤王家碩學志士等廿六名に對し即位の御沙汰あり(九月十一日)
 ● 皇儲北巡 皇太子殿下北陸行啓の途に上らせらる(九月十四日)
 ● 藤公渡滿 伊藤公一行此日大磯發渡滿の途に上る(九月十四日)
 ● 伏見若宮妃渡歐 伏見若宮博恭王妃經子御渡歐の途

● 日精會社重役に關する懲罰決定書發表せらる(七月十一日)
 ● 元日精社長自殺 元日精會社長酒匂常明自邸にて短銃にて自殺す(七月十一日)
 ● 間宮百年祭 間宮林藏東歸百年記念會を催す(七月十一日)
 ● 井伊銅像 井伊直弼銅像除幕式を横濱港部山に執行(七月十一日)
 ● 行軍日射病 高崎歩兵第十五聯隊は群馬縣藤岡町と新町の間に演習中射病にて兵士六名死亡し外に四五十名輕症に罹る(七月十八日)
 ● 中將免官 嚴に懲罰廷に於て有罪の決定を受けたる元大日本水産株式會社社長陸軍中將藤原方園本官を免ぜられ且つ位返上允許せらる(七月廿二日)
 ● 朝日艦奇禍 軍艦朝日伊勢灣に於て甲板上前部十二斤速射砲の尾栓安全装置に故障を生じ午後三時三十分目に於て尾栓破損し即死四名重傷者五名を出す(七月廿五日)
 ● 韓皇儲補育 伊藤公韓國皇太子補育總裁を仰付らる(七月廿六日)
 ● 韓國中央銀行 韓國中央銀行條例發表せらる(七月廿七日)
 ● 大船大火 午前四時五十分大阪府北區空町二丁目七十番屋敷大船小南田庄太郎方より出火し翌日午前四時鐘火戸數一萬一千三百六十五戸損傷一千五百四十四千五百圓價値六十九名死者六名罹災地五十餘町に及び大阪北部殆んど焼失す(七月廿一日)
 ● 日精結審 日精事件控訴結審す(七月廿一日)
 ● 韓皇儲巡遊 韓皇儲伊藤公同伴東北巡遊の途に上る(八月一日)
 ● 新海大火 午前三時廿分新潟市古町通九番地敷員座に於てらる(九月廿五日)

● 院議員歸國感候に任ぜらる
 ● 神山顯胤(九月四日) 年五十四正五位勳五等工學博士山口の人電氣通信雷針改良に關心し電氣界に貢獻する所多し我國唯一の電氣研究者として電氣學者氣象學者間に推重さる
 ● 賀作佳吉(九月十八日) 年五十三理學博士作津津山秋坪の子大學南校を出で米國の大學に入り學術俊秀にて獎學金二百五十兩を受く更に英國に遊學し歸朝後東京大學教授となり進んで勳任教授となる又理科大學長に任ぜらる動物學者の泰斗なり
 ● 今村信行(九月廿一日) 年七十從三位勳二等信州下伊那郡の出身明治五年初めて司法會に出仕以來卅七年間裁判事務を執掌す名判事の譽あり
 ● 原田忠助(九月廿五日) 年六十二正四位勳二等海軍造兵總監薩摩の人なり
 ● 中井敬所(九月卅日) 年七十九帝室技藝委員篆刻の名手なり江戸に生る内旨を奉じ品玉を印刷せし事あり
 ● 大河内顯剛(十月九日) 年五十六歌聲伎座社長
 ● 小川又次(十月廿日) 年六十二正二位勳一等功二級子爵陸軍大將なり豐前國小倉藩士慶應二年十九歳長藩の兵と戦ふ明治四年臺灣征討の時は大尉十年西南の役少佐にて龍城守戰術家として英名隠れなく日清戰爭に第一軍參謀長たり日露戰役には第四師團團長たり廿三年少將時中將時八年大將に進む
 ● 石塚友支(十月十七日) 年五十九食業主義の醫術を以て開伊藤前福井の人初め陸軍の軍醫たり
 ● 磯崎實愛(十月廿日) 年九十四從一位勳一等侯爵香間祇候なり六才初めて宮中に仕候す維新前後には大納言議定官別部卿などを勤む明治三年十月香間祇候を命ぜらる
 ● 伊藤博文(十月廿六日) 年六十九從一位大勳位公爵

●石狩大火 午後十時石狩國空知郡砂川村火災に罹り機失約二百(十一月十一日)
●韓領事官 韓領事官李完用韓人李在明の爲に刺され重傷を負ふ(十一月十二日)
●鹿兒島開港 鹿兒島線全通し開通式舉行す(十一月廿一日)
●二本橋五人殺 東京芝二本橋町一丁目七十九番地郵船會社上川丸船長工藤嘉三郎方の留守宅に於て夜一時頃同人の妻二男一女下女合せて一家五人慘殺さる(十一月廿一日)
●汽船沈没 第二喜佐丸山口縣下響灘六連島附近に於て夕方暴風雨の爲沈没し乗組員五十八名盡く溺死す(十一月廿九日)
●高知大火 午前高知に火災あり全焼三百十戸半焼十五戸に及ぶ(十一月廿九日)
●横須賀鎮守府司令長官 瓜生外吉は此日を以て横須賀鎮守府司令長官に任じ大正元年十月十六日迄留任(十二月一日)
●日韓合併決議 一連會は日韓合併を決議し韓皇への上奏書を李總理大臣宛に送る超えて七日却下となる(十二月四日)
●空襲傳送管 東京郵便局にては江戸橋本局神田局間并に江戸橋本局蠟光町米穀取引所間に空襲傳送管を敷設し通信事務を開始す(十二月十五日)
●渡米實業團歸朝 渡米實業團は地洋丸にて午前七時

(明治四十二年)

廿分横濱到着(十二月十七日)

る日野式飛行機に發動機を付け實地飛行試験を戸山ヶ原射撃場にて舉行す日本に於て此種の實地試験は今回を嚆矢とす(三月十八日)
●英人銅像除幕式 工科大学前庭に建設せられし故工科大学教師英人ウェスト銅像除幕式を舉行す(三月十九日)
●横濱大火 午前零時五十分横濱市野毛町三ノ九四佐藤太郎宅より出火焼失五百四十二戸(三月十九日)
●發明館開館 東京銀座發明館開館式舉行(三月廿日)
●春秋會發會式 新聞雜誌諸通信記者の春秋會發會式を交詢社に於て舉行す(三月廿一日)
●議會閉會 第廿六期議會閉院式(三月廿四日)
●安重根死刑 伊藤公の刺客安重根旅順に於て死刑を執行する(三月廿六日)
●伏見宮渡英 日英博覽會名譽總裁伏見宮は午前八時廿分新橋發渡英の途に上らる(三月廿六日)
●清國皇族入京 清國皇族載瀾入京開院宮御同乘芝離宮に入らせらる(三月廿八日)
●名古屋公園 名古屋市中區公園地均工事終了す遊坪敷七萬九千餘坪(三月)
●王子五人殺 午後一時東京府下北豊島郡王子字山下熊谷春吉の家族五人殺害さる犯人は埼玉縣北足立郡戸田村鈴木重次郎にして東京本所にて逮捕さる(三月廿九日)
●白樺發刊 學習院出身者文藝雜誌白樺一號を發行(四月一日)
●新宮相 宮内次官渡邊千秋を同大臣に任す(四月一日)
●海上爆發 神戸海岸通ニツケル商會の遊樂船に滿積せるダイナマイト三千五百個及雷管二百萬午前六時四十分爆發し同港附近に碇泊の汽船機橋に損害あり

なり國防廳毛郡東村農林十蔵の子にして天保十二年九月二日生る初め利助後復補さ改む號は春歌王政維新に奔走し明治初年參與となり尋て兵庫縣知事となる明治二年大蔵少輔に轉じ三年財政銀行取調の爲め米國に赴く四年岩倉大使の一行に隨來に派遣さる西南戰爭の時は參謀兼工部卿たり一年内務卿を兼ね十四年參事院議長を兼任十五年國會開設の爲歐洲に差遣十六年歸朝十七年宮内卿となり伯爵を授けらる十八年特選全權大使として清國に赴き天津條約を締結し同年内閣總理大臣兼宮内大臣廿一年樞密院議長二十三年第一期議會に貴族院議長廿七年戰役の頃總理大臣として功あり侯爵に列し大勳位に叙せらる廿八年十二月廿日統監に任命四十年公爵を授けらる四十二年六月統監を免じ樞密院議長に任ぜらる此日哈爾濱に於て韓人安重根の爲に狙撃され韓帝文忠公の諡號を以てす十一月四日東京日比谷公園に國葬を饗み大井町字谷垂に葬る
●新井有真(十一月一日) 年六十一從三位勳二等功二級海軍中將なり幕臣にして江戸に生る明治五年少尉に任じ廿七年戰役には大佐共兼艦長たり廿一年少將に進み日露戰役當時仁川に沈没艦隊リヤークを引揚げ内外の耳目を驚かす九月中將に進み三笠艦沈没を引揚げ次で旅順の敵艦沈没を引揚げて功あり
●有馬新一(十一月五日) 年六十一從三位勳二等功二級海軍中將なり鹿兒島の入長役の役兼海防計四南の役に從ひて功あり果進して中將に進み吳鎮守府司令長官第一艦隊司令官官佐世保鎮守府司令官官等を歴任す
●賀岡宮邦親王(十二月八日) 御年四十三久遠宮朝彦親王の第二子明治廿五年賀岡宮の御稱號を賜はる
●島丸光孝(十二月九日) 年四十五正三位伯耆
●矢吹秀一(十二月十六日) 年五十八正四位勳一等功三級陸軍中將明治四十二年二月陸軍少將となり進んで廿三年四月中将となる日清日露の戰役に功あり

●代議士入獄 日韓事件の激化代議士此日入獄す(一月十三日)
●滿洲中立 帝國政府は米國の滿洲中立提議に對し回答す(一月廿一日)
●中學生遭難 午後一時頃相州三浦郡逗子開成中學生十二名同地小學校生一名組艇にて沖に漕ぎ出で暴風に遭ひ行方不明となる(一月廿三日)
●日銀總裁賞 午前十時四十分松尾日本銀行總裁馬車にて出動の途赤坂溜池にて電車と衝突し負傷す(二月一日)
●安重根死刑宣告 故伊藤公を銃殺せる安重根此日死刑宣告され三月廿六日死刑執行さる(二月十四日)
●木曾川橋開通 岐阜縣笠松町より愛知縣北方村に通ずる延長二百五十二間の木曾川橋渡橋式を行ふ(二月廿日)
●本所大火 午前零時半頃東京本所押上町松浦直吉方より出火し百五十餘戸を焼失し午前二時四十分滅火す(二月廿八日)
●皇室令發表 皇室令第二號第三號を以て皇族身分令及皇室親族令公布さる(三月三日)
●又新會解散 東京芝紅葉館に又新會懇親會を開き解散式を行ふ(三月七日)
●實面有馬電氣軌道株式會社 同社は明治四十年十月廿日資本金五百五十萬圓を以て登記を爲し此日運轉開始す營業總哩數十八哩(分五厘三月十日)
●流矢二千不明 千葉縣銚子附近に午前九時半頃より暴風烈しく流矢約二千名行方不明となる(三月十二日)
●清正三百年祭 加藤清正三百年祭を東京築地海軍水交社の大廣間に開く(三月十三日)
●國民黨 國民黨結黨式(三月十三日)
●飛行機發動試驗 陸軍歩兵大尉日野熊藏發明に係

(明治四十三年)

る日野式飛行機に發動機を付け實地飛行試験を戸山ヶ原射撃場にて舉行す日本に於て此種の實地試験は今回を嚆矢とす(三月十八日)
●英人銅像除幕式 工科大学前庭に建設せられし故工科大学教師英人ウェスト銅像除幕式を舉行す(三月十九日)
●横濱大火 午前零時五十分横濱市野毛町三ノ九四佐藤太郎宅より出火焼失五百四十二戸(三月十九日)
●發明館開館 東京銀座發明館開館式舉行(三月廿日)
●春秋會發會式 新聞雜誌諸通信記者の春秋會發會式を交詢社に於て舉行す(三月廿一日)
●議會閉會 第廿六期議會閉院式(三月廿四日)
●安重根死刑 伊藤公の刺客安重根旅順に於て死刑を執行する(三月廿六日)
●伏見宮渡英 日英博覽會名譽總裁伏見宮は午前八時廿分新橋發渡英の途に上らる(三月廿六日)
●清國皇族入京 清國皇族載瀾入京開院宮御同乘芝離宮に入らせらる(三月廿八日)
●名古屋公園 名古屋市中區公園地均工事終了す遊坪敷七萬九千餘坪(三月)
●王子五人殺 午後一時東京府下北豊島郡王子字山下熊谷春吉の家族五人殺害さる犯人は埼玉縣北足立郡戸田村鈴木重次郎にして東京本所にて逮捕さる(三月廿九日)
●白樺發刊 學習院出身者文藝雜誌白樺一號を發行(四月一日)
●新宮相 宮内次官渡邊千秋を同大臣に任す(四月一日)
●海上爆發 神戸海岸通ニツケル商會の遊樂船に滿積せるダイナマイト三千五百個及雷管二百萬午前六時四十分爆發し同港附近に碇泊の汽船機橋に損害あり

●大給恒(一月六日) 年七十二樞密院同官正二位勳一等伯爵たり唐三河國吳縣の藩主明治廿二年貴族院議員となり廿九年實勳勳章に任す
●中村秋香(一月廿七日) 年七十宮内省御歌所寄人若靜岡藩士中村鐵翁の長男にして國文學者として令名あり教部内務文部等各者に勤績す廿年宮内省御歌所寄人に任ぜらる
●藤岡作太郎(二月三日) 年四十一東京文科大学助教授文學博士號を東國といふ金澤の國文學史家近世論叢史其他著書多し
●吉水錦朝(二月六日) 年六十六薩摩縣佐伯の名手
●谷元道之(二月廿一日) 年六十六鹿児島藩士西南の役に功あり後官を辭して十四年東京馬車鐵道會社を創立す廿二年東京株式取引所頭取に推さる
●高嶺秀夫(二月廿二日) 年五十七津藩士東京高等師範學校長帝國博物館理事東京女子高等師範學校長東京美術學校長東京音樂學校長を勤む
●稅所駕文(二月廿六日) 年五十六旅順要塞司令官正四位勳二等功三級陸軍中將鹿兒島藩士日清戰役には第二軍旅順攻撃に重砲兵大隊長たり日露戰役には第二軍砲兵隊長として功あり
●兼井重明(二月廿八日) 年六十五博物館長
●佐々木高行(三月二日) 年八十從一位勳一等侯爵高知藩士たり風に動王の大義を唱へ維新の際殊功あり宮中顧問官樞密院顧問官を歴任し明宮常宮周宮御養育主任となり功を以て侯爵に陞叙さる曾て司法大輔として歐米を渡遊せし事あり又參議工部卿たりき
●廣橋賢光(三月廿一日) 年五十七貴族院議員伯耆
●小杉樞朝(三月廿日) 年七十七御歌所參事文學博士古典學者なり徳島の人にして美術有職古書等に造す
●岩倉具定(四月一日) 年六十宮内大臣從一位勳二等

明治四十三年 (戊辰) 五月

(四月七日) ●櫻田五十年祭 やまご新聞社主催に係る櫻田烈十五十年祭を九段靖國神社に行ふ(四月十二日)
 ●東京政界行啓 皇太子殿下は參謀旅行演習御見學の爲山御出發後皇陛下に行啓(四月十三日)
 ●徳川公渡英 貴族院議長徳川家達阿波丸にて渡英(四月十三日)
 ●海軍洗滌 吳鎮守府所屬第六號潜水艇は廣島灣新港沖に於て洗滌訓練を行ひつゝありし際沈降の儘遂に浮出せず海軍大尉佐久間勉以下將校二名下士卒一名死す(四月十五日)
 ●不正横擧 東京市内白米商人不正横擧を使用するより大檢舉を行ふ(四月十五日)
 ●能登輪島大火 午後四時能登國輪島町河井町宮水お關方より出火し全焼千七百卅戸半焼七十戸に及び翌午前四時分鏡火(四月十六日)
 ●海相奏上 齋藤海相參内し第六號潜水艇洗滌引揚の顛末艇長以下殉難者の壯烈なる最後の状況等を奏上し艇長以下五名に對し位記追賜の御沙汰あり(四月十九日)
 ●學制改革 文部省學制改革案發表(四月十九日)
 ●全國盲人大會 盲人鍼灸業の全國盲人大會を兩國國技館に開く集るもの二千餘名(四月廿三日)
 ●秀英社燒失 午前零時四十分東京京橋四軒屋町印刷業秀英舎工場より發火し同社全部燒失(四月廿六日)
 ●陸軍疑獄 昨年十一月東京陸軍兵器支廠の新築工事受員の競争入札を行ひ選定組百四十六萬餘圓に落札せしが其間不正の事あり憲兵隊にて内探の結果工事主任陸軍一等主計白石虎吉以下四人は軍法會議に送され關係者四十名の家宅搜索あり陸軍部内大疑獄を起す(四月廿日)
 ●印度王入京 印度パロ國王橫濱着十四日入京(五月一日)
 ●千代田橋開橋 東京日本橋區千代田橋開橋式を舉ぐ(五月一日)
 ●青森大火 午後一時青森市安方町より出火し七千五百十九戸全焼青森市給米魚土に歸し翌午前二時鏡火す死者あり(五月三日)
 ●朝香宮御成婚 朝香宮地產主は富美宮九子内親王と御成婚(五月六日)
 ●深川首無女 午前四時東京深川東大工町小名木川に首無女の屍體漂着す犯人長州長吉六月十日逮捕さる女は内縁の妻小山お市(五月六日)
 ●英皇崩御 英皇帝エドワード第七世は午後十一時五十分パツキンカム宮殿にて崩御(五月七日)
 ●日英博覽會 英京倫敦にて日英博覽會開會(五月十日)
 ●長政三百年祭 廣島市にて淺野長政三百年祭を行ふ(五月十五日)
 ●札幌大火 午前二時北海道札幌南二條四丁目より同十一時卅一分南二條四丁目より出火し兩度の火災にて約五百十戸を燒失す(五月十八日)
 ●ハレト彗星 此頃ハレト彗星見ゆ(五月十九日)
 ●英皇御大葬 英帝御大葬はパツキンカムにて於て執行(五月廿日)
 ●米澤大火 米澤市宇野野より出火し百卅餘戸を燒失(五月廿二日)
 ●天鹽大火 天鹽國天鹽村に火火し百卅餘戸を燒失す(五月廿四日)
 ●傳道院棟上 東京市小石川傳道院棟上式を舉行す(五月廿八日)
 ●廣瀬中佐銅像 東京市神田區廣瀬中佐銅像に建設せられたる

明治四十三年 (戊辰) 五月

故海軍中佐廣瀬武夫の銅像除幕式を行ふ(五月廿九日)
 ●韓國統監更迭 曾國苑助韓統監を罷め陸軍大臣寺内正毅更つて兼任す山縣伊三郎を副統監に任ず(五月廿日)
 ●大連事件 社會主義者幸徳秋水等が計畫發見し捕はる(六月一日)
 ●韓國太皇帝秘密 石塚總務長官韓國太皇帝秘密箱を開き秘密書類を取調ふ(六月四日)
 ●長崎大火 長崎縣五島郡江村約二百卅戸を燒失(六月四日)
 ●橋樑除幕式 神奈川縣浦賀町水神社境内の弟橋樑除幕式を舉行す(六月五日)
 ●鐵道學校十週年 岩倉鐵道學校創立十週年祝賀式(六月五日)
 ●大塚中將銅像 東京小石川陸軍砲兵工廠に於て故大塚中將銅像除幕式を舉行(六月十二日)
 ●印度國王來着 印度ムアバン國王橫濱着(六月十三日)
 ●智恵選道 智恵兩國獨立百年記念祭舉行に付き井上勝之助を智利に内田康成を西番に各差遣す(六月十七日)
 ●伏見宮御歸朝 日英博覽會名譽總裁伏見宮御歸朝(六月廿三日)
 ●有樂町開始 山手線有樂町開始(六月廿五日)
 ●山尻遊樂會 築地水突社に於て子爵田尻稻次郎の還暦祝賀を兼ねて文庫創立報告會を開く(六月廿八日)
 ●近衛兵富士登山 近衛歩兵第四聯隊富士登山(六月廿九日)
 ●旅順開放 旅順開放を官報にて發表(七月一日)
 ●南極探險公表 南極探險の公表式を東京市神田區錦輝館に舉行(七月五日)
 ●前出郎行幸 天皇陛下には此日東京本郷元宮土町なる侯爵前田利爲邸に於て行幸(七月八日)
 ●前田邸行啓 皇后陛下には此日東京本郷元宮土町なる侯爵前田利爲邸に於て行啓(七月十日)
 ●列車遺難 午後四時中央東線列車富谷陸道の崩落し居たる中に進行して脱線し汽機車客車破滅し即死一名重傷者多数(七月十二日)
 ●日露協商 日露協約發表さる(七月十三日)
 ●風俗取締 勅令第三百十號を以て風俗取締を發布さる(七月十四日)
 ●米國陸軍部内 米陸軍部長官アインケンソンは比律賓副總督其他を隨へ同國大使同伴參内す(七月十六日)
 ●電車衝突 午前東京赤坂見附下に電車脱線して他の電車と衝突し死者一名重傷者六十名(七月十七日)
 ●小松姓 北白川輝久王臣籍に降下し小松姓を稱せらる(七月廿日)
 ●鐵道丸洗滌 大阪商船會社鐵道丸は門司に向つて航行中夜八時全羅南道浦沖に於て沈没し乗客二百餘名行衛不明なる(七月廿三日)
 ●氣球演習 中野氣球隊は下野國石橋町にて廿三日より演習を舉行し本日自由飛行の運動に於て好成績を挙げ(七月廿四日)
 ●有珠山噴火 廿二日より震動せる北海道樺根國有珠山附近の有珠山廿五日夜爆發し廿六日午後二時有珠山破裂し噴煙三十餘丈に騰り更に此朝大爆發(七月廿一日)
 ●大分市制 大分町を市制施行地に指定し明年四月一日より市制施行(八月二日)
 ●諸國大水 數日來の大雨にて東海道全部及東山道一部諸川増水して交通社絶被害甚し東京市の内外も浸水

(明治四十三年)

被害ありて下谷淺草本所深川四區殊に甚しく街路に舟を浮ぶの奇観を呈す(八月九日)

●大木伯綱像 大審院構内に建設されたる故伯爵大木伯綱像除幕式を行ふ(九月廿六日)

●米國野球選手 シカゴ大野球選手は早稲田慶應其れ他學校と試合の爲鎌倉丸にて入朝す(九月廿六日)

●朝鮮總督府 朝鮮總督府官制發布(九月廿日)

●朝鮮總督任命 寺内正毅朝鮮總督以下任命李載定以下朝鮮貴族に授爵す(十月七日)

●河内進水 聖上の御親臨を待つて伊豫艦河内進水式を横須賀軍港内に於て舉行噸數二萬八千噸(十月十五日)

●官學校開校 東京小石川維多利亞官學校開校式を舉行す(十月十五日)

●工場法案 農商務省は工場法案發表す(十月十八日)

●在籍軍人會 帝國在籍軍人會發會式を午後三時より九段會社に於て舉行す(十一月三日)

●水天宮の大難否 東京日本橋區船越町水天宮戊戌年戌月戌日にて難否を極め重軽負傷數十名を出す(十一月五日)

●醫油會社解散 大日本醫油會社は東京商業會議所に臨時總會を開き會社の解散を決議せり(十一月五日)

●東京西行 皇太子殿下には第三十五團の對抗演習御見學の爲午前七時新橋發車にて名古屋に行啓(十一月六日)

●社會主義者豫審 刑法第七十三條の罪に關する嫌疑を以て大審院の特別豫審に關する豫審の取調へを受け居たる社會主義者の一團幸徳秋水郎森近運平奥宮健之次郎の公判に附することに決定す(十一月九日)

●大演習總監 大元帥陛下には陸軍大演習總監の爲午前十時廿分新橋發車山に向はせらる(十一月十日)

●附位 三備地方の故功臣に對して附位の御沙汰あり

●此前後十一年歸朝後胃腸病院を創立して院長たり

◎川邊一朗(九月五日) 年八十一我國海陸軍の名人なり東京の人廿九年帝室技藝委員に擧げらる

◎富貴樓刈倉(九月十一日) 年七十五横濱富貴樓の女將にして花柳界の女傑なり

◎曾爾亮助(九月十四日) 年六十二正二位勳一等子爵山口藩士大戸潤平の三男明治五年佛國留學を命ぜられ廿三年五月衆議院書記官長に任ぜられ廿五年衆議院議員に選ばれ五月副議長となる廿六年佛國公使となり尋て法相相繼相等を歴任し廿九年樞密顧問官又馬政局長官に任ぜらる四十年衆議院議長となり後統監に進む四十二年五月病にて辭し片瀨に病を養ふ此日歿す

◎島島貞(十月十四日) 年六十七海軍大將正二位勳一等功二級男爵鹿兒島縣の人廿七年少將卅年中將に任じ横須賀鎮守府司令官及び佐世世保護守府司令官に任じ卅八年海軍大將に任ず

◎山田美紗(十月廿四日) 年四十三小説家東京の人本名を武太郎と呼ぶ自ら言文一致を創り天下に普及す晩年不振類癩癩に於て歿す

◎玉置信太郎(十一月一日) 年七十三八丈島に生る小笠原島島を開き信天翁の捕獲島島高瀬具其他南洋貿易を營々巨利を得ず

◎志立高松(十一月一日) 年卅八吉原病院院長醫學博士

◎大塚補(十一月九日) 年卅六文學博士大塚保治の夫人にして女流作家として小説脚本の著作あり

◎山田谷右衛門(十一月廿一日) 年五十八徳島縣人明治十九年一月大關となり廿四年年寄武藏川を號名す

◎四有樹山(十二月四日) 年九十曹洞宗本山總持寺前貫主たり青森縣淺村に生る九歳の時發心求道の志を起し天保四年二月長流寺に得度す明治卅三年横濱信徳西有寺を建立し師を請じて開山第一祖となす翌年大本山

一六八

(明治四十三年)

●十一月十六日 探検家岡宮林蔵記念碑を其誕生地茨城縣谷井田村專福寺に建立碑式を舉ぐ(十一月十九日)

●聖上還幸 大元帥陛下午後二時十分大演習地より還幸(十一月廿日)

●松方侯金婚式 松方侯爵は芝三田の邸に於て金婚式祝賀園遊會を開く(十一月廿一日)

●名古屋行社焼失 名古屋に午前六時頃出火あり明治十八年の建築に係る借行社は全部焼失(十一月廿三日)

●南極探検隊送別 南極探検隊後援會は日比谷公園に於て白瀬中尉一行の送別會を開く(十一月廿六日)

●王子火災爆發 午前七時五十分東京府下王子町字十條東京砲兵工廠銃包製造場に雷求五萬爆發し重傷者十六名を出す(十一月廿七日)

●南極探検隊出發 陸軍重兵中尉白瀬等廿七名の南極探検隊は午後四時南丸に搭乗し芝浦を解纜し南極探検の途に上る(十一月廿八日)

●井上侯銅像 興津なる井上侯別邸内小帳山に建設されたる同侯銅像除幕式を舉行(十一月廿八日)

●海軍大將 海軍中將片岡七郎同上村産の承嗣伊集院五郎海軍大將に任ぜらる(十二月一日)

●網走二百年祭 靖國遺言の著者故淺見重次郎二百年祭を學習院大學講堂に開催同時に贈從四位の御沙汰あり(十二月一日)

●加納銅像 加納夏雄銅像除幕式を東京美術學校後庭に於て舉行(十二月四日)

●社會主義者公判 大逆事件の社會主義者幸徳秋水等第一回公判を大審院刑事大法廷に開く(十二月十日)

●郵船廿五年記念 日本郵船會社は廿五年記念會を東京築地養軒に開く(十二月十五日)

●横濱大火 午前三時頃横濱市長者町九ノ八九中植彌三郎方より出火百八十一戸を焼失(十二月十五日)

●本門寺炎上 静岡縣富士郡北山村本門寺(元日蓮宗富士派)大本山本門寺の妙法五重の塔修繕中午後二時出火し本堂及五重の塔をも焼失す(十二月十五日)

●電話廿年祝賀會 電話創業廿年祝賀會を中央電話局に舉行す(十二月十六日)

●件買人自殺 東京株式取引所仲買商中店主中島豊次郎は刺腹自殺原因は株の豫想外れて百萬圓餘の損失を爲したるに因る(十二月十八日)

●飛行演習 去る十五日以來代々木練兵場に於て徳川日野兩大將により試みられたる飛行演習は此日を以て了る(十二月十九日)

●議會開會 第廿七期帝國議會は廿日召集され此日開院式舉行(十二月廿三日)

●總持寺貫主に推され六月十九日直心淨國禪師の號を賜ふ

◎重野安綱(十二月六日) 年八十四從三位勳二等薩摩の人字は子德誠は成慶通稱厚之丞と云ふ文部省に出仕し修史局副局長編修官後元老院議官文科大學教授を歴任し廿一年文學博士を授けられ廿三年貴族院議員たり

◎原田一進(十二月九日) 年八十一正二位男爵陸軍少將貴族院議員歸國前岡山の人なり東京砲兵工廠長たりし事あり

◎相村貞一(十二月九日) 年五十一從四位勳三等醫學博士なり新潟縣長岡病院院長となり尋て仙臺高等中學校學部に教授を執る獨逸より歸朝後宮内省侍醫となる

◎信天智軒(十二月十一日) 年七十六儒者なり名は繁字は文則鳥取の人帝國大學其他學堂に教授を執る

◎三浦安(十二月十一日) 年八十三宮中顧問貴族院議員正二位勳一等男爵高伊豫國西條藩士にして元老院議官高等法院裁判官東京府知事等を経て歸國前薩長及宮中顧問官となり貴族院議員に勳選せらる

◎小林富次郎(十二月十三日) 年五十九ライオン會の店主武州北足立郡與野村に生れ初め石輪橋守等の製造に失敗し遂にライオン會の製造を開始して成功す

◎田中富太郎(十二月十五日) 年四十二醫學博士京都の人外醫界の泰斗なり

◎岡山慎吉(十二月十八日) 年五十八海軍中將從三位勳二等功三級男爵なり岡山黃村の嗣子廿七年戰役には松島艦の副長日露戰役には佐世世保護守府工廠長として功あり三笠引揚を以て名聞四海に開く四十二年八月竹敷要港部司令官に補せらる

◎望月大左衛門(十二月廿日) 年七十六鉄の名手

◎今村長實(十二月廿九日) 年七十七刀劍鑑定の大家高知の人

一六九

●長谷寺炎上 大和國磯城郡初瀬村なる西國卅三ヶ所... ●米山丸沈没 汽船米山丸は午後八時岩手縣九戸郡沖... ●小倉運慶全焼 午前五時豊前小倉市朝日町運慶内...

●内務省百五十萬圓を下賜し給ふ(二月十一日) ●速達郵便 東京市内及東京横濱間に於ける速達郵便... ●相州大火 午後九時頃相州中部須馬村須賀町より...

●澤田八(二月二日) 年五十五歳大夫三味線の名手本... ●高崎安彦(二月十一日) 年四十三歳廣島縣議員... ●高崎安彦(二月十一日) 年四十三歳廣島縣議員...

●列所に拘引さる同會社が五ヶ年間約六十萬圓の脱税を... ●帝廟閉場 東京帝國廟場閉めて閉場し山崎紫紅作懸... ●神風閣焼失 神奈川の神風閣及神風閣即ち元の神風...

●出火し全焼百四十戸(三月廿三日) ●東北大學校長 澤柳政太郎東北帝國大學校長に坪野... ●飛行機飛行 此日午前七時初めて所澤飛行場に於...

●且つ宗門の爲に功勳からず又博學を以て開明學年學校... ●桂文治(二月十六日) 年六十六歳漢語家なり桂派の古... ●野澤吉兵衛(二月廿二日) 年七十一歳本名鈴木紫藏...

(明治四十四年)

●四月一日 山川健次郎九州帝國大學總長に任ぜらる(四月一日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

●四月二日 神奈川縣見火あり全機百廿五機原因は汽車の煤煙なり(四月一日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

●四月三日 陸軍飛行演習 埼玉縣所澤の新設飛行場に於て初めて陸軍飛行演習を開始す(四月三日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

●四月四日 陸軍飛行演習 埼玉縣所澤の新設飛行場に於て初めて陸軍飛行演習を開始す(四月三日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

●四月五日 陸軍飛行演習 埼玉縣所澤の新設飛行場に於て初めて陸軍飛行演習を開始す(四月三日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

●四月六日 陸軍飛行演習 埼玉縣所澤の新設飛行場に於て初めて陸軍飛行演習を開始す(四月三日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

(明治四十四年)

●四月七日 陸軍飛行演習 埼玉縣所澤の新設飛行場に於て初めて陸軍飛行演習を開始す(四月三日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

●四月八日 陸軍飛行演習 埼玉縣所澤の新設飛行場に於て初めて陸軍飛行演習を開始す(四月三日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

●四月九日 陸軍飛行演習 埼玉縣所澤の新設飛行場に於て初めて陸軍飛行演習を開始す(四月三日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

●四月十日 陸軍飛行演習 埼玉縣所澤の新設飛行場に於て初めて陸軍飛行演習を開始す(四月三日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

●四月十一日 陸軍飛行演習 埼玉縣所澤の新設飛行場に於て初めて陸軍飛行演習を開始す(四月三日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

●四月十二日 陸軍飛行演習 埼玉縣所澤の新設飛行場に於て初めて陸軍飛行演習を開始す(四月三日) ●日露飛行 米國飛行家マース、シユライバー、アラ...

(明治四十四年)

日露條約 日露商標保護條約並に同商會社互認條約東京に於て調印さる(六月廿三日)
●日露條約 日露商標保護條約並に同商會社互認條約東京に於て調印さる(六月廿三日)

鳥羽開通 三重縣山田鳥羽間鐵道開通此日鳥羽に開通式を挙ぐ(七月廿一日)
●九州大學火災 筑前箱崎に建築中の九州帝國大學工科大學校舎南教室より發火し木造二階建の校舎全焼す(七月廿五日)

清季の長子なり美聲且つ優麗の曲に名あり
●六十三世遊行上人(七月廿一日) 年七十九相州藤澤遊行寺住職時宗管長
●小林義雄(八月十一日) 年五十八洋風室内裝飾の鼻祖たり京都府丹波郡宮津藩士

(明治四十四年)

一七四

後寄時四十分新橋御歸着(八月廿三日)
●授爵者 平田東助大浦武武野村裕巳内藤康哉の四名に子爵を授けられ加藤高明石井菊次郎の二名に男爵を授けらる(八月廿四日)

橋本掩町通信信務内第二號官舎内に於て強盜の爲重傷を負ふ賊廿七日に逮捕さる(九月十七日)
●探險遺骨改葬 時野探險隊夫人の遺骸改葬を池上本門寺に於て執行(九月廿四日)

知盛、赤垣、光秀
●葉田春樹(九月十六日) 年卅八美術院派の畫家信州飯田の人明治廿八年東京美術學校を卒業廿六年印度に古跡を探討し翌年英國に渡り傳じて佛國巴里に至り自作展覽會を開く第三回公設展覽會の落葉は其傑作といふ

(明治四十四年)

一七五

(明治四十四年)

●横濱市吉田橋の開橋式を舉行(十一月一日)
 ●文展覧會 第五回文部省展覧會場内に於て審査員の審査に不満を抱きたる岡本清彦事祖山末吉は陳列中の廣業外五人の繪畫に墨汁を塗抹す(十一月五日)
 ●神奈川縣移轉式 神奈川縣廳見なる曹洞宗大本山總持寺移轉式を行ふ(十一月五日)
 ●大演習行幸 大元帥陛下には福岡縣久留米地方に於て舉行の特別大演習御統親の爲午前十時廿分新橋御發車九州に向け行幸(十一月七日)
 ●新潟縣大火 午前零時半新潟縣柏崎町桐油業宇澤金次郎方より發火約七百戸を焼失(十一月十三日)
 ●福島縣大火 午前一時頃福島縣田村郡三春町仲町字六條より出火し戸數四百を焼失(十一月十四日)
 ●遺棄運 伏見宮博王佐保より軍艦伊吹に御乘艦運の命を帯びさせられ香港に向けせらる(十一月十四日)
 ●聖上還幸 聖上陛下九州より此日午後四時四十分新橋に還幸(十一月十九日)
 ●福島縣田村郡移村大字移(十一月一日) 一時發火し延焼七十餘戸(一月六日)
 ●船夫罷業 京濱間を往復する東京組合石炭回漕船頭一千五百名は運賃の事より同盟罷業を始む(一月十四日)
 ●大阪大火 午前零時分大阪南區難波新地遊廓四番町百草湯煙筒の火の粉の爲五番町烟筒置屋遊廓の三階に火あり南は下寺町二丁目北は上本町九丁目東は谷町九丁目西は難波新地四番町に延焼し午後零時四十分に至り漸く鎮火す焼失戸數五千二百六十八戸總損害高三千萬圓(一月十六日)
 ●維新史料 維新史料編纂委員會(一月十六日)
 ●參謀總長更迭 參謀總長を罷り長谷川大將其後任に親補さる(一月廿日)
 ●火藥爆發 午後二時五十分群馬縣群馬郡岩鼻村所在砲兵工廠岩鼻火藥製造所内火藥製造場に於て火藥爆發し職工數十名の死傷を出す(一月廿四日)
 ●千葉縣大火 千葉縣海上郡浦賀村字椎名内にて午前四時發火し六十戸を全焼す(一月廿五日)
 ●東京外債成立 東京市の外債は興業銀行の手を経て總額九百七十五萬五千磅發行價格九十八磅手取九十二磅半利子五分發行場所は倫敦に里祖育の三ヶ所の條件にて成立す(一月廿九日)
 ●局長奇禍 文部省實業事務局局長眞野文二は午前十一時十分腕車にて參謀本部前に來りし時腕車に衝突墜落

(十一月廿七日)
 ●瓦斯合併案 午後四時東京市會を開き瓦斯合併案を附議し大論戰の結果反對者廿二名に對し賛成者廿八名の多數を以て合併案可決(十二月一日)
 ●深川黒熊事件 十一月十二日拂曉東京深川平久町東京府河津課埋立地の一隅に於て殺害されたる黒熊屍體現はる洲崎黒熊事件として市中を騒がす(十二月九日)
 ●チナイナ浮揚 七月廿七日早朝房州白濱海岸に坐礁したる汽船チナイナ號は午後一時浮揚す(十二月十二日)
 ●雲右衛門音機 浪花節雲右衛門初めて音機に節を吹き込む一枚の吹込料金一千圓(十二月九日)
 ●伊東町大火 午後九時半伊東町伊豆郡伊東町字湯川森田新助方より發火し戸數百餘戸を燒きて翌午前一時鎮火す(十二月廿日)
 ●廿八議會開會 第廿八期帝國議會此日召集せられ大開會造を議長に選舉す廿七日開院式を舉行(十二月廿三日)
 ●瓦斯合併可決 東京瓦斯會社臨時總會を東京商業會議所へ開き千代田瓦斯合併の件を可決す(十二月廿七日)
 ●電車同業罷業 東鐵會社の配當金分配に對し不平の結果東京市内電車の車掌運轉手等大同同盟罷業をなし今夜市内交通機關杜絶す(十二月廿一日)

貿易露清貿易等に貢獻する所から予國光生命及大日本ホテル帝國ホテル取締役たり
 ●桂秀正(十一月六日) 年五十一從四位勳四等醫學士新潟縣の人明治廿一年侍醫に拜命し果進して侍醫局長事なる
 ●川上晉三(十一月十一日) 年四十八新派劇の卒先者始め自由黨壯士の群に投じ自由童子と稱して落語に和加に入る明治二十四年金泉五太郎と一座を組織し泉州堺の日に座に經國美談を興行して失敗す夫れより書生芝居を起し廿五年佛國に行き演劇觀察をなし歸朝後改良を加ふ日清戰爭劇流行の頃滿洲の好評を得東京神田三崎町に川上座を新築す廿二年委員叙さ歐米を巡業し歸つて正劇を標榜して起つお伽劇にも新に着手す實力大阪帝國座を經營し四十三年開場式を行ふ此日大阪に歿す
 ●銅小路在明(十一月廿四日) 正四位勳六等子爵東宮主事なり
 ●小村壽太郎(十一月廿六日) 年五十七從二位勳一等侯爵日向郡那珂郡本町に生る大學南校卒業後米國に遊學歸朝して列事なる明治十八年外務省に轉任す陸奧伯外相の折衝太師を擢んで清國公使書記官に任じ北京へ赴かし廿七年の際折衝機宜に適し時人之を稱す其後政務局長清國公使米國公使に轉任し季匪の亂に列國使臣會議に列し異彩を放つ第一次桂内閣に入り外務大臣となり日英同盟を締結して男爵を賜ひ廿七年の戰役に功あり大勳となり露國全權と和議を講ず第二次桂内閣の外相として各國の條約を改正し韓露併合に與つて力あり侯爵に陞叙す此日葉山に歿す
 ●古澤滋(十二月廿四日) 年六十五正三位勳二等貴族院議員高知縣の人農商務省參事官東京郵便電信學校長奈良帝國博物館長奈良石川縣知事に歴任す

一七六

(明治四十五年)

●電報解決 東京電鐵の車掌運轉手側委員と局長及協會社側役員會見の上協會社側役員清算人に配當すべき金額及豫備金十九萬六千圓を支出し是を車掌運轉手に分配する事に決し夜に入り一部運轉開始(一月一日)
 ●隣國大統領 孫逸仙南京にて大統領就任式を舉ぐ(一月一日)
 ●福島縣田村郡移村大字移(十一月一日) 一時發火し延焼七十餘戸(一月六日)
 ●船夫罷業 京濱間を往復する東京組合石炭回漕船頭一千五百名は運賃の事より同盟罷業を始む(一月十四日)
 ●大阪大火 午前零時分大阪南區難波新地遊廓四番町百草湯煙筒の火の粉の爲五番町烟筒置屋遊廓の三階に火あり南は下寺町二丁目北は上本町九丁目東は谷町九丁目西は難波新地四番町に延焼し午後零時四十分に至り漸く鎮火す焼失戸數五千二百六十八戸總損害高三千萬圓(一月十六日)
 ●維新史料 維新史料編纂委員會(一月十六日)
 ●參謀總長更迭 參謀總長を罷り長谷川大將其後任に親補さる(一月廿日)
 ●火藥爆發 午後二時五十分群馬縣群馬郡岩鼻村所在砲兵工廠岩鼻火藥製造所内火藥製造場に於て火藥爆發し職工數十名の死傷を出す(一月廿四日)
 ●千葉縣大火 千葉縣海上郡浦賀村字椎名内にて午前四時發火し六十戸を全焼す(一月廿五日)
 ●東京外債成立 東京市の外債は興業銀行の手を経て總額九百七十五萬五千磅發行價格九十八磅手取九十二磅半利子五分發行場所は倫敦に里祖育の三ヶ所の條件にて成立す(一月廿九日)
 ●局長奇禍 文部省實業事務局局長眞野文二は午前十一時十分腕車にて參謀本部前に來りし時腕車に衝突墜落

傷を負ひて人事不省となる後遺(一日廿日)
 ●淺草國技館 東京淺草國技館開館式舉行(二月五日)
 ●學習院火事 麹町區河町學習院女學部に於て紀元節の式終了後午前九時半頃本館二階の物置より出火同本館赤煉瓦二階建全部を烏有に歸せし損害高は數十萬圓に達す 兩陛下より御見舞品を賜ふ(二月十一日)
 ●清朝滅亡 清朝滅亡清國皇帝政を辭し袁世凱をして假政府を組織せしむ(二月十二日)
 ●チヨイト子節 此頃俗間傳説チヨイト子節流行す(二月十四日)
 ●土方伯光榮 伯爵土方久元は八十歳の高齡に達したるを以て特に宮中杖を許さる(二月十六日)
 ●二木樓殺 東京芝區二木樓西町一番地に一家の慘殺あり被害者は博文館營業部員今井淳及其妻お花加害者は同居人西村昇(二月十七日)
 ●飲酒取締 衆議院にて未成年者飲酒取締法案可決す(二月廿一日)
 ●三教合同 內務省計畫の神佛三教代表者の大懇談會を華族會館に開く(二月廿五日)
 ●三教決議 三教代表者此日華族會館に會し「吾儕は各々其教義を發揮し皇運を扶翼し益々國民道徳の振興を圖らんことを期す吾儕は當局者が宗教を尊重し政治宗教及教育の間に融和し國運の伸張に資せられん事を望む」の決議をなす(二月廿六日)
 ●贈位 舊信州松代藩主藩石見國津和野藩祖藩祖前平戸藩祖藩上州館林藩祖を始め舊薩長土肥四藩并に豊後房州各藩及京都大阪地方の勤王志士其他功勞者四十名に對し特旨を以て贈位の御沙汰あり(二月廿六日)
 ●日佛條約 日佛通商航海條約及附屬議定書發表す(二月廿八日)
 ●山陰線開通 山陰鐵道線全線開通す(三月一日)

●東久世通順(一月一日) 年八十從一位勳一等伯爵幼名を保丸と稱し九歳にして宮中に出仕す王政復古の大業に奔走し幕府の遺忠に觸れ文久三年八月三條實美等と京都を脱し長州に入る明治元年王師東征參謀となり後諸官を歴任して侍從長元老院議員官副議長等に累進す廿一年樞密顧問官廿二年第一期帝國議會に貴族院副議長たり又樞密院副議長に任ぜらる竹亭の號あり
 ●伊地知茂次郎(一月三日) 年五十四正四位勳二等功三級海軍中將舊鹿兒島藩士日清戰役には橋立分隊長日露戰役には聯合艦隊の旗艦三笠の艦長たり
 ●岩佐純(一月五日) 年七十八從二位勳一等男爵福井藩士明治二年大學少丞に任じ漸次進み五年召されて大侍醫なる廿一年宮中顧問官を兼ね四十四年一月病を以て侍醫を辭す天皇優詔して特に宮中杖を許さる四十五年一月五日豐明殿の宮中新年宴會に參列し其場に於て俄然卒倒し午後四時自邸に於て歿す
 ●木村庄之助(一月六日) 年六十四相模行司十六代目庄之助なり三河豐橋の人
 ●塚本勝造(一月十五日) 年六十六從二位勳一等功二級陸軍中將男爵美濃大垣に生る日清戰役には第六聯隊長として轉戦廿九年陸軍大學校長廿三年北清事變に出征し日露戰役中將に昇る此日金澤に歿す
 ●大草嘉實(一月廿日) 年五十六淺草本願寺別院院僧なり京都の人歐米諸國の免因保護事業の盛なるを見て歸朝後大草免因保護所を設立す
 ●征矢野半彌(二月九日) 年五十五明治廿二年福岡日日新聞社長となり廿七年衆議院議員に擧げらる
 ●下山厚一(二月十四日) 年六十三從三位勳二等醫學博士東京帝國大學醫學科大學教授たり尾州大山の人藥學界に貢獻する所甚々多く藥學界の恩人たり
 ●守山恒太郎(二月十二日) 年卅三宇都宮步兵五十六

一七七

●今川橋開橋 東京神田區今川橋竣工開通式を挙ぐ(三月一日)

●東比叻三百年祭 此日より讃岐金比羅神社三百年記念式を執行す(三月一日)

●明治大學火災 東京神田區河原町の明治大學は午後十時四十分頃記念大講堂より出火し同講堂及附屬中學校舎及圖書室を烏有に歸す同日午前一時廿分頃火(三月五日)

●婦女表彰 三輪田重彦子桐橋桐子は何れも數十年間女子教育界に貢獻せる所甚偉大なるにより勳六等に叙せられ褒章を授けらる(三月九日)

●産神社遷移 夜十一時頃新潟縣西蒲原郡産神村出火し廿二戸を燒き同郡中社産神社に遷移し舊産神村出火全部焼失す(三月十一日)

●大講堂竣工式 宣世凱は官邸に於て竣工式舉行(三月十日)

●小松宮銅像 上野公園舊鐘樓の地に於て故小松宮彰仁親王銅像除幕式を挙ぐ(三月十八日)

●坪内博士表彰 文部省に於て文藝委員會の推舉に依る文學博士坪内雄策の表彰式を舉行し賞牌及金貳千貳百圓を授けらる(三月十九日)

●洲崎火災 午後五時五十分東京深川洲崎遊樂中村樓より失火貨座數六十三戸其他八十六戸即ち席内約半を燒き席に飛火し外西井町其他にて千餘戸燒く(三月廿一日)

●師範校火災 午前零時東京府豊島郡東町村字池袋東京府豊島師範學校寄宿舎より出火し同校全部を燒き併ひ附屬小學校及私立成蹊實業學校をも燒き生徒二名無事の死を遂ぐ(三月廿三日)

●講堂開式 第廿八期議會開院式(三月廿六日)

●東宮見學 東宮殿下には近衛歩兵第十一旅團演習御見學の爲午前十一時五十分新宿御發車甲州地方に向はせらる(三月廿七日)

●東宮代價金 東宮代價金六千六百圓を三井銀行に於て支拂を開始す(三月廿八日)

●木更津線開通式 木更津線蘇我站々時開通式を挙ぐ(三月廿九日)

●吳同盟罷業 吳工廠の職工は共濟會基金處分に關し工廠幹部と意見衝突し廿九日より同盟罷業す(三月廿日)

●同志社大學 此日同志社大學開校式(四月一日)

●萬世橋開通 東京萬世橋停車場の開通式を舉行す(四月一日)

●吳海軍工廠 吳海軍工廠の同盟罷業擴大し鉄動者二千五百名に達す(四月一日)

●本門寺開堂式 此日より六日の間池上本門寺に於て開堂式を行ふ(四月二日)

●吳罷業擴大 吳罷業擴大により其勢は高壓手段による事に決し十五名の首謀者を拘留したるより漸く効を奏し此日より全部出勤す(四月四日)

●折衝火災 午後二時北海道函館區音羽町綿打葉川村折衝火災より出火し延焼五百餘戸(四月十二日)

●御歌所長心得 候時久我通久は御歌所長心得御付らる(四月十三日)

●近衛軍兵出火 午後七時四十分東京牛込區若松町陸軍山學校裏手なる新築近衛軍兵隊の假舎より出火し假舎五棟外四棟を燒失し軍馬六頭燒死すは其上火の燒死を恐れて百九十六頭を一時に解放せしかば軍馬市中に狂ひ騷擾を極む午後八時燒火(四月十四日)

●名古屋天災 名古屋を中心として暴風大雪あり午前十一時下り列車は鴻川附近に於て吹飛ばされ貨車十五輛轉覆(四月十九日)

●金剛進水 英國民社造船所に於て金剛の進水式を行ふ總噸數二萬七千五百噸速力廿七節(五月十八日)

●無線電信表彰 無線電信の發明者暹羅電氣局技師島瀨右一横山英太郎同技師北村政次郎の表彰式を東京京橋區帝國發明協會に於て舉行(五月十八日)

●同志社大學開校式 京都同志社は本學年より大學組織を構成し此日開校式を挙ぐ(五月十九日)

●本編取締法 メチルアルコールは人身に害あるを以て内務省令を以て取締規則を發布(五月廿八日)

●山陰線開通式 山陰線開通式を午前十時鳥取市舊城山に於て舉行(六月一日)

●朱舜水二百五十年祭 朱舜水二百五十年祭を舜水終焉の地たる第一高等學校内に挙ぐ(六月二日)

●市長計表 東京市長尾崎行雄計表提出(六月十三日)

●京都三大事業 工費貳千萬圓を投じたる京都第二疏水上水道道路擴充電氣敷設の三大事業竣工祝賀式を平安神宮に挙ぐ(六月十五日)

●博文館廿五年記念 帝國劇場に於て午後四時半より博文館創業廿五年記念祝宴を開く(六月十五日)

●東海道特別列車 此日午前八時より東海道線特別急行列車運轉す(六月十五日)

●安針記念時 安針記念除幕式を横須賀市逸見塚山公園内に於て舉行(六月十六日)

●列車衝突 午前十一時分東海道線大塚驛構内にて清國守備隊を載せたる列車と貨物列車衝突し乗客の第十四師團兵七名死し其他重傷十九名輕傷廿二名を出す(六月十七日)

●米價暴落 此頃米價騰貴し細民の困難甚しく白米商人の不正辨を用ひるものを檢察す(六月十八日)

●開南丸歸着 南極探險船開南丸は十九日午後六時半横濱に歸着此日午後二時東京に入る(六月廿日)

●松本大火 午前二時松本市上横田町の正行春前舖製造業小日向近太郎より出火し全燒一千五百戸午後五時市內殆んど三分の一を失ふ(四月廿二日)

●關東都督 福島安正關東都督となる(四月廿六日)

●現在華族 現在華族の戸口調によれば公爵十七戸侯爵廿七戸(内未丁年者二戸)伯爵百一戸(内未丁年者九戸)未履爵者一戸子爵三百七十八戸(内未丁年者廿二戸)未履爵者二戸男爵三百八十六戸(内未丁年者廿二戸)未履爵者一戸(四月廿日)

●樺太中學校開校 豊原の樺太中學校開校す(五月二日)

●四ツ街道行幸 聖上陛下午前九時十分御出陣千葉縣四ツ街道なる陸軍砲兵射擊學校へ行幸(五月三日)

●東宮運啓 東宮殿下は參謀本部參謀旅行演習御見學の爲去月廿二日東京御發進賀三重閣縣下に行啓中の所此日午後六時分新橋運啓(五月五日)

●瑞透皇坊 東京中の瑞透皇坊ソルテマール親王御訪問の爲費々關離宮へ行幸(五月九日)

●恩賜授賞者 帝國學士會院に於て舉行せる恩賜授賞者は法學博士文學博士石賀長雄(壹千圓)宮土川游(壹千圓)平瀬作五郎理學博士池野成一郎(壹千圓)又學士會院授賞者は工學博士藥學博士高味謙吉(壹千圓)(五月十二日)

●京大總長 理學博士久原野津京都大學總長に任ず(五月十三日)

●衆議院議員總選舉 此日衆議院議員總選舉を行ふ代議士三百八十二人の内政友會二百七十七人(五月十五日)

●早稻田行啓 東宮殿下は御見學の爲午後三時早稻田大學に行啓あらせらる本邦私立專門學校への行啓は之れを嚆矢とす(五月十七日)

●慶應圖書館 慶應義塾創立五十年記念圖書館の開館式を挙ぐ(五月十八日)

●見學の爲午前十一時五十分新宿御發車甲州地方に向はせらる(三月廿七日)

●東宮代價金 東宮代價金六千六百圓を三井銀行に於て支拂を開始す(三月廿八日)

●木更津線開通式 木更津線蘇我站々時開通式を挙ぐ(三月廿九日)

●吳同盟罷業 吳工廠の職工は共濟會基金處分に關し工廠幹部と意見衝突し廿九日より同盟罷業す(三月廿日)

●同志社大學 此日同志社大學開校式(四月一日)

●萬世橋開通 東京萬世橋停車場の開通式を舉行す(四月一日)

●吳海軍工廠 吳海軍工廠の同盟罷業擴大し鉄動者二千五百名に達す(四月一日)

●本門寺開堂式 此日より六日の間池上本門寺に於て開堂式を行ふ(四月二日)

●吳罷業擴大 吳罷業擴大により其勢は高壓手段による事に決し十五名の首謀者を拘留したるより漸く効を奏し此日より全部出勤す(四月四日)

●折衝火災 午後二時北海道函館區音羽町綿打葉川村折衝火災より出火し延焼五百餘戸(四月十二日)

●御歌所長心得 候時久我通久は御歌所長心得御付らる(四月十三日)

●近衛軍兵出火 午後七時四十分東京牛込區若松町陸軍山學校裏手なる新築近衛軍兵隊の假舎より出火し假舎五棟外四棟を燒失し軍馬六頭燒死すは其上火の燒死を恐れて百九十六頭を一時に解放せしかば軍馬市中に狂ひ騷擾を極む午後八時燒火(四月十四日)

●名古屋天災 名古屋を中心として暴風大雪あり午前十一時下り列車は鴻川附近に於て吹飛ばされ貨車十五輛轉覆(四月十九日)

●金剛進水 英國民社造船所に於て金剛の進水式を行ふ總噸數二萬七千五百噸速力廿七節(五月十八日)

●無線電信表彰 無線電信の發明者暹羅電氣局技師島瀨右一横山英太郎同技師北村政次郎の表彰式を東京京橋區帝國發明協會に於て舉行(五月十八日)

●同志社大學開校式 京都同志社は本學年より大學組織を構成し此日開校式を挙ぐ(五月十九日)

●本編取締法 メチルアルコールは人身に害あるを以て内務省令を以て取締規則を發布(五月廿八日)

●山陰線開通式 山陰線開通式を午前十時鳥取市舊城山に於て舉行(六月一日)

●朱舜水二百五十年祭 朱舜水二百五十年祭を舜水終焉の地たる第一高等學校内に挙ぐ(六月二日)

●市長計表 東京市長尾崎行雄計表提出(六月十三日)

●京都三大事業 工費貳千萬圓を投じたる京都第二疏水上水道道路擴充電氣敷設の三大事業竣工祝賀式を平安神宮に挙ぐ(六月十五日)

●博文館廿五年記念 帝國劇場に於て午後四時半より博文館創業廿五年記念祝宴を開く(六月十五日)

●東海道特別列車 此日午前八時より東海道線特別急行列車運轉す(六月十五日)

●安針記念時 安針記念除幕式を横須賀市逸見塚山公園内に於て舉行(六月十六日)

●列車衝突 午前十一時分東海道線大塚驛構内にて清國守備隊を載せたる列車と貨物列車衝突し乗客の第十四師團兵七名死し其他重傷十九名輕傷廿二名を出す(六月十七日)

●米價暴落 此頃米價騰貴し細民の困難甚しく白米商人の不正辨を用ひるものを檢察す(六月十八日)

●開南丸歸着 南極探險船開南丸は十九日午後六時半横濱に歸着此日午後二時東京に入る(六月廿日)

●聯隊附陸軍一等軍醫督つて我國野球界の左利の名投手として名聲あり

●松永正純(二月十六日) 年六十六正三位勳一等功二級男爵陸軍中將熊本の人總庄屋の給仕の如きものより身を起し陸軍に出仕し臺灣西南日清の各役に出戦し殊に日露役に際し陸軍少將第三旅團長として在り流の夜露に殊功あり奉天戰役後中將に進み四十二年朝鮮討伐を命ぜらる此日午前京城官邸に逝く

●三浦(二月十六日) 年七十八憲國スモレンスク縣ペーレイ郡マヨイヤ、エゴリエ村に生る偶日本國四日記を纏き日本を愛するの念熱く我文久元年七月に來朝し天より日本の文學宗教を熱心に研究し我國の精神界宗教界に貢獻する處實に多し

●林(二月十八日) 年五十三東京赤阪醫家林家無最上人福岡縣立病院院長となり福岡に醫科大學設立せらるや教授兼學長たり四十四年九州大學の成るや其名聲教授となる福岡に歿す

●西(二月廿日) 年六十七正二位勳一等功二級陸軍大將子爵陸軍少將功に於て學童となり藩主に近侍す伏見島より諸職に従軍し功あり日清戰役には陸軍少將第二旅團長として金州方面に功あり廿九年威海衛占領軍司令官となり後中將に進み日露戰役には第一軍に屬し戰時中將に進み奉天戰役に敵の逆襲を御く戦後滿洲駐屯軍司令官となり又教育總監に轉じ軍事務官に補せらる

●高崎正風(二月廿八日) 年七十七正二位勳一等男爵天保七年七月鹿兒島に生る風に八田知紀に歌道を學び造詣深し幕末時代國事に奔走す明治四年少壯官に任じ尋で歐米各國を視察す九年御歌掛を拜命十九年御歌掛長を命ぜらる廿年男爵を授けられ廿二年宮中顧問官に

●八年福密顧問官として永く御歌所長を勤め和歌を以て寵眷を受く

●池邊吉太郎(二月廿八日) 年四十九新聞記者なり三山又は鐵道論を著す熊本の人池邊吉太郎の長男明治廿六年福澤主編川と共に佛蘭西に遊び廿九年大阪朝日新聞の主筆廿年東京朝日新聞の主筆たり

●鷲尾(三月四日) 年七十一正二位勳二等伯爵東京都に生る明治二年陸軍少將に任せられ同三年より十年まで五條縣若松縣愛知縣等の縣令となり十五年元老院議員御付けらる晩年は落魄して牛込神樂坂に陋居す

●長谷川(三月十一日) 年七十一從四位勳三等實業院院長内務省衛生局長に歴任す又明治九年濟生學舎を設立す其生徒にして醫師登錄に掲載されし者全國に於て六千名を超ゆ衆議院議員及び東京市會議員にも選ばる醫界に盡す所甚多し

●岡田次郎(三月十三日) 年六十六正二位勳一等男爵鹿兒島の人明治十九年特命全權公使に任じ露都に駐劄す廿年福密顧問官に任じ同十一月外務大臣となり廿二年特命全權公使として清國差遣の時恰も北清事變あり

●梅浦精一(三月十七日) 年六十一東京の實業家

●本多(三月廿六日) 年六十五青森縣弘前の人專心布教に力を用ひ青山學院長として育英の事業に力じ美以三派の合同を圖り更に基督教同盟會を組織す病を以て長時に逝く

●高田小次郎(三月廿八日) 年六十六第百銀行頭取

●藤田三郎(三月廿日) 年七十二從四位勳二等男爵長州藩の人高杉晋作に従ひ國事に奔走す明治二年大阪に出て實業界に身を投ず藤田組を起し廿六年藤田組を合名會社組織に改め自ら社長となり傍ら公私の事業に幹旋し盡す所多し實業界の巨人たり十年後の翌日事件日清戰役後の岡山山開運世上を騒がす

●美術審査委員 文部省公設展覽會開設につき新に審査委員四十九名任命(六月廿一日)
 ●官廳記念碑 東京府目黒にて青木長陽記念碑の竣工式を挙行す(六月廿三日)
 ●能代大火 午後七時半秋田縣山本郡能代遊樂納屋清一邸より出火し百廿七戸を焼く(七月一日)
 ●日精修繕 日精事件重役磯村音介秋山一裕に係る裁判は名古屋控訴院に於て兩名共懲役三年の判決を言渡さるるを最後の判決とす(七月四日)
 ●桂公出陣 桂公後藤若槻副次郎等一行は午後七時新橋出發渡歐の途に就く(七月六日)
 ●將軍銅像 陸軍大學校構内に於けるメツケル將軍の銅像は竣工し除幕式を挙行(七月七日)
 ●外國米試食 米價騰貴の爲め外國米の食用行はれ東京市にては外國米試食の方法を決議す(七月八日)
 ●花嫁女史表彰 跡見花嫁女史は廿八年間女子教育に邁進するを以て勳六等寶冠章を下賜さる(七月八日)
 ●外國米賣出 米價騰貴の結果各地に於て外國米賣出盛んに行はる(七月九日)
 ●米價騰貴 過日來米價益々騰貴して細民困窮甚しく救助の議起る(七月九日)
 ●米運賃割引 鐵道院にては七月十日より九月末日迄細民救助米に限り運賃を割引す(七月十日)
 ●東京新市長 東京市長尾崎行雄六月十三日辭職提出したるより坂谷芳郎を後任に推したるに此日認可(七月十二日)
 ●濟生會診察規程 恩賜財團濟生會東京市診察規程發表さる(七月十六日)
 ●大阪市長辭職 植村大阪市長は九條高津線電氣敷設問題に關し原内相會見の後辭職提出(七月十七日)
 ●浪速沈没 軍艦浪速六月廿七日千島沖に坐礁し爾來

浮揚準備に従事せし此日遂に沈没す(七月十八日)
 ●新大橋開橋 東京新大橋開橋式を挙行(七月十九日)
 ●樺太鐵道全通 樺太鐵道大泊榮町より東海岸榮濱に至る五十六哩間の全通式を正午より豊原驛構内に舉行す(七月廿日)
 ●聖上御重恙 聖上陛下は去る十四日より胃腸に御故障あらせられ十八日より御重恙にかゝらせ給ふ旨此日宮内省より發表す次で此日午前九時東京帝國大學醫科大學教授青山胤通同三浦謙之助の診察の上尿毒の御症たる旨上申に及ぶ(七月廿日)
 ●天皇陛下崩御 寶算六十一歳午前一時十分宮内省公表によれば廿九日午後八時より御病狀漸次悪しく同十時頃に至り御脈次第に微弱に陥らせられ御呼吸は益々淺薄となり御昏睡の御状態は依然御持續遊ばされ遂に今日午前零時四十三分心臓麻痺により崩御遊ばさる誠に恐懼に堪へず同青山三浦西郷相繼森永田澤櫻田高田拜訃(七月廿日)
 ●新帝踐祚 天皇陛下崩御につき皇太子嘉仁親王殿下直ちに踐祚あらせられ祖宗傳承の神器を受けさせ給ふ同時に同紀殿下は皇后の宮に册立皇后陛下は皇太后陛下と改稱し奉ることなれり(七月廿日)
 ●廢朝 新帝陛下は大行天皇崩御に付き廿一日より向ふ五日間及大葬當日廢朝あらせらるべき旨仰出さる(七月廿日)
 ●改元 此日樞密顧問官の諮詢を経て大正と改元せらる其詔書左の如し(大正元年七月廿日)
 朕非徳を以て大統を承け祖宗の靈に語けて萬機の政を行ふ茲に先帝の定制に遵ひ明治四十五年七月廿日以後を改めて大正元年とす主者施行せよ

●石本新六(四月二日) 年五十九正三位勳一等功二級陸軍中將男爵播磨州姫路に生る陸軍士官學校出身十二年歐洲各國に遊び廿六年陸軍大官に任じ廿七年中將に陞り四十四年陸軍大臣となる此日午後一時官邸に逝く
 ●岸本長雄(四月四日) 年六十一法學博士明治大學校長なり因幡島取に生る明治二年大學南校に入り司法者最初の留學生に選ばれ佛國に留學し歸朝後司法官を勤め新法典の編纂に従事し十四年明治法律學校を起し明治大學をなし法律教育に貢獻す此日午後三時四十分東京警署橋場附近にて電車内に卒倒して逝く
 ●三井三郎助(四月七日) 年六十三銀行合資會社長なり
 ●小田嘉代(四月廿五日) 年四十九從四位勳二等功三級海軍少將佐賀縣唐津の人海軍將校中水雷科出身にて日露の際小田式水雷發明の功あり
 ●中澤彦吉(五月六日) 年七十四東京の實業家
 ●岡本柳之助(五月十四日) 年六十一和歌山藩士江戸に生る西南戰爭に出征して功あり陸軍少佐に進む十一年竹橋暴動の折首魁を以て目され刑に處せらる其後朝鮮支那の事に就いて奔走し四十四年清國革命起るに及んで渡清し此日上海豐陽館に逝く
 ●李容九(五月廿二日) 年四十五朝鮮慶尙北道蔚州郡の人一連會を組織し自ら會長となり親日主義を鼓吹す兵庫縣須磨に歿す
 ●高橋廣湖(六月二日) 年卅八畫家通稱久馬記
 ●松尾龜入(六月十四日) 年六十明治十一年渡來して西洋奇術を研究す廿二年赤十字社總會に於て 皇后陛下の台覽を西郷邸にて天覽を賜ふ
 ●齋藤武夫(七月六日) 年五十九正四位勳三等貴族院議員中央大學法學博士なり若手齋藤剛の人法典調査に功あり法學院を創設し後中央大學となす

頁數	行	誤	正
二下	九	會津藩士	會津藩士
三上	一七	太政復古	太政復古
三下	二二	間瀬源七郎	間瀬源七郎
四上	一〇	用間敷	用間敷
四下	九	戊辰の後	戊辰の後
五上	五	封堂版籍	封土版籍
五中	一三	領布し	領布し
六中	八	船若院	船若院
六中	二四	民部省札	民部省札
六下	四	銃丸に當り	銃丸に當り
六下	二二	白頭指由ならず	頭指自由ならず
七上	二六	梨本神社	梨本神社
八上	二三	兵部大丞	大丞
九上	一一	(十一月十四日)	(十一月十四日)
一〇上	一一	幣政を定む	幣制を定む
一〇中	二〇	新貨條例は江湖新聞創刊の項の次に來る可き者	許さる
一一上	一五	(十月十四日)	(七月十四日)
一一中	二	横須賀行幸	横須賀行幸
一二中	五	好通商航海	修好通商
一三中	六	十五間幅に且	十五間幅にし
一三中	一三	眞宗改稱、十四行の禁聲の二項は教部省新設の項の次に來る可き者	
一三中	二九	植村 横村	

頁數	行	誤	正
一三下	二一	知事となり	知事となる
一三下	二八	今上の諮詢	聖上の
一四下	四	史官に拜す	史官となす
一五中	一八	銀行	頒布
一六中	一九	四月廿二日定る	議る
一七上	二二	御引率	御引率
一七中	二四	歐洲より	歐洲より
一九上	一九	御出立	御發遣
二〇上	一一	東京橋馬車道	馬車道
二〇下	一〇	臺灣黨の會社	臺灣黨の會社
二二下	一四	會社となる	會社となる
二二下	二五	東照神社	東京招魂社
二二下	二五	歐洲樂曲學習	歐洲
二四下	九	卒先して	率先して
二五上	四	且毎十五ヶ年	毎年十五ヶ年
二五上	五	清運の業	運清の業
二五上	一〇	江華島事件は十三行華族會館開館の項の次に來るべき者	之に更る
二六中	二九	之に代る	之に更る
二七上	三	開業す	開始す
二九中	二六	角艦	角艦
二九下	一五	上田淇亭	上田淇亭
二九上	一四	華族部局長	華族部局長
二九中	二	警報行至る	警報行在に至る

頁數	行	誤	正
二九中	一二	天城遺水は卅頁廿一行の項を重複す即ち十二行の項を除く	
三〇中	九	陰謀露見	露見
三〇下	一五	山中に寓す	寓す
三一上	九	之を問ふ	訪ふ
三一中	三	官軍佐土原	官軍佐土原
三一中	一七	官軍入島	官軍入島
三五上	七	花房義實行て	往て
三五下	六	願りに	願りに
三七上	一	ハインドリツヒ	ハインリツヒ
三八上	三	曹洞祖道元禪師	曹洞宗祖道元禪師
三九下	一九	同業者(傳へ)	傳へ
四〇中	二七	蓬阪山墜道	墜道
四二上	六	華山資紀	華山
四三中	三	櫻門まで	櫻門
四四下	一〇	政に遇ひ	教に
四四上	二八	四十五年	大正元年
五二上	五	北齊の畫法	北齊
五二下	五	北齊の畫法	北齊
五三上	四	爆烈彈	爆烈彈
五三上	五	爆烈彈	爆烈彈
五三中	一七	(十二月十七日)	(十二月十七日)
五五上	一一	(五月五日)	(五月七日)
五六上	一二	(十月廿四日)	(十二月廿四日)
五九下	五	琴通會康樂	琴通會康樂

六二	中	二七	の項の次に来るべき者	六二	中	二七	の項の次に来るべき者
六三	下	〇	代理を譲る	六三	下	〇	代理を譲る
六四	中	一〇	上野公園	六四	中	一〇	上野公園
六五	中	九	興正寺被産	六五	中	九	興正寺被産
六六	中	五	二師團脱兵	六六	中	五	二師團脱兵
六七	中	二八	拜し給ひたき	六七	中	二八	拜し給ひたき
六八	上	一	衆議院議員	六八	上	一	衆議院議員
六九	上	一四	子男廿名	六九	上	一四	子男廿名
七〇	上	二五	兩族解散	七〇	上	二五	兩族解散
七一	上	三二	華族館移轉	七一	上	三二	華族館移轉
七二	下	一九	神波即山	七二	下	一九	神波即山
七三	下	二四	陸軍大將	七三	下	二四	陸軍大將
七四	中	二二	田中不二	七四	中	二二	田中不二
七五	上	二二	創刊	七五	上	二二	創刊
七六	中	五	(十一月一日)	七六	中	五	(十一月一日)
七七	中	四	(十月十四日)	七七	中	四	(十月十四日)
七八	上	三〇	旅須口	七八	上	三〇	旅須口
七九	上	一六	代りて	七九	上	一六	代りて
八〇	中	二一	座敷す	八〇	中	二一	座敷す
八一	下	二四	流寓す	八一	下	二四	流寓す
八二	上	二五	大隅重信	八二	上	二五	大隅重信
八三	上	二一	植村正直	八三	上	二一	植村正直
八四	中	一五	板垣辭爵の項は一行愛宕越水式	八四	中	一五	板垣辭爵の項は一行愛宕越水式
八五	中	二七	(十月五日)	八五	中	二七	(十月五日)
八六	中	二七	(十月五日)	八六	中	二七	(十月五日)
八七	中	二七	(十月五日)	八七	中	二七	(十月五日)
八八	中	二七	(十月五日)	八八	中	二七	(十月五日)
八九	中	二七	(十月五日)	八九	中	二七	(十月五日)
九〇	中	二七	(十月五日)	九〇	中	二七	(十月五日)
九一	中	二七	(十月五日)	九一	中	二七	(十月五日)
九二	中	二七	(十月五日)	九二	中	二七	(十月五日)
九三	中	二七	(十月五日)	九三	中	二七	(十月五日)
九四	中	二七	(十月五日)	九四	中	二七	(十月五日)
九五	中	二七	(十月五日)	九五	中	二七	(十月五日)
九六	中	二七	(十月五日)	九六	中	二七	(十月五日)
九七	中	二七	(十月五日)	九七	中	二七	(十月五日)
九八	中	二七	(十月五日)	九八	中	二七	(十月五日)
九九	中	二七	(十月五日)	九九	中	二七	(十月五日)
一〇〇	中	二七	(十月五日)	一〇〇	中	二七	(十月五日)

大正三年四月三日印刷
大正三年四月十日發行

明治六年表
定價金壹圓五拾錢



編者 小川多一郎
發行所 吉川弘文館
印刷所 千代田印刷株式會社

東京市京橋區新榮町五丁目三番地
代表者 吉川半七

發行所

東京市京橋區新榮町五丁目三番地

合資會社

吉川弘文館

電話特京橋二九九番
振替東京二四四番

三越呉服店

■ 町 河 駿 京 東 ■

三越呉服店は東洋に於ける最大なるデパートメント、ストアとして、其名已に世界を通じて汎く傳へらる。デパートメント、ストアとは呉服、太物、洋服を始め、あらゆる人間の必要品を販賣する所なり。而して日本に於て最も先して之を開始せるは我三越呉服店なり。實にや三越は其總ての點に於て卒先者なり。最も早く陳列式を採用し、現金掛直なしに改めたるも三越なり。最も早く自動車を用ひ、又はメッセンジャーボーイ自動車隊を利用して御買上用品を配達するも三越なり。最も早く窓飾を開始せしも三越なり。最も早く兒童博覽會を開きたるも三越なり。最も早く地方人士の便を圖り、手紙にて注文あれば直に之を送り届くる制を設けたるも三越なり。毎年二回新柄の陳列會を開き新しき織物を世に紹介せるも三越なり。其他世に先ちて始めたもの數ふるに違あらざるなり。

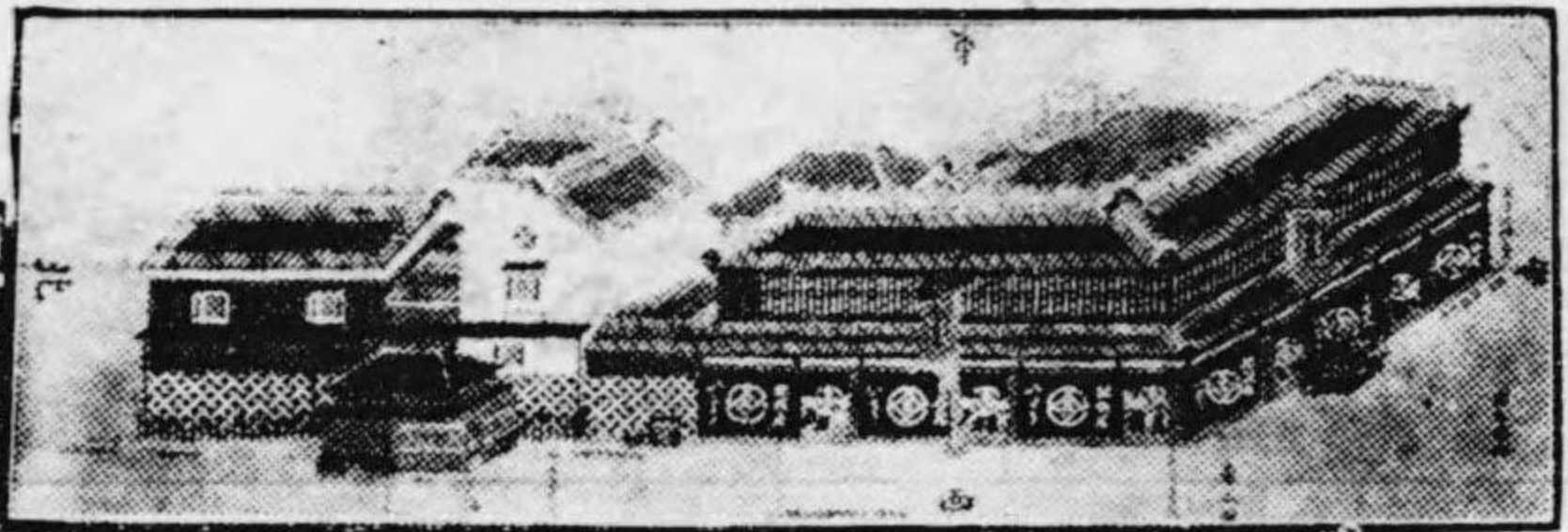
三越呉服店は今や鐵骨の七層の大建築中なり。圖中三越の假營業所の左方の彼方に見ゆるもの即ち是れ。大正三年秋竣工の筈なれば、東京市中更に一大高廈の巍然として駿河町に聳ふるを誇るを得べし。

三越呉服店は明治年代を飾るべき明治の代表的小賣店なり。各位の御來觀を待つ。

(所業營假)店服吳越三の今現

(身前の越三)屋後越の前年百二





(上圖)明治初年の松坂屋呉服店
(下圖)大正二年増築中の同店

○本店は名古屋榮町に在り慶長十六年名古屋開府と同時の創業なり。
 ○支店松坂屋は寶永四年の開設に係る。(東京下谷上野廣小路)
 ○松坂屋は舊幕時代は東叡山御用達にて維新の際には西郷の陣地となり後有栖川總督宮より御墨付を頂戴せり。
 ○松坂屋は安永元年二月類焼以後安政二年大地震の際に至るまで前後四回の類焼に遇ひたるも店運よく遂に今日を來せり。
 ○安政の類焼に際しては木口は勿論土藏の壁土に至るまで凡へて尾張より運搬して改築したり今日の本館は即ちそれなり。
 ○明治四十年伊藤次郎左衛門個人の經營を更めて合資組織となす同時に洋館を増築して總て陳列式となし漸次デパート式となせり。
 ○四十三年更に株式會社となし大正二年に至り四階の洋館を増築し將來本建築落成後の事務室たるべきものたり。

松坂屋
 いとこう呉服店



337
205

終